

# 獨逸語大講座

第二卷

關口存男監修

Der Große Kursus

der

Deutschen Sprache

Band II.

Gaitotogo Rentiuscha : Tokio

## 第十三講

### 動詞の三要形

動詞ほど其の用途の廣いものはない。文法は殆んど動詞に関する研究です。或は過去現在未來等の時稱、或は人稱變化、或は能動受動の使ひ分け、或は格支配と云つたやうに、研究すべき項目が随分多い上に、その場合によつて、色々に其の形態を改めるので、最初に先づそれら凡ての基本となる可き形態をはつきりと考へてからないと、途中で混亂を來たす懼れがあります。

動詞はその場合に従つて諸種の形を探るが、その根本はやはり不定法の語幹であつて、此の語幹に諸種の語尾をつけて行くのです。だから、大抵の場合には、不定法の語幹を知つてゐて、その上一般的な規則に通じてゐれば、その諸種の形態なるものを、場合に従つて組み立てて行く事が出来る筈です。

ところが、それは所謂規則動詞の場合に限るのであつて、不定法の語幹以外になほもう二個の語幹を知つてゐないと駄目な事があります。後者を稱して不規則動詞と謂ひます。たとへば *gehen* (行く)といふ動詞は、過去に於ては、たとへば *ich ging* (私が行つた)といふ。英語の *go, went* の場合と同様、此の *ging* は、*gehen* の *geh-* とは何の關係もない。たださう云ふものだと思つて、此の動詞だけに就いて暗記するより仕方がない。いくら文法上の規則を知つてゐても、*gehen* から *ging* は断じて推定する事が出来ません。極端に云ふと、*geh-* と *ging* とは全然別個の單語なのです。

結論を云ふと、普通の規則動詞は不定法の形のみ知つてゐれば、餘の形は一般的規則で以て察知する事が出来る。不規則動詞の場合にあつては、三つの要形なるものを知つてゐないと、その動詞の語幹を知つてゐると云ふ事にはならないのであります。

105. 三要形とは何々ぞや?

は 1. 不定法 —— 2. 過去〔所謂半過去〕 —— 3. 過去分詞の三つです。

英語をやつた人には申し上げる  
までもないが、三要形といふの

## 106. 英語と似てるる

英語で規則的な三要形を持つてゐるのは、獨逸語に於ても規則的、不規則動詞もその通りです。もつとも極く少數の例外はあります。

## 107. 規則動詞の三要形

三要形は、つまり不規則動詞の場合に必要なので、規則動詞の場合には不定法さへ知つておれば好いのですが、まづ三要形に對する一般的な概念を作るために、規則動詞の三要形を表示して見ませう。例は一つだけでも構はない譯ですが、なんだか頗りない氣がすると不可ないから、少し澤山陳列してお目に懸けませう。

不定法	過去	過去分詞	意味
lieb-en	lieb-te	ge-liebt	愛する
lob-en	lob-te	ge-lob-t	褒める
leb-en	leb-te	ge-leb-t	生きる
lach-en	lach-te	ge-lach-t	笑ふ
wein-en	wein-te	ge-weint	泣く
lern-en	lern-te	ge-lern-t	學ぶ
spiel-en	spiel-te	ge-spiel-t	遊ぶ
such-en	such-te	ge-such-t	探す
wander-n	wander-te	ge-wander-t	徒歩する
reis-en	reis-te	ge-reis-t	旅行する
setz-en	setz-te	ge-setz-t	置く
wohn-en	wohn-te	ge-wohn-t	住む
ehr-en	ehr-te	ge-ehr-t	尊敬する

(以下は細部に注意すべし)

acht-en	acht-ete	ge-acht-et	尊敬する
wart-en	wart-ete	ge-wart-et	待つ
bild-en	bild-ete	ge-bild-et	形作る
bad-en	bad-ete	ge-bad-et	沐浴する
ge-hör-en	ge-hör-te	ge-hör-t	屬する
ge-horch-en	ge-horch-te	ge-horch-t	服従する
ver-teidig-en	ver-teidig-te	ver-teidig-t	防ぐ
be-such-en	be-such-te	be-sucht	訪問する
zer-stör-en	zer-stör-te	zer-stört	壊す
er-reich-en	er-reich-te	er-reicht	達成する
miß-brauch-en	miss-brauch-te	miss-braucht	濫用する
regier-en	regier-te	regiert	支配する
passier-en	passier-te	passiert	出來する
analysier-en	analysier-te	analysiert	分解する
variier-en	variier-te	variier-t	變化をつける
propagier-en	propagier-te	propagiert	弘める

上の例を綜合すれば歸納的にわかる筈ですが、規則動詞の三要形を作る時的一般的法則、並びに附帶する注意事項は左の通りです。

(1) 規則動詞とは其の三要形に於て一定不變の語幹を持つ動詞の事であつて、その語幹を —— で表はすとすれば、三要形は次のやうな圖式で表はす事が出来る。

不定法	過去	過去分詞
—(e)n	—te	ge — t

(2) 但しその語幹が t または ð で終る動詞にあつては、過去、過去分詞の語尾は -ete, -et である。(それは口調から来る。)

(3) *be-*, *er-*, *miß-*, *ent-*, *emp-*, *zer-*, *ge-*, *ver-* 等、アクセントの無い前綴のある動詞にあつては、過去分詞の前綴 *ge-* を省く。(これも口調の關係である。)

(4) 外國語から獨逸語の動詞を作る時には、*-ieren* といふ語尾をつけるのが普通である。むつかしい學問的な字や、近代的な固い感じの字が多い。さういふ *-ieren* に終る動詞にあつては、過去分詞の前綴 *ge-* を省く。(これも、外來語は大抵二綴以上の語幹をもつてゐるから、長く延ばさないやうにといふ、つまり口調から来る結果である。) たとへば *propagieren* (弘める) の過去分詞は *ge-propagiert* ではなく、單に *propagiert* である。

(5) その他、たとへ *-ieren* の語尾は持つてゐなくとも、まだ完全に獨逸語化されない、少し複雑な外來の動詞には、やはり同様に過去分詞の前綴 *ge-* を省くことがある。たとへば

<i>prophēzien</i> , <i>prophēzte</i> , <i>prophēzeit</i>	豫言する
<i>posaunen</i> , <i>posaunte</i> , <i>posaunt</i>	喇叭を吹く
<i>trompeten</i> , <i>trompetete</i> , <i>trompetet</i>	(同上)

### 108. 不規則動詞の三要形

不規則動詞の三要形だけは、一々口調で覚える必要があります。不規則動詞は、つまり三要形が不規則なるが故に不規則動詞と謂ふのです。

不規則なるものの殆んど全部が、普通の辭書では巻末或は巻頭に表示してあり、此の書の巻末にも示してありますから、茲で表示する必要もない様なのですが、話の順序として必要だから、次に示すものだけは特によく覚えて下さい。讀本の部でこれを應用しますから。

不定法	過去	過去分詞	意味
<i>geh-en</i>	<i>ging</i>	<i>ge-gang-en</i>	行く
<i>komm-en</i>	<i>kam</i>	<i>ge-komm-en</i>	来る
<i>schreib-en</i>	<i>schrieb</i>	<i>ge-schrieb-en</i>	書く
<i>steh-en</i>	<i>stand</i>	<i>ge-stand-en</i>	立つ
<i>bleib-en</i>	<i>blieb</i>	<i>ge-blieb-en</i>	とどまる

<i>schlaf-en</i>	<i>schlief</i>	<i>ge-schlaf-en</i>	眠る
<i>seh-en</i>	<i>sah</i>	<i>ge-seh-en</i>	見る
<i>lieg-en</i>	<i>lag</i>	<i>ge-leg-en</i>	横たはる
<i>tu-n</i>	<i>tat</i>	<i>ge-tan</i>	爲す
<i>trink-en</i>	<i>trank</i>	<i>ge-trunk-en</i>	飲む
<i>halt-en</i>	<i>hielt</i>	<i>ge-halt-en</i>	保つ
<i>sprech-en</i>	<i>sprach</i>	<i>ge-sprech-en</i>	話す
<i>denk-en</i>	<i>dach-te</i>	<i>ge-dach-t</i>	考へる
<i>heiß-en</i>	<i>hieß</i>	<i>ge-heiß-en</i>	名乗る
<i>sitzen</i>	<i>saß</i>	<i>ge-sess-en</i>	坐す
<i>sein</i>	<i>war</i>	<i>ge-wes-en</i>	在る。である。
<i>brennen</i>	<i>brann-te</i>	<i>ge-brann-t</i>	燃える
<i>nennen</i>	<i>nann-te</i>	<i>ge-nann-t</i>	名づける
<i>hab-en</i>	<i>hat-te</i>	<i>ge-hab-t</i>	持つ
<i>werden</i>	<i>wurde</i>	<i>ge-word-en</i>	成る

注意すべき點は、

(1) 不規則動詞の大部分は、過去形が無語尾で語幹の儘、過去分詞の語尾が *t* ではなくて *-en* である。

(2) 上の表で見ると、*danken* (考へる) *brennen* (燃える) *nennen* (名づける) 等は、過去分詞に於て、他のと違つて *t* の語尾を取つてゐる。また過去形も *-te* の語尾を探つてゐる。此の點は普通の規則變化動詞と同じで、只語幹が不定形通りでないと云ふ點だけが不規則なのである。かう云ふ種類の動詞を稱して文法學者は混合變化と呼んでゐる。(それは、規則變化動詞の事を弱變化動詞、*gehen*, *ging*, *gegangen* 等を強變化動詞と呼ぶ習慣があるから、その兩者の中間、即ち強弱混合變化と云ふ意味である。)

(3) 過去分詞の前綴 *ge-* は、規則動詞の場合と同様に、もし不定法に於てアクセントの無い前綴 (*be-, er-, ge-, ver-* 等) が附いてゐる際には、略される。たとへば *komm-en* (来る) の三要形は *kommen, kam, gekommen* であるが、*bekommen* (得る) の三要形は *bekommen, bekam, bekommen* である。過去分詞が *gebekommen* にはならない。

さて此の三要形なるものの形は解りました。ところでその用途は? それは次の講義で述べます。

## 第十四講

### 六つの時稱の構成法

動詞の三要形は、まづ時稱なるものを構成する時に必要なのです。時稱は、單に過去、現在、未來の三つのみではなくて、此の各々に完了時稱なるものが附帶しますから、結局六時稱になります。

#### 109. 時稱に六種ある譯は?

動作の時を表すには、過去、現在、未來の三時稱で澤山なわけですが、ドイツ語にはその外に、過去完了、現在完了、未來完了と云つて、完了時稱なるものが三つあります。これはどうしても必要なので、これが無いと或種のはつきりした表現ができません。日本語にも完了形に相當する云ひ廻はしがあります。例へば、「何々してしまつてゐる」といふ云ひ方がそれです。これが丁度完了形に相當します。「食べる」が現在とすれば、「食べてしまつてゐる」(即ち、一寸前に食べたと云ふのと同意)は現在完了です。「食べた」が過去とすれば「食べてしまつてゐた」は過去完了です。(一名大過去とも云ひます。)「食べるだらう」が未來とすれば、「食べてしまつてゐるだらう」が未來完了です。むつかしい理屈よりは馬鹿の一つ覚えの方が役に立ちますから、さういふ譯語で覚えてみて下さい。完了の了といふのは、つまり「……しまふ」といふ概念を表現したのです。

#### 110. 完了形は相對時稱なり

完了形は相對的存在であつて、それ自身だけで考へたのでは意味をなさず、必ず絶対時稱である所の現在、過去、または未來を土臺に据えて、それから出發して考へる必要があります。たとへば、「私は落ちてしまつてゐた」だけでは何の事だか皆目話の辻褄が合はない。其處には何か暗黙裡に想定されてゐる一つの事情があるに相違ない。即ち、たとへば「君が抱き止めやうとしたその瞬間には」とか、「はつと氣がついた時には」とか、何か其處に明らかに云はれてゐないで、しかも「落ちる」といふ動作の時機を示すための出發點となるべき、時間の一點が、事實として、暗黙裡に考へ

られなければならない。「君が抱き留めようとした」といふ動作は、これはそれだけでよくわかるので、何時抱きとめようとしたかと云へば、それは抱きとめようとした時に抱き留めようとしたのです。ところが「落ちてしまつてゐた」のは決して「落ちた時」ではない。落ちてしまつてゐた時と抱きとめようとしたのとは同一瞬間であるが、「落ちた」のは此處で問題になる刹那より稍前です。それを表現するためには「それより稍前に落ちた」なぞと云つて話の筋を後戻りさせる必要はないので、話の進行は逆轉させないで、矢張りその時に辿りついた儘の瞬間を指しながら、「その時には既に落ちてしまつてゐた」と云ふ過去完了を使つた方が、話の進行を妨げなくつて好いのです。活動寫眞で云へば、たとへば警官が駆けつける、すると時間が逆轉して、犯人が一人の男を殺す。人が騒ぐので逃げ出す、といふ、絶対時稱が前進したり逆轉したりするのよりは、警官が駆けつける、そこには一人の男が斃れてゐる、土地の上に犯人の逃げた足あとが見える、即ち、逃げてしまつてゐた、と云ふ表現の方が簡単です。

今の例を綴つて見ると、「警官が歩いてゐた。人々が叫聲を揚げた。彼は駆けつけた。一人の男が血だらけになつて倒れてゐた。犯人は逃げてしまつてゐた。(逃げたは誤り) 彼は遺留品はないかと其のあたりを検べた。」

歩いてゐる、叫ぶ、駆けつける、倒れてゐる、檢べる、はすべて連續する過去の事件ですが、「逃げる」だけはその列に這入つてゐません。くはしく云ふと、被害者が倒れてゐる、といふのもそれで、倒れると云へばそれは過去完了で表現しないと此の列に這入らない。それと反対に、逃げてしまつてゐるといふ概念を表はす一個の動詞があつたら、それは普通の過去でもよかつたでせう。

また實際さういふ動詞があります。それは *fot sein* (去つてしまつてゐる)です。これならば普通の過去を用ひて *er war fot* と云へばそれで既に「逃げてしまつてゐた」と云ふ完了の意味になります。こいつまで完了形にした日には、それは完了の完了になつてしまつて、話がとても面倒になつて來ます。

問題の二個の動詞にドイツ語をあてはめて見ると、倒れるは *fallen*, 倒れてゐる、(又は倒れてしまつてゐると云つても同じですが) 即ち、横たはるは *liegen* ですから、*liegen* ならばその過去の *lag* でよろしい。ところが *fallen* をつかふと、普通の過去では駄目で、どうしても過去完了を使ふ、即ち「...てしまつてゐた」といふ概念を入れる事が必要です。

「逃げる」は *fliehen* ですが、逃げてしまつてゐるといふ意味の動詞はありません。だからこんな場合にはどうしても *fliehen* を完了にして使ふより外には道がないのです。

以上は過去と其の完了のみについて説明して來たのですが、現在、未來に於てもすべて同様です。

### 111. 完了形はどうしても必要なり

以上のやうな譯ですから、第一語數を節約する上から云つても完了形は必要です。さうでないと、たとへば「食ふ」と云ふ字の外に「食つてしまつてゐる」といふ一字を持へないと或種の時間關係が表現できない。そんな字を、ドイツ語の各動詞一字について一字づつ作つた日には大變です。*fallen* (落ちる、倒れる) に對して *liegen* (横たはる) があるのは先づ仕合せなうちで、大抵の場合はさう註文通りの字がありません。*effen* (食ふ) に對して、腹が一杯である、といふ動詞でもあれば好いでせうが、大食ひの人の場合には「それでもまだ腹が一杯にならない」といふ動詞も必要でせう。そんな妙ちきりんな動詞を千も二千も作つたところで、「食ふ」とか「殺す」とかいふ本來の意味はどうしても完全に表現できません。つまり完了形がどうしてもなくてはならないのです。第一日本語の「しまつてゐる」とか、または單に「ゐる」とかいふ言ひ廻しよりは完了といふ形の方がずつと明瞭です。

### 112. 各時稱の組み立て方

今まで話したのは意味の問題で、これからは形式の問題です。序で

ながら云つて置きますが、文法 [Grammatik] には必ず意味と形式との兩方面があつて、意味の方を研究する部門を意學 [Grammatik] と云ひ、形を研究する方を形態學 [Morphologie] と云つて、此の二つは必ず提携すると同時にまた厳密に區別されなければなりません。

(1) 現在。例 例 *ich schreibe*. 私は書く。

現在はすでに讀本部で使つて來たから、その變化方は御存じの筈です。なほ詳しい事は章を改めて述べます。要するに、不定法の語幹を規準にして、それに人稱語尾を附ければ好いのです。

(2) 過去。例 例 *ich schrieb*. 私は書いた。

これは、三要形 *schreiben, schrieb, geschrieben* の中央の *schrieb* です。*du* になるとまた語尾が附きますが、それもまた章を改めて述べます。

過去の事を半過去と云つて、完了形と區別する習慣がありますけれども、あれはラテン文法をその儘あてはめたので、ドイツ語では意味をなしません。あんな術語はやめた方が好いと思ひます。

(3) 未来。例 *ich werde schreiben.* 私は書くだらう。

これも既に研究済です。未来となると一字では表現できないから、助動詞の力を借ります。

(4) 現在完了。例 *ich habe geschrieben.* 私は書いてしまつてゐる。

現在完了は、英語と同様、やはり助動詞と過去分詞とを用ひて作ります。その助動詞は普通 *haben* ですが、自働詞の内の極く一部は *sein* を用ひて作る事もあります。例へば *fallen* (落ちる) の現在完了は *ich bin gefallen* です。*sein* を用ひて作る方が數が少いから、その方を字に就いて覚えるのが便利です。*sein* を取るか *haben* を取るかの問題は完了形全部に関する故、かなり重大ですから、これは少し後で特別に説明します。

現完に就てもう一つ注意して置きたいのは、現より少し前に行はれた行為を指すために、動ともすれば過去と一致する傾向を持つて居り、ドイツ人自身の感じが既に大分相對時稱といふ概念から離れて來てゐる事です。だから現完で書きながら、過去を意味する副詞を入れる事もあります。英語では現完の際には「昨日」とか「數年前」とかいふ副詞は入れられないさうですが、(また現完とある以上はさうなければならぬのですが) ドイツ語では入れられます。此の現象を相對時稱の絶対化的傾向と謂ひます。

たとへば *Hier hat vor Jahren ein Schloß gestanden.* (此處には數年前一つの城が立つてゐた。) つまり、あたりまへの過去の代りに現完を使ふ傾向です。

(5) 過去完了 例 *ich hatte geschrieben.* 私は書いてしまつてゐた。

*hatte* は助動詞 *haben* の過去です。英語でも過去完了〔大過去〕は *I had written* です。

これも、或種の自働詞では、*sein* の過去、即ち *war* (英語の *was*) を使ひます。例へば *ich war gefallen* (私は倒れてしまつてゐた)

これは既に完了の例として詳しく説明しました。つまり過去中の過去と云へば好いでせう。

(6) 未来完了。例 *ich werde geschrieben haben.* 私は書いてしまつてゐるであらう。

こいつは厄介です。助動詞を二つも使ひます。つまり動詞が三字になります。かういふ際には必ず、日本語で云つて見て一番最後に來るもののがドイツ語では定形になります。日本語はつまり定形が一番最後に來る言語、(私が前に述べた後結的)なので、また、ドイツ語の副文章が日本語の通り後結的である事も前に述べて置きました。

現在、過去の二時稱は、本動詞のみで言ひ表し得るから之れを單獨時稱と呼び、後の四つは助動詞を一個乃至二個用ひるから、之れを複合時稱と呼びます。

### 113. **haben か sein か?**

完了形を作る際に、英語の通り *haben* を用ひるか、それとも *sein* を用ひるかは、既に大分ドイツ語が出来る人に取つてもかなりむつかしい問題です。*sein* 支配の方が數が少いから、それを字に就て覚えるのが便利だと云ひましたが、それではあまり頼りないから、大抵の場合に通用する識別法を述べて置きませう。

まず次の動詞を左右比較して考へて下さい。

状態を現はす ( <i>haben</i> 支配)	推移を現はす ( <i>sein</i> 支配)
<i>schlafen</i> 眠つてゐる	<i>einschlafen</i> 眠り込む
<i>stehen</i> 立つてゐる	<i>aufstehen</i> 起立する
<i>sein</i> 居る	<i>kommen</i> 来る
<i>wachen</i> 眼をさましてゐる	<i>aufwachen</i> 眼をさます
<i>sitzen</i> 坐つてゐる	<i>sich setzen</i> 着席する
<i>wohnen</i> 宿る、住む	<i>einflehen</i> 立ち寄る

これらはみんな自働詞ですが、左の方のは、すべて或る長さの時間内に於ける状態を表はし、右の方は、或る状態から他の状態に移る轉換點を指し

てゐます。これを混同してはいけません。たとへば *ich stehe* を「私は立ち上る」といふと間違ひです。*ich schlaf*e は「私は眠つてゐる」であつて、「私は眠り始める」ではありません。斯ういふ状態を表はす動詞を *Durativa* (継続動詞) または *Stetiva* (期程動詞) と呼んでゐます。*Durativa* はすべて *einen Tag* (一日間を) とか、*eine Weile* (少時を) とか云つたやうに、時間を意味する四格の句が附き得ますから、他動詞扱ひにして、*haben* で完了を作ります。

それに反して、*einschlafen* (眠り込む) は、*schlafen* (眠る) に対する *Ingressiv* (状態の始まりを指す動詞) と云つて、それにはもはや四格の名詞はどんな意味にも附ける事ができないから、意味も形式も自動詞と見て、*sein* で完了形を作ります。

また過去分詞との関係もあります。

*Ich habe ein Buch gekauft.*

*kauen* (買ふ) の過去分詞 *gekauft* は、元來は受動の意味で、「買はれたる」と云ふ意味です。上の例文は、勿論「私は一冊の書物を買つてゐる」と云ふ意味ですが、分解すると、私は、一冊の書物を、買はれたる状態に於て [*gekauft*] 持つてゐる [*habe*] と云ふことになりますから、理屈から云つても *haben* (持つ) でなければならぬ筈です。ところが自動詞の際はさうではない。

*Ich bin eingeschlafen.*

「私は眠り込んでしまつてゐる」といふ意味ではあります、分解して考へると、決して *eingeschlafen* は受身の意味を持つてゐない。能動の過去の意味です。*ein eingeschlafenes Kind* は決して「眠り込まれてしまつた小兒」ではなく「眠り込んでしまつた小兒」です。他動詞の時には、たとへば *ein gekauftes Buch* は「買はれた書物」であつて「買つてしまつた書物」ではない。書物「が」買ふのではなくて、人が書物「を」買ふのですからね。

一言にして云へば、過去分詞には、その動詞によつて意味が二つある。「られた」といふ意味と「……した」といふ意味との二つです。だから *ich bin eingeschlafen* の場合には、「私は眠り込まれた何物かを持つ」ではいけない。やはり「私は *eingeschlafen* (眠り込んだもの) である」と云つて、「である」といふ *bin* 即ち *sein* を使はなければならぬ。文法には凡て意象的根據があるものです。

少し微妙なのは、四格の時の副詞句を探り得る自動詞の場合であつて、たとへば「走る」といふ動詞は、「私は何物かを走られたる状態に持つ」なんぞといふ事は絶対に云へさうにないやうですが、時の副詞を入れると、さういふ構造ができるのです。

*Ich habe den ganzen Tag gelaufen.*

譯 私は一日中走つた。

之れは、分解すると、「私は一日中を走られたる状態に持つ」といふ事になつて、過去分詞 *gelaufen* は受動の意味になります。それは即ち走られたる一日であつたのです。走り暮されたる一日と云へばなほはつきりするでしょう。走り暮されたる一日であるとすると、私が其の一日「である」 [*sein*] はどうも變な話で、やはり「持つ」と云はなければ論理に合ひません。

詳しく述べると斯ういふ事になつて来るのですが、實際はそんなに一々論理的に考へる譯にも行かないでせうから、次に今まで述べて來た所を簡単に項目にします。

- (1) 状態を現はす動詞 [*Durativa*] は *haben*, 状態の推移を現はす動詞は *sein*.
- (2) 其の過去分詞が受身の意味を持ち得る時は *haben*, 如何にしても持ち得ざる時は *sein*.
- (3) たとへ時間の連續を意味する副詞句 (*eine Weile* 少時の間を) でも宜しい、とにかく四格の形の名詞を附け得る時は *haben*, 然らざる時は *sein*.

#### 114. 獨逸語に進行形なし

既に多少英語を知つてゐる人が必ず一度疑問を懷くのは、英語ではたとへば *I go* と *I am going* とを區別してゐるが、ドイツ語に *I am going* 等の、所謂進行形はないのかと云ふ問題です。これは無い。無いけれども決して不自由は感じない。何故といふに、進行形 [*modus progressivus*] はなくとも、状態表現の動詞 [前出の *Durativa*] を使へばすべて進行形の意味になるからです。たとへば *ich stand* は決して「私は立つた」ではありません。「私は立ちつつあつた」即ち英語の *I was standing* です。進行の最中を指すといふのはつまり状態を指すことに等しいのです。

# 第十五講

## 受 動 形 と 能 働 形

受動形、即ち「何々される」「された」等、「られる」の意味を表す方法は、獨逸語では英語佛語にくらべると、非常にはつきりしてゐて、特に受身のための助動詞があります。茲で一つ例の *werden* といふ助動詞の三つの用途なるものを思ひ出して頂きたい。(第一巻 77)

### 115. 受動形は *werden* と過去分詞 [ich werde geliebt.]

過去分詞を伴へば受動形になります。その時稱は勿論 *werden* そのものの時稱によつて定める、即ち *werden* を過去にして *Ich wurde geliebt* と云へば「私は愛された」、現在にして *Ich werde geliebt* と云へば「愛される」です。「私」の場合のみの各時稱を表にして見ませう。時稱問題の復習にもなりますから。

#### *werden* の時稱一覧

1. 現 在 *ich werde geliebt.* 私は愛される。
2. 過 去 *ich wurde geliebt.* 私は愛された。
3. 未 來 *ich werde geliebt werden.* 私は愛されるであらう。
4. 現在完了 *ich bin geliebt worden.* 私は愛されてしまつてゐる。
5. 過去完了 *ich war geliebt worden.* 私は愛されてしまつてゐた。
6. 未來完了 *ich werde geliebt worden sein.* 私は愛されてしまつてゐるだらう。

*werden* といふ助動詞を定形にして、不定法を伴へば未來になり、

注意事項 (1) *werden* は、受動の助動詞として用ひる時は、*geworden* ではなく、*worden* といふ簡便な過去分詞を使ひます。ところが、「成る」といふ本動詞に用ひる時の過去分詞は *geworden* です。たとへば *Ich bin ein Advokat geworden* [私は辯護士になつた、即ち、成つてしまつて現在辯護士であるの意]

注意事項 (2) 過去は *wurde* ですが、*ward* と云ふ古い形も用ひられます。

注意事項 (3) 未來の場合の *ich werde geliebt werden* は、勿論最初の *werde* (定形) が未來の助動詞、最後の不定法が受身の助動詞です。日本語で云つて一番最後に來るのがドイツ語では定形です。「私は愛されるであらう」。それから既に前に述べた通り、主語定形以外は、すべて日本語の順です。

注意事項 (4) 現完の *ich bin geliebt worden* の *bin* でわかる通り、*werden* は *sein* で完了形を作ります。

### 116. 能動形を受動形に改める練習 (von, durch, mit の用法)

能動形を受動形に改める時に注意を要するのは、名詞の扱ひ

方です。殊に主語です。「甲が乙を愛した」を改めると、「乙が甲に愛された」になりますが、「甲に」は日本語式に第三格にしたのでは駄目で、「甲から」「甲によつて」「甲を以て」となります。

(1) *von* を用ひる場合。——これは、能動の際の主語が一個の責任ある存在、即ち人間か、人間的なものである時です。つまり日本語の「……に」「……から」「……のために」に相當します。

能動——*Der Knabe liebt den Hund.* 少年は犬を愛する。

受動——*Der Hund wird von dem Knaben geliebt.*

犬が少年に愛される。

「犬に愛される」といふ場合には、犬を責任ある人格と見て、*von* といふ前置詞を使つても可笑しくありません。(注意——*von* は三格支配です)

(2) *durch* を用ひる場合。——これは手段、または仲介物の際に用ひられます。つまり「……によつて」です。(四格支配)

能動——*Ein Schuß tötet den Feind.* 一發の弾丸が敵を殺す。

受動——Der Feind wird durch einen Schuß getötet.  
敵が一發の弾丸に殺される。

(3) mit を用ひる場合。——これは材料的主語の際です。

能動——Die Soldaten füllen den Zug.  
兵士達が列車を充たす。

受動——Der Zug wird mit Soldaten gefüllt.  
列車が兵士達で充たされる。

### 117. 変な受動的語法

ついでに、初學者が不思議に思ひ勝ちな、特異な現象を紹介して置きます。

Es wird gekämpft. [戦ひが行はれる]

文字通りに譯すると、「それが戦はれる」ですが、意味は「みんなが戦ふ」——「人々が戦ふ」——「戦ひが行はれる」といふ事です。文法的に云ふと、つまり自動詞にも受動形があるといふ事になります。これは語學史的に云ふと、古典語の語法を移植したもので、たとへば拉丁語では、

pugnatur [戦はれる]

といふ語法があつて、その際には主語を省くのですが、獨逸語では、その代りに中性の、殆んど無意な es (それ)といふ主語を入れたわけです。一體ドイツ語は非常に拉丁語の影響を蒙つてゐます。丁度大和言葉の中へ漢文口調が這入つて來るのと同じですね。

長つたらしい口調で書く人、たとへばシーベンハウエル [Schopenhauer] の文章などは、其の儘を譯して行つてびつたりと拉丁語になつてしまひます。近頃は哲學者たちも段々と拉丁語口調から解放されて來たやうですが。

### 118. 受動形の形容詞化

Dieses Vergehen ist nicht zu entschuldigen.

譯 此の過ちは宥す可くなし。(此の過ちは辯解の餘地なし)

entschuldigen は英語の excuse です。つまり、此の過失は excuse され得ないといふ事です。「され得ない」といふからといって、受動形を使って、Dieses Vergehen ist nicht entschuldigt zu werden なんぞと云ふ必要はない。單に nicht zu entschuldigen で客語的形容詞になります。つまり Dieses Vergehen wird nicht entschuldigt と云つて、受動形にするのと同じやうなのです。

此の語法は、附加語的に用ひる事も出来ます。其の際には zu entschuldigen と、の語尾を附けます。不定法に の語尾が附くのは、本當は現在分詞と云つて、英語の -ing の語尾の附く形に相當しますが、現在分詞とは此の場合何の關係もありません。

ein nicht zu entschuldigendes Vergehen.

譯 宥す可からざる過失。

上例で、nicht zu entschuldigen は、三字一緒に「恕すべからざる」と云ふ形容詞句ですから、その後に中性一格の強語尾 es をつけなければなりません。(ein が無語尾故)

註——詳細は第四卷 290 参照。

☞ 以上三章で三要形の使ひ方に關する講義は終りました。讀本の部第八課を讀む事。

# 第十六講

## 動詞現在人稱變化の詳細

動詞現在の人稱變化は、抑々此の講座の第一巻の、發音を終つた直ぐ其の次に述べて置きましたが、此處では其の詳細、及び異例的な現象を述べたいと思ひます。

### 119. 現在變化の人稱語尾

念には念を入れよと云ひますから、まづ一般的な規則を復習して置きませう。

#### 現在(直説法)の人稱語尾

不 定 法 ——(e)n

單數	第一人稱	—e	複數	第一人稱	—(e)n
	第二人稱	—ft		第二人稱	—t
	第三人稱	—t		第三人稱	—(e)n

その外になほ敬稱なるものがあつて、それは複數三人稱と同形であり、たゞ代名詞は *sie* でなく、大書した *Gie* を用ひるといふ事も御存じの筈です。

その外に一つ新たな事實を附け加へると、單數三人稱の代名詞は、これまで *er* (彼) *sie* (彼女) *es* (それ) の三つのみ使つて來ましたが、實は *man* [英語の *people*, 又は *they*] といふのも知つて置かなければなりません。

*man* は、別に誰といふのではなく、只「世人が」「人々が」といふ意味で、男といふ *Mann* とは全然別物で、小文字で書く上に、*n* が一つしかありません。發音は同じですが、あまりアクセントを入れずに發音しなければなりません。

*man kommt.* [誰かやつて来る]

*man singt!* [歌を歌つてゐるぞ!]

*man weint.* [泣き聲がする]

非常に便利な代名詞です。英語でなら、*they come* とか *they sing* とか、複數で云ふところでせう。この便利な *man* は佛語の影響で出來たものではないかと思ひます。佛語では *on* [即ち語源は *homme* オム = 人間、男] です。その他の南方國語はみんな再歸動詞といふものを使って、全然別な云ひ迴し方をします。

*man singt* の場合なぞは、前章で述べた受動的語法、即ち *es wird gesungen* (それが歌はれる)と同じことです。

120.

### 人稱語尾の語幹に及ぼす影響 語調 (Euphonic)

人稱語尾は、不定法の語幹に附けて行けば好いのですが、そ

の際多少發音し好くない子音の衝突が起ると、何んとかして之れを緩和しなくてはなりません。

(1) *tüffen* [接吻する] *pissen* [小便を垂れる] *haffen* [憎む] 等は凡て語幹の終が *f* ですから、二人稱の *ft* といふ語尾が附けにくい。もつとも接吻したり小便したりするのは附けにくい方が好いかも知れないが、まあ兎に角なしろ附け難い。そこでそれを避けるために二つの方法があります。(下の表の *du* の所に注目。)

#### 不 定 法 *tüffen*

<i>ich</i> <i>tüsse</i>	<i>wir</i> <i>tüffen</i>
<i>du</i> <i>tüffest</i> (または <i>tüft</i> )	<i>ihr</i> <i>tüft</i>
<i>er</i> <i>tüft</i>	<i>sie</i> <i>tüffen</i>

三個所が *tüft* では汝が接吻するのか彼がするのか汝等がするのか要領を得ないではないかと云ふ心配が起りさうです。まあ接吻なんか誰がしたって好いわけですが、大抵の場合は必ず代名詞を附けるから混同の恐れはありません。

*t* の前では *f* が必ず *ft* になる所に注目。

(2) *wünschen* [願ふ] *reisen* [旅行する] *peitschen* [鞭打つ] *tanzen* [踊る] 等は、やはり *ft* の語尾のつけ難い、所謂 *fließlaut* (飛箭音) で終つてゐます。飛箭音と云ふのは、シューとかツ、とかいふ、鋭くかかれる音の事です。これらはみんな *tüffen* と同じ取扱ひになります。

## 不定法 tanzen

ich tanze	wir tanzen
du tanzt (ob. tanzt)	ihr tanzt
er tanzt	sie tanzen

註 ob. は ober (もしくは) の略字。

(3) bitten [頼む] beten [祈る] finden [發見する] 等は、語幹が t, b の音で終つてゐるから、-t の人稱語尾が附け難い。其處で衝突した二個の子音の間に、語學者の所謂 Eproßvolal (ひこばえの母音) といふ奴が生えて出る。そこで口調が柔らかになるといふ譯です。

註。日本人には、たとへば Christ (クリスト) [基督教徒] の發音が出來ない、そこで自我流に Kurisuto と變へてしまふ。其の際生えて出る -u, -o, なんでもものを語學者は「ひこばえの母音」と云ふのです。日本人ばかりではない、伊太利人もさうで、たとへば英語などは伊太利人の最も鬼門とする所で、都合の好い様にどしどし國粹化してしまふ。Macbeth [マクベス] を、日本人は Makubesu と變へてしまふが、伊太利人は Macabeto [マカベートー] とやる。日本と伊太利とは、ひこばえの母音の花咲く國です。

## 不定法 bitten

ich bitte	wir bitten
du bittest	ihr bittet
er bittet	sie bitten

(4) wandern [徒步旅行する] wandeln [逍遙する] jittern [顫える] schmei- cheln [諛ふ] 等は、不定法の語幹が既に -er, -el などと云ふ語尾を引つ張つて居る。そこで長つたらしくなるから、次のやうに、所々で -e を省きます。

## 不定法 wandern

ich wandte*	wir wandern*
du wanderst	ihr wandert
er wandert	sie wandern*

つまり複數の一人稱三人稱は、如何なる場合にあつても不定法と同形なりといふ法則が立てられます。たとへば、一寸變つた不定法を持つた tun [爲す] なぞがそれです。

## 不定法 tun

ich tue	wir tun*
du tuft	ihr tut
er tut	sie tun*

121. du と er の二個所で語幹  
そのものを變するもの

これからが此の章の主眼目です。今まで單なる語調の問題ですが、こんどは根本的に新しい事實ですから、眠氣を覺まして聽いて頂かなければなりません。

三つの要形が不規則なものの中には、現在人稱變化に於て、du と er との所で、語幹そのものを變するものがあります。それは三要形の不規則なるもの、即ち sehen, fah, gesehen 等の動詞に限ります。また不規則なもの總てがさうなるのではありません。これも其の字其の字に就て覺えた方が賢明です。

## (1) 語幹の a を ä に變するもの。

## 不定法 tragen 運ぶ

ich trage	wir tragen
du trägst*	ihr tragt
er trägt*	sie tragen

此の例に依るもの = blasen 吹く、baden バンを焼く、empfangen 受取る、fahren 乗物で行く、fallen 落ちる、fangen 捕へる、graben 掘る、hangen 懸かる、schlafen 眠る、schlagen 打つ、wachsen [オックセン] 生長する、waschen 洗ふ。[その外 halten 保つ、raten 勧める、braten 炙る、laden 積む、の四つがありますが、それらはまた非常に不規則ですから項目を改めて示します。]

(2) 語幹の e を i に變するもの。

## 不定法 werfen 投げる

ich werfe	wir werfen
du wirfst*	ihr werft
er wirft*	sie werfen

此の例に依るもの = bergen 隠す、 brechen 破る、 dreschen 打禾する、 erschreden 傷く、 essen 食ふ、 fressen 咽ふ(これは動物に就て云ふ)、 geben 與へる、 helfen 助ける、 messen 量る、 quellen 湧く、 schmelzen 融ける、 schwollen 膿らむ、 sprechen 話す、 stechen 刺す、 sterben 死ぬ、 treffen 中たる、 中てる、 verderben 腐る、 損なふ、 vergessen 忘れる、 werben 募る。

次のものは e を ie に變じます。

## 不定法 befehlen 命する

ich befehle	wir befehlen
du befiehlst*	ihr befehlt
er befiehlt*	sie befehlen

此の例に依るもの = empfehlen 推薦する、 geschehen 出來する、 lesen 讀む、 sehen 見る、 stehlen 盜む。

(3) 語幹の o を ö に變するものが一字あります。

## 不定法 stoßen 衝く

ich stoße	wir stoßen
du stöfft*	ihr stöfft
er stöfft*	sie stoßen

(4) 語幹の ä を ie に變するものが二字あります。

## 不定法 gebären 産む

ich gebäre	wir gebären
du gebierst*	ihr gebärt
er gebiert*	sie gebären

此の例に依るもの = schwärzen 化膿する(これは規則通りでも構はないのです。即ち du schwärzt 等)

(5) ö を i に變するものが一字あります。

## 不定法 erlöscheln 消える

ich erlöscle	wir erlöscheln
du erlischt*	ihr erlöscht
er erlischt*	sie erlöscheln

(6) 上述の變音をすると同時に、er の所で人稱語尾が省かれるもの。

## 不定法 halten 保つ

ich halte	wir halten
du hältst	ihr haltet
er hält*	sie halten

## 不定法 treten 踏む

ich trete	wir treten
du trittst	ihr tretet
er tritt*	sie treten

此の例に依るもの = bersten 裂ける、 braten 炙る、 fechten 鬥ふ、 flechten 編む、 gelten 値する、 raten 忠告する、 schelten 叱る、 laden 積む (du ladest もしくは lädst, er ladt もしくは lädt)。

(7) au を äu [オイ] に變するものが二字あります。

不 定 法 laufen 走る

ich laufe	wir laufen
du läufst*	ih̄r lauft
er läuft*	sie usen

此の例によるもの = laufen 鮫飲する。

(8) nehmen [取る、英語の take] は特に注意。

不 定 法 nehmen

ich nehme	wir nehmen
du nimmst*	ih̄r nehm̄t
er nimmt*	sie nehmen

122. **變音 [Umlaut] に関する智識**

以上に列舉したものは、それをすぐ暗記して了へと云ふ譯ではありません。こんな現象があるのだと云ふ事を覚えて貰へばそれで結構です。要するに a が ä に變するものと、e が i または ie に變するものとが非常に多いといふ事がわかるでせう。

ところが、母音が變するからと云つて、さう無闇矢鱈と變する譯のものではなく、其處には自づと或種の法則が支配してゐます。それは名詞の複數が變音するのと同じ法則です。茲で一つ變音なるものに就て的一般的考察を發展させるのも強ち無益の業ではありますまい。

ä, ö, ü がそれぞれ a, o, u の變音である事は既に御存じの所ですが、i が e の變音であると云ふ事は、或は初耳ではないかと思ひます。一寸下に列舉した單語を左右對照して比べて下さい。

Stern	星	Gestirn	星辰・星座
Feld	野原	Gefilde	原頭
Berg	山	Gebirge	山地
Schwestern	姉妹	Geschwister	兄弟姉妹

これらはすべて左の字から右の字を拵へたもので、その際の法則は變音の法則に據つてゐます。故に i は e の變音であると云ふ事が云ひ得るのです。此の變音の法則は、ドイツ語ばかりではなく、印歐語全部に亘る法則であつて、たとへば拉丁語にも之れに相當するものがあります。拉丁語はドイツ語にも英語にも澤山入り込んでゐますが、一寸英語の例を引きませう。

原語幹	變 音		
fact	事實	ef-fect	効果
apt	適切な	in-ept	不適切な
spec-tacle	壯觀	con-spic-uous	著しき
ques-tion	質問	in-quis-ition	調査
stat-ion	停車場	in-stit-ute	施設
sacr-ifice	犠牲にする	con-secr-ate	捧げる

ではドイツ語の變音と云ふ現象の全般を通じてどんな關係が支配してゐるかと云ふと、それを簡単に表示すると次のやうになります。

變 音 の 經 過

元の母音	それに e を加へる	結果
a	ae [拉丁語の AE]	ä
o	oe [拉丁語の OE]	ö
u	ue	ü
e	ee [英語の ee]	i [ie]
ä	[發音は e に同じ、故に e と同じく i に變す]	i [ie]
ö	[發音は殆んど e に同じ、故に i に變す]	i [ie]
au	aeu	äu

故に ä の代りに、ラテン字でドイツ語を書く際には ae と書いても好いのです。文豪ゲーテの綴りは、發音は勿論 Goëte ですが、字は Goethe と書く事になつてゐます。殊に英文タイプライターなどで獨逸語を打つ時には ä の代りに ae, ö の代りに oe 等を用ひた方が便利です。

現今のドイツの活版では、文學書等には、時たま變音の印の代りに、小さな e の字を a, o, u の上に附けるのなぞが見當ります。

變音符 " は、つまりドイツ字の草字體の e なんです。

如上の説明で、變音は、その母音に e を加へる事だと云ふ形式的な事實はわかりましたが、扱て實際に、生理的、發音學的の關係はどうでせう？

それは、簡単に云ふと、その母音を弱める事です。口腔の形で云ふと、口腔の容積を減することです。もつと實際的に云ふと、舌の表面を、ぐつと上方へ擡げる事です。 a と同じ口の格好の儘で、その他の點を少しもかへず、ただ舌の平面をぐつと上へ擡げると、自然に ä の音が出ます。 i たつて同じで、e と云ふ口附きをして舌を揚げると、i になります。では i といふ口をして舌を擡げたら、もう一つ今度は i の變音が出来るかと云ふに、こんどは駄目です。 i の際には舌がもう出来るだけ上へ揚がり切りてゐますから、もうそれ以上上げては何の發音も出なくなる。だからつまり i に對する變音は無いのです。語學的な事實には必ず生理學上の基礎があります。

此の變音と云ふ奴は非常に便利で、之れを用ひてドイツ語は諸種の造語をしてゐます。例へば次にあげる他動詞と自動詞との關係の如きがそれです。(勿論此の際は、變音の方から逆に元の母音に返すのが主です。これを逆變音 Rückumlaut と云つてゐます。)

自 動 詞		他 動 詞	
sitzen	坐る	setzen	据える
liegen	横たはる	legen	横たへる
trinken	飲む	tränken	飲ます
fallen	倒れる	fällen	倒す
haften	くつ附く	heften	くつ附ける
sinken	沈む	sinken	沈める

dringen	急ぐ	drängen	急がす
schwimmen	泳ぐ	schwemmen	泳がせる
winden	巻きつく	wenden	轉する
hangen	懸かる	hängen	懸ける
saugen	吸ふ	säugen	吸はせる
saufen	鯨飲する	ersäufen	溺らす
erblinden	盲になる	blenden	昏ます

これらは實は變音の法則といふよりは、むしろ他動詞が e になるのが二三あつたから、後は法則に依らず、ただ盲目的にその例に範つたので、實はさう大した理屈はありません。かう云ふ既存の字に眞似てやる造語を Una-Logiebildung [類推造語] と云ひます。けれども最初の數語は變音の法則に依つたといふ事は確かです。

四〇 読本の部第九課を讀め。

## 第十七講

### 動詞過去の人稱變化

動詞の過去は、普通「半過去」と呼んでおますが、それは古典語の用語をその儘踏襲したので、古典語、殊に拉丁語と直接關係のある佛、伊、西等の所謂拉丁系統の國語でなら多少意味をなしますが、獨逸語にあつては全然無意義です。單に過去と云はなくてはいけません。

過去は、三つの要形の中央に位する形ですが、これは助動詞を用ひない、所謂單獨時稱で、動詞その者が定形を取りますから、やはり人稱變化の語尾がつきます。

#### 123. 過去人稱變化の圖式

規則動詞の場合 (例へば fragen 問ふ、の過去 fragte) にも、また不規則動詞の場合 (例へば geben 與へる、の過去 gab) にも共にあてはまる共通の圖式は下の通りです。

過去形を — で表はせば

ich	—	wir	—(e)n
du	—t	ihr	—t
er	—	sie	—(e)n

註 —(e) は、規則語尾 (er) の場合に省く。

三人稱 er に語尾が附かず、一人稱 du の場合と同形である事に注意。

#### 124. 實例

##### 規則語尾の場合

frag-en, frag-te, ge-frag-t 問ふ

ich	fragte	wir	fragten
du	fragtest	ihr	fragtet
er	fragte	sie	fragten

##### 不規則動詞の場合 (所謂強變化)

ge-ben, gab, ge-gaben	與へる
ich gab	wir gaben
du gabst	ihr gabit
er gab	sie gaben

#### 125. 形態論的考察

此の過去の人稱變化の形態を見て、これまで習つた物の中に、何處となく似通つた變化があつた事に氣附きませんか？語學を學ぶ時には、斯う云ふ種類の、形態に對する或種の銳い感受性と反省とが動かなくてはなりません。

それは他でもない、話法の助動詞 können, dürfen 等の單數の人稱變化です。たとへば können は、ich kann, er kann となります。これは明らかに過去形の變化であつて、今でこそ意味は現在であるが、往古のゲルマニヤ語では、「わかる」といふ字の過去だつたのです。斯う云ふ例は、今は助動詞にだけしか見當りませんが、實を云ふと普通の本動詞にも一字だけあります。

##### 不定法 wissen 知る

ich weiß*	wir wissen
du weißt	ihr wisst
er weiß*	sie wissen

此の字は拉丁語の videre [見る] と同義だつたので、その過去形、即ち「私は見た」といふ weiß が、「私は知つてゐる」といふ現在の意になつたのです。かういふ現象は拉丁語にも希臘語にも梵語にもあります。語學者はこれを Präterito-Präsentien [過去形現在] と稱して、比較言語學上的一つの著明な事實として登錄してゐます。

#### 126. sollen の變化

序でに、ただ一つ殘つた助動詞 sollen を紹介します。これは英語の shall に相當します。

## 不定法 sollen [.....す可きである]

ich soll	wir sollen
du sollst	ihr sollt
er soll	sie sollen

sollen は必ず wollen の裏です。裏と云ふのは、wollen で表はされた文章ならば、一たび主語を變すれば必ず sollen で云ひ表はされ、またその逆も真です。數個例を擧げませう。

(1) Ich will dich strafen.

譯 あれが貴様を罰してやるぞ。

「貴様」の方を主語にすると。

Du sollst gestraft werden.

譯 貴様は罰せられる可きだ。

(2) Soll ich dieses Buch lesen?

譯 私は此の書物を読む可きですか？

Wollen Sie, daß ich dieses Buch lese?

譯 あなたは、私が此の本を読む事をお望みですか？

(3) Er soll sterben.

譯 彼は死す可きなり。

Man will ihn töten.

譯 人が彼を殺さうと欲する。

Er soll sterben! は、つまり、あんな奴は殺してしまへ、と言ふ時に言ひ、Soll ich dieses Buch lesen? は、どうです、此の書物を読みませうか、といふ時に用ひるので、とにかく、sollen の主語になる物體または人格に向つて、他から何等かの意志が加へられ、要求が向けられてゐる事を意味します。

## 第十八講

## 倒置法の詳細

重要な現象ほど念を入れて講義する主義ですから、既に一寸第一巻で略述した倒置法の問題を、こんどは根本的に反覆し、同時に云ひ足りなかつた所を補ひます。

## 127. 主語、定形以外が先頭に來れば倒置す

Ich gehe jeden Morgen mit der Elektrischen zur Schule.

譯——私は [ich] 每朝 [jeden Morgen] 電車で [mit der Elektrischen = elektrisch] は電氣のと云ふ形容詞で、その次に Bahn, f. 軌道、が省かれるのです] 学校へ [zur Schule] 行く [gehe]。

これは正置法です。ところで、「毎朝」といふのに念を入れて見ると、

Jeden Morgen gehe ich mit der Elektrischen zur Schule.

「学校へ」に念を入れても同様。

Zur Schule gehe ich jeden Morgen mit der Elektrischen.

譯すると、「学校へは私は毎朝電車で行く。」

これが倒置法の最も普通の場合です。次には少し變つた文例をあげて見ませう。

## (1) Gestorben ist er schon vor Jahren.

これは、彼は [er] 既に [schon] 數年前に [vor Jahren, 不定冠詞の複數、即ち冠詞無し、従つて「數」年と云ふ意味になります] 死んでしまつてゐる [ist gestorben] と云ふ文章を、正置せずして、過去分詞を特に前に出したのです。故に「死んだのは既に數年前の事だ」とでも譯す可きでせう。[gestorben, 不定法 sterben.]

## (2) Lieben tut er mich schon.

譯。彼は [er] 大丈夫 [jāon] 私を [mīch] 愛する事を [lieben] なす [tut, 不定法=tun]。

意譯すれば、「彼は私を、勿論愛することは愛する」即ち「愛するといふ點では大丈夫だ」といふ事です。これは、異例として、元來定形になる可き lieben を不定形にして先頭に持つて來たので、倒置される定形が無くなつてしまつたので、斯う云ふ場合には tun(なす)の定形を用ひるのです。英語の I don't know の do の使ひ方と同じです。

## 128. 質問の際、疑問詞ある際には倒置す

これは説明に及びますまい。つまり英語のやうに Do you know? とか云つたやうに do なぞは使はないのです。

## 129. Wenn [若しも] を使ふ代りに倒置す

これも既知の事柄に屬します。

## (1) Kannst du schwimmen, so ist keine Gefahr da.

譯　泳げるのなら [kannst du schwimmen] そんなら [so] 何の危険も [keine Gefahr] ない [ist da]。

此の際 so の次も、so といふ字のために倒置されてゐます。(もつとも so が無くても倒置されますが、それは次に述べます。)

## (2) Ist es ein Freund, so darf er kommen.

もしそれが [es] 味方 [ein Freund] であるなら [ist] その時は [so] その男は [er] 来ても [kommen] よろしい [darf]。

## 130. Ob [英語の whether] を使ふ代りに倒置す

ob は、「……かどうか」と云ふ疑問の意故、これを省いて、疑問文的に倒置しても好いわけです。此の關係は wenn の場合と同様です。

## (1) ob を用ひる場合。

Ja weiß nicht, ob er mein Freund oder mein Feind ist.

私は彼が私の味方であるか敵であるかを知らない。

## (2) ob を用ひない場合。

Ja weiß nicht, ist er mein Freund oder mein Feind!

以上は何でも無いことですが、これは次の事實を説明するために必要なのです。

Als ob, または wie wenn または als wenn といふ接續詞があります。これは接續法の動詞を研究する時に改めて説明しますが、意味は「あたかも……かの如く」と云ふ事です。用例をあげると、

## (1) Als ob es ein Krieg wäre.....

それが [es] 戰争で [ein Krieg] ある [wäre] か [ob] の如く [als]。

## (2) Wie wenn es ein Krieg wäre.....

それが [es] 戰争で [ein Krieg] ある [wäre] 場合 [wenn] の如く [wie],  
註—— wäre は if に対する接續法です。(後出)

以上の文は、副文章ですから、定形 wäre は一番最後に来てゐます。ところが ob 又は wenn を省いて、その代りに倒置法を應用する事も出来るのです。

## (1) Als wäre es ein Krieg.....

wie wäre 云々の方は普通は用ひませんが、als と倒置法とが「恰も……なるが如く」の意になる事と、その倒置なるものが wenn 又は ob の省略なる事は記憶に値します。

## 131. 感嘆句に於ける倒置

まあ何と……である事よ! 等の、所謂感嘆の句には倒置法を用ひます。その際特に注目すべきは、doch といふ助詞を挿入する事です。

例一 *Sit er doch ein merkwürdiger Mensch!*

譯。彼奴は [er] 實に [doch] 変な人間 [ein merkwürdiger Mensch] だな  
あ [ist].

例二 *Komme ich doch morgen!*

譯。僕が [ich] 明日 [morgen] 來る [komme] といふに [doch]!

例三 *Steht er doch alle Tage!*

譯。たつて [doch] あいつは [er] 每日 [alle Tage], 文字通りには、凡て  
の日を、*jeden Tag* と同じ] 盗みをしてゐるよ [steht = 不定法 stehlen].

## 132. 副文章の後に来る主文章の倒置

副文章も、總體か  
ら云へば主文章の

一部ですから、之れが前に立つと、一番最初に述べた場合と同じ取扱ひにな  
つて、主文章の主語と定形は倒置されます。(但し其の副文章が、「たとへ...  
...であるにせよ」と云ふ意味の時には、わざわざ其の次の主文章で倒置を行  
はないで、正置しておく事があります。)

例一 *Wenn der Junge groß wird, wird er nicht mehr schreien.*

譯。小僧も [der Junge] 大きく [groß] なれ [wird] ば [wenn], もう  
[mehr] 泣きは [schreien] しなからう [wird nicht].

例二 *Dass er mein Better war, wusste ich erst später.*

譯。彼が [er] 私の従兄 [mein Better] だつた [war] といふ事は [dass]  
私は [ich] やつと [erst] 後になつて [später] 知つた [wusste].

例三 *Wenn er auch mein Feind ist, ich will ihn nicht töten.*

譯。彼が [er] 私の敵 [mein Feind] であつ [ist] ても [wenn .... auch],  
私は [ich] 彼を [ihn] 殺さうとは [töten] 思はない [will nicht], (正置の例)

wenn .... auch は、「たとへ.....にしろ」の意味の接続詞であるから、其の  
次の主文章の先頭は、正置にしても構はないので、むしろさうする方が文に  
力が這入るのです。

何故さうするかと云ふに、(これは全然初步の人には少し困難かも知れませ  
んが) たとへば次のやうな文章が念頭に在るために無意識に行はれる、所謂  
Contamination (混亂) 又は Anatolut (混脳) と云ふ現象です。

*Er mag mein Feind sein, sobiel er will, ich will ihn nicht töten.*

譯。彼は [er] いくら [sobiel er will = 彼が欲するだけ、の意] 私の敵  
[mein Feind] であつて [sein] も構はぬ [mag] 私は決して彼を殺しませまい。

此の文では、二つの主文章がならべてあるので、兩方とも正置になります。  
其處で此の構造が、意味の類似の爲めに、obgleich または wenn auch 等の副  
文章の場合にも傳染するのです。

## 133. 挿入句に於ける倒置

「と彼は言つた」とか「と我我は主  
張する」と云つたやうな挿入句は、

英語に於けると同様、獨逸語にあつても、普通文章の途中に挿入します。こ  
れを挿入 [Einschaltung] と云ひます。

(I) *Morgenstunde, sagt ein deutsches Sprichwort, hat Gold im Munde.*

逐語譯。朝の時刻は [Morgenstunde] 口に [im Munde] 黃金を [Gold]  
持つ [hat] とドイツ語の俗諺が [ein deutsches Sprichwort] 云ふ [sagt].

意譯。「朝起は」——とドイツの諺にも云つてある——「三文の徳あり。」

挿入句は、必ず主文章を中断して、大抵はその先頭近くに挿入されるのが  
例です。初めての人にはかなり邪魔物の様に見えるでせうが、西洋語は總て  
此の語法で行きますから、近頃ではその癖が日本語にも移植されて、殊に  
翻譯小説なんぞでは、むしろ原文の通りの順に譯するのが慣例の様になつ  
てしまつたやうです。だからこんな事を説明するのは満天下のモボモガ諸君に  
對する侮辱と受け取られるかも知れません。

しかし倒置といふ事實だけは心得ておて頂きたい。勿論英語でも此の例は  
あります。

倒置法 [Inversion] の話はこれで終り。

☞ 読本の部第十課を讀め。

# 第十九講

## 人代名詞

## 134. 人代名詞の格變化

人代名詞は、既に讀本の部で大部分出て來た筈ですが、ここで一つ整然と表にして研究しませう。

	私	汝	彼 (m.)	彼女 (f.)
1	ich	du	er	sie
2	mein(er)	dein(er)	sein(er)	ihrer
3	mir	dir	ihm	ihr
4	mir	dir	ihm	sie

	それ (n.)	我等	汝等	彼等
1	es	wir	ihr	sie
2	sein(er)	unser	euer	ihrer
3	ihm	uns	euch	ihnen
4	es	uns	euch	sie

	あなた
1	Sie
2	Ihrer
3	Ihnen
4	Sie

私、汝、彼、それ、の所で、それぞれ二格の *-er* の語尾に括弧が附いてゐるのは、略して用ひても良いと云ふ意味です。然し略さない方が普通です。

此の表は、もはや説明の餘地はなく、ただ皆さんの暗記を俟つのみですが、ただ一つ、二格だけは一寸詳しく註釋する必要があります。

## 135. 人代名詞の二格は物主代名詞とどう違ふか？

mein (私の) dein (汝の) 等、不定冠詞と同じに變化する、物主代名詞 [Personalia] なるものがありましたでせう？ それは名詞の前に附く、冠詞的形容詞的なもので、これまで既にどしどし使つて來ました。然るに、人代名詞 [Personalia] なるものがあつて、ich, du, er 等、名詞的に用ひられ、その二格、meiner, deiner と云ふのが現れて來ました。兩方とも、日本語で云へば「私の」です。此の二つのものはどう云ふ風に違ふでせう？

先づ英語に類似現象を求めませう。物主代名詞（正確に云へば物主形容詞）の mein は、英語の my です。所が、人代名詞の二格 meiner は、英語の of me です。

英語で「……の代りに」と云ふ事を instead of と云ひますね。また「……が好きだ」といふ形容詞的な熟字に to be fond of といふのがありますね。さういふ場合に、文法の方では fond は of を支配すると云ひます。支配すると云ふのは、その後に必ず伴ふのが規則であると云ふ事です。

ドイツ語の二格支配といふのがそれです。例へば instead of は、ドイツ語でも anstatt と云つて、やはり二格支配です。二格支配の筈で、それは分解して考へて見れば解る通り、

anstatt des Vaters

と云へば、父 [Vater] の [des] 場所 [statt] に [an] といふ事で、それが「父の代りに」といふ意になるのですから、つまり英語の instead of my father と同じ構造です。（statt は die Stadt 場所、のこと。）

所で、父ならばさうなりますが、「私の代りに」だつたらどうでせう？勿論 an meiner Statt と、物主代名詞を用ひる方法もあるけれども、前と同じ構造にするとすれば、meines Vaters の場所に何を置きますか？ ich を置きますか？ ich は一格です。此の場合は必ず二格が必要です。——そこでどうしても ich の二格になる、名詞的なもの、即ち meiner が必要になつて來ます。（meiner の語尾の -er は一見格語尾のやうですが、間違へてはいけません。上に引用した an meiner Statt の meiner とは、單に偶然似てゐるきりの話です。）

## 136. 前置詞の格支配

話が格支配に及んだ序でに、傍ら代名詞の練習を兼ねて、各品詞の格支配に関する問題を略述して置きませう。

まづ前置詞の格支配ですが、たとへば *mit* [英語の *with*] が三格支配と云ふ事は既に第一巻以来の讀本の部で承知の事と思ひます。「私と共に」は必ず *mit mir*, 「彼と共に」は必ず *mit ihm* でなくては不可ません。また四格支配の前置詞なるものがあつて、例へば *für* [英語の *for*] がそれです。「私のために」は *für mich*, 「彼のために」は *für ihn* です。*anstatt* [……の代りに] が二格支配である事は今述べた所ですが、その外にもなほ、「……の間に」[英語の *during*] と云ふ *während* は二格支配です。

また特異な現象は、*auf* [on] *in* [in] *vor* [before] *unter* [under] *an* [……に接して] 等、位置を示す前置詞の大部分は、意味によつて三格支配の時と四格支配の時とがあります。

*ich lege das Buch auf den Tisch.*

譯。 私は [*ich*] 本を [*das Buch*] 机の上へ [*auf den Tisch*] 置く [*lege*].

*Das Buch liegt auf dem Tische.*

譯。 本は [*das Buch*] 机の上に [*auf dem Tische*] 横たはる [*liegt*].

つまり、四格の時は、上なら上に向つてする運動を意味し、三格の際は静止状態を指します。詳細はいづれ前置詞の章で述べますが、重要な現象故、機を捉へる毎に指摘する譯です。

## 137. 動詞の格支配

動詞に格支配があるのは當然で、日本語でも、たとへば「助ける」と云へば、誰それ「を」助けると云つて、誰それ「に」助けるとは云はない。諂ると云へば、例へば貴族院「に」諂ると云ふ。どちらでも好さうだが、習慣でどちらかに決まつてゐます。これが即ち「支配」といふ現象で、支配には別に論理的な理由はありません。

支配格は大抵日本語と一致してゐますが、一致しない場合は特に注意を拂つて覚えて置かないと、ドイツ書を讀む際に色々と疑問が起ります。

違つてゐる例は、たとへば助けると云ふ *helfen* です。日本語とは違つて、

「私は彼に助ける」 *ich helfe ihm* と云ひます。(但し、救助するといふ時には四格支配の *retten* を使ひます。)

日本語では、或人「に」或事を教へると云ふが、ドイツ語では *jemanden etwas Lehren*, 或人「を」或事を教へる、と云つて、四格を二つ支配する。また挨拶する *grüßen* は四格支配で、*er grüßt mich* 彼は私「を」會釋すると云ふ。

その外になほ動詞の「前置詞」支配と云ふ事もありますが、それはもつと先へ行つてから述べます。

## 138. 形容詞の格支配

形容詞にまで格支配があります。一番わかり易くて日本語に近いのは三格支配ですが、二格支配の場合は日本語に平行したもののがありません。

*treu 忠實な willkommen 歓迎された ähnlich 似た bekannt よく知れた fremd 疎しい、等は三格支配。*

例 *Er ist uns treu.* 彼は我々に忠實だ。

*Sie ist dir bekannt.* 彼女は汝にとつて既知の女だ。

*Sie bin ihr fremd.* 私は彼女にとつては無縁だ。

*eingedenk を忘れない würdig に取つて恥しからぬ、等は二格支配です。つまり英語の fond of のやうなもの。*

例 *Sie seid meiner eingedenk.* 汝等は私を忘れない。

*Sie sind seiner würdig.* 彼等は彼を恥しめす。

*lang の長さある breit の幅ある hoch の高さある、等、度量衡に關する形容詞は四格支配です。*

例 *Die Mauer ist 2 Meter hoch.* 壁は二米突の高さだ。

註 読本の部第十一課を讀め。

## 第二十講

### 前綴(或は接頭語)

何處の國語でも、動詞は、單一な形、即ち原始的な語幹は非常に少數で、それに色々な頭をつけたり尾をつけたりして、人間界の複雑な現象を微細に表現して行くものです。たとへば日本語に例を取ると、「見る」と云ふ語幹だけでは其の時々の微妙な事態がぴつたりと表現出来ない。そこで mi- と云ふ語幹にいろんな語尾をつけて造語する。何處かで「見掛け」た顔だと思つて「見とれ」て居ると、其の瞬間に「見そめ」てしまふ。「見なれ」てしまふと、もう「見それ」る氣遣ひはない。「見入られ」〔魅〕た日にはもうおしまひで、もう何處まで深入りするか「見込み」がつかない。けれども、こちらの正體を「見きはめ」られてしまふと、もう何時などき「見離され」るかも知れないから、こちらでも程好く「見切り」をつけて置く必要がある、——と云つたやうな譯です。

ではそれらの「……掛ける」とか「……切る」とか「……込む」とか云つた様な語尾には一體どんな意味があるかと云ふと、それらの細かい語尾には、大抵の場合、さう大した厳密な意味はない。たとへば「見掛ける」の「掛ける」、「仕掛け」〔からくり〕の掛け、「泊り掛け」の掛け、それらの「掛け」に共通の意味はとなると、それはとてもむづかしい事になつて、學者が百人寄れば百人とも意見が違ふでせう。

ところが實際上は何もむづかしい問題はない。「色仕掛け」と云へば誰にでもわかる。仕掛けると云ふ變な言葉と、からくりと云ふ意の仕掛けとの間の微妙な關係は誰にでもわかる。それは、分解して考へないと、合したもの全體に關して一つの具體的な感じを持つてゐるからです。此の意味學的方面 [semantische Seite] を始終念頭において考へないと、あまり形式の分解に趨つてしまふと、わかる可き筈の事がわからなくなつてしまひます。

ドイツ語の動詞もやはりそれで、複合動詞は、全體で一つの具體的な意味を持つてゐるのですから、それを知つての上で前綴の意味を考へるのはよろしいが、前綴を初步のうちにあんまり気にし過ぎて、複合動詞全體の形を一つの具體的な單語として覚える事を怠つてはいけません。

139.

### 複合動詞 {1. 非分離動詞 2. 分離動詞}

gehören [属する] は、御覽の通り、殆んど説明し難い ge- といふ前綴と、聞くと云ふ hören とから成つてゐますが、ドイツ人はもはや ge- その者の特別に持つてゐる意味は全然意識しないで、それを單なる一語と思つてゐます。

ところが、同じ hören を語幹とする aufhören と云ふ字があります。 auf は「上」ですが、これも先づ前綴にはさう大した意味は無いと云つてよろしい。意味は「止む」「終る」です。(もつとも詳しく詮索すれば auf に物の休止を表現する意味はあります。 aufheben は揚棄する、 aufhalten は支へとめる、日本語でも、書物を一冊あげるとか、雨が上るとか、あがつたりだと云ひますが、まあそれと似たやうな心理です。)

所で gehören と aufhören とは、文章内で、取り扱ひ方がすつかり違ひます。現在の變化では、

ich gehöre 私は属する — ich höre auf. 私はやめる。

ich gehörte 私は属してゐた — ich hörte auf. 私はやめた。

gehören も aufhören も共に複合動詞ですが、前者は非分離動詞、後者は分離動詞と謂ひます。

140.

### 非分離動詞

非分離動詞は、前綴こそ附いて居ますが、使用し方はあたりまへの動詞とちつとも變りませんから、既にこれまでにも、どしどし使つて來ました。 beginnen [始める] zerstören [破壊する] ver-teidigen [守る] besuchen [訪問する] gehorchen [服従する] verlangen [要求する] vergessen [忘れる] erzählen [語る] 等は既に第一巻以來讀本の部で御馴染みの動詞だらうと思ひます。むしろそれらの動詞に be-, er-, ver-, ge-, zer- 等の前綴が附いてゐる事には気が附かなかつたらぬでせう。

非分離動詞の非分離前綴には次の如き特徴があります。

(1) 前綴にアクセントなく、その次に續く語幹を強く發音する。

erzählen [エルツァーレン] にして [えルツューレン] に非ず。

(2) 前綴は、大抵の場合、それのみ一語としては存しない。

たとへば be なんて字はありません。 ver, zer も同様です。 er もさうで、「彼」といふ er は、あれは全然別物です。

これには勿論多少の例外があります。

(3) 一語として存しない故、それ自身に大した意味はなく、ただ前述の如く諸種の微妙な色彩を出すための道具に過ぎない。その意味とでも云ふ可きものは單語に數多く接しながら追々會得できます。第五卷第六卷の講義で、實地に當りながら其の方面の研究もする筈です。

## 141. 分離しない前綴

分離しない前綴は極く少數です。以下表にして一つ宛例を擧げませう。

## 必ず分離せぬ前綴

1. be-	befüllen	訪問する
2. ge-	gefallen	氣に入る
3. er-	erziehen	教育する
4. ver-	verstehen	理解する
5. zer-	zerstören	破壊する
6. ent-	enthalten	含む
7. emp-	empfinden	感する [單語數極く少し]
8. miß-	mißfallen	氣に入らぬ

## 大抵の場合は分離せぬ前綴

1. voll-	vollenden, vollführen, vollziehen, vollbringen の五個 (皆完成、實行するの意)
2. hinter-	hinterbringen 密告する
3. wider-	widerstreben 抵抗する、背馳する。

主なるものは be-, ge-, er-, ver-, zer-, ent- の六個です。

## 142. 分離動詞

これに反して、現在形、過去形等に用ひる際に、前綴だけが動詞の語幹から離れるのを稱して分離動詞と謂ひます。「私が始める」と云ふ際には、ich fange an と云ひますが、fange と an とは決して二字ではなく、不定法は anfangen です。an- 等、

分離する前綴の特有點を述べると、丁度前に非分離前綴に就て云つた事の反對になります。

(1) 分離する前綴は必ず語幹よりも強く發音する。——これを誤ると、時には飛んでもない間違ひが起ります。たとへば eingehen [這入る] の前綴 ein にアクセントを置かずに發音したら、ein Gehen, 卽ち「一つの歩行」といふ風にきこえるでせう。

(2) 分離する前綴は大抵の場合一語として存します。今述べた eingehen の ein は、勿論不定冠詞の ein ではありませんが、in と同じものです。mitgehen [同行する] と云へば、mit は前置詞の mit と同じもので、茲ではそれが副詞的に用ひられてゐるに過ぎません。

(3) 従つて、かなりはつきりした「意味」を持つ前綴が大部分です。ein- は中へ、mit は一緒に、と云ふ事です。一體分離動詞の場合には前綴の意味が効きます。

## 143. 分離する前綴

分離する前綴は殆んど無限で、またいくらでも後から拵へて行きますが、下にその一班を紹介して見ませう。所謂その片鱗を覗ふに過ぎませんが、大體どんなものかと云ふ事が解れば結構です。

auf-gehen	昇る
unter-gehen	沈む
ein-gehen	這入る
aus-gehen	出る
nach-gehen	跟いて行く
ab-gehen	退場する
bei-stehen	補助する [傍に立つ]
vor-stehen	長たる地位に立つ
an-fangen	始める
weg-laufen	馳せ去る
fort-laufen	馳せ去る

hin-gehen	往く
her-kommen	やつて来る
empor-steigen	すつと上へ昇る
auf-machen	開ける
zu-machen	閉める
gut-heißen	是認する [よしと稱する]
tot-schlagen	打ち殺す
groß-tun	威張る
acht-geben	注意を拂ふ
statt-finden	行はれる [英語の to take place]
teil-nehmen	參與する [分け前を取る]
heim-gehen	歸宅する、歸省する

大抵の場合は分解して意味がわかりますが、またさうで無い場合もあります。

#### 144. 造語法の一例

分離する前綴は、新造語を作る上に非常に必要で、段々と前綴の用法がわかつて來ると、時に臨んで其の場合だけの用を足すために自分で言葉を作ります。今は既存の動詞となつてゐるものも、曾てはみんな、前綴の意味を應用して造つたのです。たとへば汽車電車等に乗り降りするといふ動詞は、すべて-steigen で、それに違つた前綴が附いてゐるだけです。

ein-steigen	乗車する
aus-steigen	下車する
um-steigen	乗りかへる

また、auf と zu との間のコントラストを應用して、開閉の意を持つ多くの動詞が作られてゐます。

auf-machen	開ける
auf-tun	開ける

zu-machen	閉める
zu-tun	閉める

auf-schließen	開錠する
auf-knöpfen	釦を外す
auf-schneiden	切開する
auf-stauen	融ける
auf-schlagen	(本を)開ける

zu-schließen	閉塞する
zu-knöpfen	釦を掛けする
zu-nähen	縫ひ閉ぢる
zu-frieren	凍え閉ぢる
zu-schlagen	(巻を)閉ぢる

145. **hin と her** 前綴そのものも、必ずしも單一なる一つの語幹ではなく、二字位集つてゐるのが澤山あります。其中でも最も心得て置かなければならないのは、hin と her とを應用した前綴です。

hin は dahin [彼方へ] と云ふ字でわかる如く、自分から彼方の方へ遠ざかる事を意味する副詞です。her は其の反対で、hier [此處] といふ字と同じ語源です。

#### hin を應用した例

hinauf-gehen	彼方へ登つて行く
hinein-gehen	彼方へ這入つて行く
hinunter-springen	下の方へ飛び降りる
hinaus-laufen	彼方へ駆け出て行く

#### her を應用した例

herauf-kommen	此方へ登つて来る
herein-treten	這入つて来る
herunter-fallen	落ちて来る
heraus-kommen	出て来る

たとへば、誰かが扉を叩けば、中にゐる人は herein! (どうぞ) と云ひます。表にゐる客の方では、自分を主にして考へると hineingehen [這入つて行く] するのですが、中にゐる人から見ると hereinkommen 卽ち「這入つて来る」と云ふ事になるのです。

## 146. 分離したりしなかつたりの前綴

少し厄介なのは、動詞の意味によつて分離したりしなかつたりする前綴です。一般的にその區別を云ふと、その前綴が本動詞の部分と融合し切つて、分解して解釋しては稍見當が違つて來ると云つた様な場合、即ち兩者が化合してゐるとでも云つた様な場合には非分離で、それと反対に、前綴と動詞の語幹とが各々その本來の具體的な意味を保全して、それを照し合せて考へた通りの意味の場合、即ち兩者が化合でなくて混合してゐるとでも云つたやうな場合には分離します。これは極く自然な事で、従つて覚え易い區別です。

一例をあげると、unter-halten と云ふ字が二字あります。

unter-halten (分) 下に保つ、器等で受ける。

unter-halten (非分) 楽します、お伽をする。

「ウンテルハルテン」の方は文字通り下に保つ事で、たとへば雨漏りがすればバケツで「受ける」と云ふやうな時に使ひます。ところが「お話相手をする」とか「娯しませる」とか、「長く持たせる」とか云ふ「ウンテルハルテン」の方は、分解しては一寸わからない。英語の entertain や佛語の entretenir を知つてあれば、各國語ともよく似た字があつて、それには何か出所があるに違ひないとは思つても、よほど語源的な研究をしないと早斷は出来ません。こんなのはみんな非分離です。

此の例は最も極端なものを選んだのですが、下に、前綴の紹介をした後、最もよく心得て置かねばならぬ區別を附記します。

## 分離したりしなかつたりする前綴

1. durch-	((分)) durch-reisen 旅で通過する ((非)) durch-rei'sen 縦横に旅して廻る
2. über-	((分)) ü'ber-setzen 向ふ側に渡す ((非)) über-setz'en 録譯する
3. um-	((分)) um-pflanzen 植ゑかへる ((非)) um-pflan'zen 植ゑかこむ
4. unter-	((分)) un'ter-halten 下で支へる ((非)) unter-ha'lten 娯します

少し厄介なのは、動詞の意味によつて分離したりしなかつたりする前綴です。一般的にその區別を云ふと、その前綴が本動詞の部分と融合し切つて、分解して解釋しては稍見當が違つて來ると云つた様な場合、即ち兩者が化合してゐるとでも云つた様な場合には非分離で、それと反対に、前綴と動詞の語幹とが各々その本來の具體的な意味を保全して、それを照し合せて考へた通りの意味の場合、即ち兩者が化合でなくて混合してゐるとでも云つたやうな場合には分離します。これは極く自然な事で、従つて覚え易い區別です。

1. durch- は文字の示す通り、一回きり通過すると云ふ意味なら分離するが、縦横十文字に、貫くとか徹底的に云々するといふ時には非分離。

2. über- は、文字通り、「越えて」といふ意の時には分離し、それが抽象的になつて精神界の事象を指すと分離しません。

3. um- は、轉倒する、變へる、方向を逆にする、といふ時には分離し、周圍にと云ふ、具體的な意の時には非分離です。前に一般的に云つた事は、こゝでは全然逆になつてゐるから注意を要します。

4. unter- [前出]

## 例外を除いて覚える可き前綴

1. voll-	前出の vollenden, vollbringen, vollführen, vollstreden, vollziehen の五字を例外として、分離。
2. hinter-	普通の字は殆んど非分離。
3. miß-	例外的に分離する事あり。
4. wider-	反響、反射の意の數語に限つて分離。
5. wieder-	wiederholen (繰返す) の一字以外は凡て分離。

## 147. 一見分離動詞の如く見える非分離動詞

少し複雑な形

をしてゐる爲めに、一見分離動詞の如く見えて、その實然らざるものがありますから、次のやうな動詞は特別に注意を要します。

argwöhnen	邪推する	frühstücken	朝飯を喫する
handhaben	取扱ふ	fennzeichnen	目印をつける
mutmaßen	推量する	weissagen	豫言する
rechtfertigen	證しを立てる	wirtschaften	經済する
wetteifern	競ふ	lieblosen	愛撫する

offenbaren	啓示する	urteilen	判断する
wehklagen	嘆く	langweilen	退屈させる
liebäugeln	秋波を送る	willfahren	云ふなりになる
hohnlachen	嘲笑する	hohnsprechen	嘲る
wetterleuchten	稲光りする	nachtwandeln	夢遊する
lustwandeln	遊歩する	frohlocken	雀躍する
wallfahren	巡禮する	ratschlagen	評議する
brandmarken	烙印を捺す	brandschatzen	焼誅する

## 第二十一講

### 分離動詞の用法

前章の前綴に関する講義で、前綴、即ち所謂接頭語を有する複合動詞なるものに、分離動詞と非分離動詞との區別がある事を述べました。非分離動詞の方は普通の用法ですが、分離動詞の方は一寸用法が厄介ですから、一章を割いて説明したいと思ひます。

#### 148. 文章内に於ける前綴の位置

まづ重要な問題は、一文の中に於て、分離する前綴を何處に置くかといふ問題です。一般的な規則にして云ふと斯うです。分離動詞の前綴は、動詞以外の成分の中で最後位を占める。

前綴は動詞的要素ではありません。動詞的要素と云ふのは、定形、不定法、過去分詞、時としては現在分詞の四つです。そこで、動詞以外の要素といふのは、主語、客語、補足語、副詞その他です。動詞以外の要素は普通いくらでも這入つて來ますが、それらの中で、分離前綴は一番最後に置かれるのです。

理屈ばかりでは困るから、すぐ實例を示しませう。次のは、「私を晝飯に招待する」といふ文章の、あらゆる場合を並べたのです。今日 [heute] 私を [mir] 晝飯に [zum Mittagessen] 及び、招待する [einladen] の前綴 *ein* 等はすべて動詞以外の要素です。

#### 1. 単純な正置法

Er lädet mich heute zum Mittagessen ein.

#### 2. 助動詞を加へると(正置)

Er will mich heute zum Mittagessen einladen.

#### 3. 現在完了にすると(正置)

Er hat mich heute zum Mittagessen eingeladen.

## 4. heute を先にすると(倒置)

Heute lädt er mich zum Mittagessen ein.

## 5. 命令法 lade ein! を用ひると

Lade mich heute zum Mittagessen ein!

## 6. 副文章にすると(後置)

Wenn er mich heute zum Mittagessen einlädt,

## 7. 副文章に助動詞を用ひると(後置)

Wenn er mich heute zum Mittagessen einladen will,

## 8. 副文章を現在完了にすると(後置)

Wenn er mich heute zum Mittagessen eingeladen hat,

## 9. 過去の正置

Er lud mich heute zum Mittagessen ein.

## 10. 過去の後置(副文章)

Als er mich zum Mittagessen einlud. (卷末の註を見よ)

上例で明かに解る通り——これは文章論の復習にもなりますが——動詞以外のものの位置は、たゞ如何なる場合に於ても決して變らず、常に同じ順序に置かれます。動詞の中でも、不定法や過去分詞の位置は一定不變で、場合によつて位置をかへるのは、定形のみだといふ事になります。

前綴もまた、いつも同じ位置を占めるものの一つです。文章の一番最後に来る、但し不定法過去分詞等はその次に来る。定形は、副文章では、そのまま次に来る、といふわけです。

## 149. 前綴と本動詞とを一字に書く場合

副文章に於ては  
定形が後置され

ますから、従つて定形は前綴の次に來ます。その場合には、上に挙げた例の如くに、本動詞の語幹と一字になつてしまひます。不定法の場合も同様です。

## 150. 分離動詞の三要形

従つて、分離動詞の三要形を擧げる  
と下の如くになります。

einladen, lud ein, eingeladen. 招待する

ausgehen, ging aus, ausgegangen. 外出する

anfangen, fing an, angefangen. 始める

殊に過去分詞の前綴 *ge-* の入れ所に注意を要します。非分離動詞の際に  
は、すつと前に、三要形を述べた際に、*ge-* を省くといふ事を断つて置いた筈です。参考のために非分離動詞の三要形もあけて置きます。

verstehen, verstand, verstanden. 理解する

beginnen, begann, begonnen. 始める

erzählen, erzählte, erzählt. 物語る

## 151. zu を伴ふ不定法の形

英語でも、何々す可き、またはす  
可くと云ふ際には *to* を加へて *to*  
*begin*, *to understand* なぞと云ひます。これに相當するのがドイツ語の *zu*  
を伴ふ不定法です。

例へば、「彼は私を理解し始めた」は *Er fing an, mich zu verstehen.* ところが分離動詞の場合には、*zu* が前綴と語幹との間へ這入ります。つまり過去分詞の *ge-* と同じ取扱ひをするのです。

例一 *Er ging in die Stube hinein, um die Fenster aufzumachen.*

譯。窓を [die Fenster, pl.] 開ける可き [aufzumachen] ために [um] 彼は  
[er] 部屋の中へ [in die Stube] 這入つて行つた [ging hinein].

例二 *Er hat keine Lust, am Feste teilzunehmen.*

譯。彼は [er] 祝賀祭に [am Feste] 参加す可き [teilzunehmen] 何等の欲  
望も持たない [hat keine Lust].

(*zu* を伴ふ不定法の詳細は、第四卷第三十六講。)

## 152. 成句の分離動詞化する傾向

此處で成句といふのは、動詞を中心とする成句

(即ち熟語)です。主として動詞、前置詞を伴ふ名詞がついてゐます。

## (1) 動詞を伴ふ成句の例

kennen lernen	知り合ひになる
spazieren gehen	散歩する
schlafen gehen	就寝する

## (2) 前置詞を伴ふ成句の例

nach Hause gehen	歸宅する
zu Grunde richten	滅ぼす
bei Seite legen	貯へる、残す、臍縗る。
in Frage stellen	疑問視する

## (3) 形容詞を伴ふ成句の例

schuldig sprechen	有罪の宣告をする
aufrecht erhalten	嚴然と維持する
rein schreiben	清書する

## (4) 名詞を伴ふ成句の例

Spaß machen	面白い
Platz machen	席をあける
Krieg führen	交戦する

斯う云つた様な調子の成句は、段々と分離動詞のやうな風に不定法その他の場合に一字に書いて、その前にある動詞、前置詞、形容詞、名詞等を前綴の様な取扱ひにする傾向があります。現代のドイツ人は殊に此の傾向が甚だしいやうです。たとへば、*bei Seite legen* を *beiseite legen* と書くのはもうすつと前から當然になつてゐますが、その内には *beiseitelegen* とか *beiseitegelegt* とか書くやうになるかも知れません。*kennenlernen*, *nachhausegehen*, 等ももう大分慣れて來たやうです。

要するに、それらの前綴そのものを一字に書くのは無理もない傾向です。 zugrunde richten と書く癖に、in Frage stellen をどうしてまだ infrage stellen と書かないか、そこには何の理由もなく、大勢がやり出せば眼に慣れる、從つてそれが正しくなると云ふわけです。

此の曖昧な現象は、ドイツ語の前綴なるものの生成の経過を面白く註解してゐるではありませんか？一體此の分離動詞と云ふ現象は、語學的興味を持つてゐる人には好個の研究対象で、一般に言語現象と云ふ立場から心理的、論理的、さては哲學的な諸種の有益なる觀察を許すと思ひます。

## 153. 前綴後置に現れたドイツ國民性

談笑の裡に一寸述べられるやうな種

類の私見を一寸發表して置きませう。佛蘭西人はドイツ人のテンポの遅いのを嘲つて、斯ういふ一口噺を作つてゐます。（まさか事實談ではないと思ひます）或る時ドイツ人が將棋をさしてゐました。知己の佛人が近づいて、「君が巴里へ來たのは昨年でしたかねえ？」と云ふと、相手のドイツ人は、何とも答へないでちつと將棋盤を睨んだ儘パイプをくはへてゐる。佛人は聞こえないのだと思つて、その俱樂部の食堂へ行つて、晚餐をすまして、新聞を讀んで、それからシガーをくはへて、また將棋盤の所へ戻つて來た。するとその時まで前と同じ姿勢で盤を睨んでゐたドイツ人は、ついに駒を一つ進め、パイプからバツと烟を吐いた後、やをら佛人の方を振りかへつて云つた。「いや一昨年でしたよ。」

ドイツ語の前綴なるものはつまり此の「一昨年でしたよ」だと思へば中らずと雖も遠からずです。ちょっと次の長文を研究して下さい。太い文字が分離動詞の分離した形です。

Der Vater ging, nachdem ihm die Mutter gesagt,<sup>(1)</sup> er solle<sup>(2)</sup> vor Abendessen gewiß zu Hause sein,<sup>(3)</sup> weil sonst die Suppe kalt werde,<sup>(4)</sup> und er ihr Hut und Stock abgenommen und die Kinder, die im Zimmer spielten, gefügt hatte, aus. (卷末の註を見よ)

意譯。お父さんは、[晩飯前にお歸りにならないとソップがさめますよとお母さんに云はれ、それからお母さんの手から帽子とステッキとを受取り、丁度部屋で遊んでゐた小兒たちに接吻した後] 表へ出た。

括弧をしたところが原文の最初のコンマから最後のコンマまでに當ります。必ずしも完全にわかる事は望みませんが、とにかく外出するといふ aus·gehen の aus と定形とが、海山越えて相對峙し、長距離電話で親交を結んでゐるのだけはわかるでせう。氣の弱い者は見ただけでも氣が遠くなりさうですね。

これがドイツ語です。今ではもうこんな文章はあまり流行りませんが、それでも學問書には出て來ます。

これがつまりドイツ國民性なんで、ドイツ人はかういふ文章を讀みながら、aus にまで辿りついた時に決して最初の ging を忘れてゐないのです。ここで全文を、概念的に腦裡で綜合收拾するのです。所謂特急的テンポの輕薄な現代人には好い薬ですな。

この點は、延いてはドイツ人の思想、哲學、その他すべての文化現象にも反映してゐます。一事は萬事ですからね。——特にドイツ語研究者諸兄諸姉の御覺悟を促す所以であります。

■ 読本の部第十二課を讀め。

## 第二十二講

### 再歸動詞

Schopenhauer の處世訓は、古代 Stoia 派の處世訓を近代に於て祖述したものとして有名ですが、その中の或る個所で、彼は斯う云ふ意味の事を云つてゐます。——人間は凡て主觀的なものだ、たとへ彼が巨萬の富を貯へ、美妓を擁し、美食に飽きてゐようとも、彼自身の心の中がなつてゐなければ、彼の享樂はさう大した程度の快感を與へない。たとへば、食を味はふのが、「食」を味はふと云ふよりはむしろその食に對する「舌の反應」を味はふと云つた方が妥當であると同様に、人間も、己れ自身を享樂するのである。金や名譽や女色などは、己れ自身を享樂するための偶然の道具である。此の點で英國人は巧い事を云ふ。英語では、面白く暮す事を to enjoy oneself 即ち「己自身を享樂する」と云ふ。ドイツ語のやうに etwas genießen 「或る物を享樂する」とは云はない。ドイツ人なら「彼は巴里を享樂してゐる」といふ所を英語では「彼は巴里に於て己自身を享樂してゐる」と云ふ。つまりこれだ。——

to enjoy oneself は、勿論 Schopenhauer の云つてゐる通り楽しく暮らすといふ意味ではありますが、語學的に云ふと、別に Schopenhauer の考へたやうな、そんな哲學的な深い構造を持つた熟字ではなく、それは、これから述べようとする所謂再歸動詞なるものに屬するので、這般の深長なる意味は、むしろ Schopenhauer の發明に係はるものと云つて宜しいのです。

つまり oneself [己自身を] なる語は、文字通りにはつきりと「己自身を」と云ふ意味で附け加へられたのではなく、元來他動詞であつた enjoy something [何物か「を」楽しむ] を、別に四格の名詞を支配しない自體的なものに改めるために用ひられる、單なる形式的文法的要素に過ぎないのです。

ドイツ語には、此の再歸的な動詞が、英語に於けるよりも、もつともつと廣汎な範囲に亘つて發達してゐます。それらの中には色々な種類のものがありますが、唯今問題にした to enjoy oneself と同じ様な關係の構造を持つたものの例をあげると、[而は英語の oneself に相當します]。

他 動 詞	再 訓 動 詞
weigern 或物を拒絶する	sich weigern 拒む
fürchten 或物を怖れる	sich fürchten 恐怖を感じる

fürchten が「怖れる」だからと云つて、sich fürchte mich は決して「自分を怖れる」ではありません。Schopenhauer 式に因縁を附ければ、危険物そのものは客観的に何等怖ろしいものではない。怖れはすべて主觀的で、むしろ客観的に何の根據もない化物や幽靈なぞが一番物凄い感じを與へるといふ事實でもわかる通り、人間はむしろ危険物に関する自己の想像を怖れるのであって、「私は死が恐ろしい」と云ふのは間違ひだ、「私は、死を怖れるといふ自己の恐怖が怖ろしい」即ち「私は私自身を怖れる」と云ふドイツ語は蓋し這般の關係を道破し得て妙なり、とでも云つたやうな事になるでせう。ショーペンハウエル氏、如何でせう？

まあ脱線はこれ位にして、次に再歸と云ふ變な術語の意味を述べませう。

#### 154. 再 訓 と 云 ふ 意 味

今までに引用した數個の例では、何故「己自身を」といふ字が附くか、その譯がよくは解らなかつたでせうが、次の例で見ると大分はつきりして來ます。

他 動 詞	再 訓 動 詞
freuen 悅ばす	sich freuen 悅ぶ
erfrälten 冷す	sich erfrälten 風を引く
setzen 置く	sich setzen 坐る
ärgern 怒らす	sich ärgern 怒る
töten 殺す	sich töten 自殺する
aufhalten 引き留める	sich aufhalten 滞留する

試みに自分自身を置く (sich setzen) が「坐る」と云ふ意味になるのを考へて見ると、手こそ使はね、とにかく坐るといふ動作は自分が自分を置くには違ひありません。自分が他の何物かを置くのではなくて、自分自身を置く、即ち動作が己れから發して己れに及ぶ、即ち動作が主語から發して主語に歸つて來るわけです。それであ、變な術語だが、再歸動詞と云ふわけです。

けれども、みんな、分解して考へると多少見當が外れて來ます。sich freuen は、決して、面白くもなんともないから自分で強ひて自分を悦ばせると云ふ、所謂附け景氣の意味ではない。單に「悦ぶ」と云ふ自働詞なんです。

だから、やかましく云へば、再歸と云ふのは言葉が悪い。動作は出も戻りもしない。再び歸るなんて事は嘘です。要するに他動詞から自働詞を作る文法上の約束と思へば大過ありません。

#### 155. 三格を伴ふ再歸動詞もあり

再歸動詞に必ず附く「己自身を」といふ sich は、必ずしも「を」と云ふ意味の場合ばかりではありません。再歸動詞によると、「己自身に」の事もあります。sich といふ不定の [oneself] 或ひは單複共通三人稱の [himself, herself, itself, themselves 凡てに相當す] いはゆる再歸代名詞なるもは、三格四格に共通して用ひますが、それが一度文章をなして、私が、又は汝がとなれば観面に違つて来て、三格の sich の場合には mir [私に] dir [汝に] としなければなりません。左に三格の再歸動詞の數例をあげまぜう。

sich erlauben	[自分に許す、即ち]	敢てする
sich schmeicheln	[自分に諂ふ]	自惚れる
sich getrauen	[自分に信する]	勇氣を持つ
sich vorstellen	[自分に表出する]	想像する

たとへば、「私は火の中へ飛び込む勇氣がない」と云ふためには、「私は火の中へ飛び込む可く私自身に信を置かない」といふ構造にしなければなりません。

Sich getraue mir nicht, ins<sup>(1)</sup> Feuer hineinzuspringen.

#### 156. 再 診 代 名 詞

「己自身を」といふ sich, mich, dich, それから「己自身に」と云ふ sich, mir, dir 等を稱して再歸代名詞と云ひます。sich だけはさうではありませんが、mich や mir, dich や dir は既に代名詞として紹介すみの部に屬します。一寸考へると、人代名詞の三格四格を用ひれば、特別に再歸代名詞なんてものは要らないやうに思はれますか、それには一寸譯があります。

Sie sieht mich と云ふ際には、其の mich は必ず主語の sie と同一人で、私と云ふのは一體どの私か？なんて疑問は起りません。二人稱 du の際も同様です。ところが三人稱となると譯が違ふ。Er sieht ihn と云ふと、その ihn は必ずしも主語の er によつて書ひ表はされてゐる人間とは限らない。「甲が乙を」と云ふ場合もある。それは第三者を意味する三人稱といふ者の性質上當然の事實です。一般に第三者と云ふ際には、第四者第五者等々を全部含んでゐるのですからね。

そこで三人稱の場合にだけは、特別に「彼自身」を意味する字が必要になつて来る。英語では、自身と云ふ self を附けるが、ドイツ語のやうに再歸動詞が頻繁に使はれては、一々そんな長つたらしい事は云つてゐられない。そこで三人稱全部に通用する sich と云ふ再歸代名詞があるのです。

sich は、性の區別も數の區別もなく、三人稱全部に通するものですが、決して人違ひを惹起する心配はない。それは、その都度、その文章の主語になる名詞又は代名詞があるからです。

それから、三格にも四格にも共通で、「自分自身を」の時も「自分自身に」の時も、共に sich です。

故に再歸代名詞の中で特別に人代名詞と違つてゐるのは三人稱だけです。念のため、左に表を掲げませう。

	S. 1.	S. 2.	S. 3.	pl. 1.	pl. 2.	pl. 3.
三格	mir	dir	sich	uns	euch	sich
四格	mich	dich	sich	uns	euch	sich

それから、念を入れて「自身を」「自身に」と云ふ selbst を入れる事もあります。さうすると大抵意味が文字通りになつて、er fürchtet sich だけならば「私は恐怖を感じる」ですが、er fürchtet sich selbst と云ふと、「彼は彼自身を怖れる」と云ふ意味になります。そんなのはもう元來の意味に於ける再歸動詞ではないので、再歸動詞といふ以上は、分解して考へた意味から多少離れた自働詞的な概念に結晶してゐなければなりません。

### 157. 再歸動詞の人稱變化

再歸動詞の人稱變化と云つて、別に特別な變化をするわけではなく、ただ sich もしくはそれに相當する再歸代名詞を附ければ好いのです。

### (1) 四格の再歸代名詞を伴ふ場合

sich schämen (恥ぢる) の現在

ich schäme mich	wir schämen uns
du schämst dich	ihr schämt euch
er schämt sich	sie schämen sich

### (2) 三格の再歸代名詞を伴ふ場合

sich vorstellen (想像する) の現在

[この例は同時に分離動詞ゆゑ注意を要す]

ich stelle mir vor	wir stellen uns vor
du stellst dir vor	ihr stellt euch vor
er stellt sich vor	sie stellen sich vor

三格を伴ふのと四格を伴ふのとは、要するにただ ich と du の所だけで相違してゐるわけです。では「を」と「に」の區別がわかるかと言ふに、それは、本動詞の性質、即ちその語の格支配によつてわかります。

### 158. 複數人稱の再歸形は二つの解釋を許す

一つ困  
つたの

は、再歸形の複數の場合です。元來の再歸動詞ならば決して意味が曖昧になる事はありませんが、分解して考へた通りの意味を持つてゐる場合、たとへば sich töten (自分を殺す、自殺する) などの場合には斯う云ふ問題が起つて來ます。

Sie töteten sich.

これは「彼等が各々自殺した」でせうか、それとも「彼等がお互に殺し合つた」でせうか？單に彼等が彼等自身を殺したでは、どちらの意味だかわからない。自殺と他殺とでは大變な相違ですからね。

これは已むを得ないのです。何故已むを得ないかと云ふと、其の原因は、sich töten が、元來の再歸動詞でないと云ふ所にあるのです。これが若し元

來の再歸動詞、即ち文字通りの概念を離れて、分解を許さない別個の意味を持つてゐる再歸動詞なら、決してこんな曖昧は起りません。 Sie freuen sich は必ず「彼等が悦ぶ」であつて、決して「彼等が彼等自身を悦ばせる」ではありませんから、めいめいが附け景氣で悦んでゐるのか、お互に悦ばせ合つてゐるのか、なぞと云ふ問題は断じて起りつけなしです。

ですから「再歸動詞」と、動詞の「再歸形」とは區別しなければなりません。複數で兩意が生ずるやうなのは、未だ以て再歸動詞の末席を汚すにも足りない贋物です。類似の品あるによつて登錄商標に注意を要すといふ譯。

159. **相互代名詞** とは云ひ乍ら、曖昧を曖昧の儘にしてしまふのは面白くないから、此の機を利用して、所謂相互代名詞なるものを紹介しておきませう。

Sie töten sich の兩意を避けんがためには、簡単なる方法があります。それは、白虎隊の様に、各人各自が自害すると云ふ際には ein jeder tötete sich [各人が己自身を殺した] と云へば宜しい。それとも楠正成の一族郎黨の様に、互ひに刺し違へて果てると云ふ意味、もしくは相互虐殺が行はれると云ふ意味なら、Sie töteten einander [彼等はお互ひを殺した] と云へば宜しい。einander は sich の代りです。もつと念を入れると、Sie töteten sich, einer den andern. [彼等は彼等自身を殺した、一人が他を] になります。 andern は形容詞の變化をします。

einander には諸種の複合形があります。

miteinander=einer mit dem andern

nacheinander=einer nach dem andern

ineinander=einer in den andern

gegeneinander=einer gegen den andern

前置詞は大抵 einander と複合形を作ります。意味は、miteinander は「一緒に」nacheinander は「順々に」ineinander は「喰ひ合はさつて」gegeneinander は「相對抗して」です。

160.

**四格を伴ふ再歸動詞はそれ以外  
決して四格の補足語を探らず**

三格の sich を伴ふ  
再歸動詞の方は他  
の意にもなります

ですが、四格の sich を伴ふ再歸動詞は必ず自働詞ですから、外に何々「を」と云ふ事は出來ません。たとへ日本語に譯した際にはさう云へても、ドイツ語では決して四格の名詞を伴はないのです。

ではどうするか？四格の代りに前置詞を用ひます。それとも二格を用ひます。たとへば sich fürchten は、「びくつく」といふ意ですが、「何々を怖れる」と云ふ云ひ方も出來る。その時には vor etwas [或物の前に] を用ひて、「或物の前に恐怖を感じる」と云ふのです。

Er fürchtet sich vor mir.

譯 彼は私の前に怖れをなす。

また sich gewöhnen は、自分を慣らす、即ち「慣れる」の意ですが、或物になれるといふ時には

Sich gewöhne mich an die Arbeit.

譯 私は仕事に慣れる。

と云ふ使ひ方をします。斯ういふ際には、その動詞によつて支配する前置詞が習慣で決まつてゐます。これを動詞の前置詞支配と云つて、作文の際などには最も重要になつて來るのであります。

161.

**二格支配の再歸動詞**

また一番初學者に變な印象を與へるのは、二格支配の再歸動詞です。

勿論四格の sich を伴ふ方の再歸動詞です。

再歸動詞が二格の補足語を支配する際には、その二格は大抵日本語の「を」に當ります。また實際ドイツ語の方でも、四格にすべき筈の所なのですが、既に「自分を」といふ sich があつては、二つも「を」が重なると變になるから、それで二格になつてゐると思へばよろしい。従つて其の二格は決して「の」の意味ではありません。

sich eines Dinges erinnern.

或物を思ひ出す

sich eines Dinges enthalten.

或事を差し控へる

sich jemandes erbarmen. 或人を憐れむ

sich eines Dinges befleissen. 或事に精勵する

これは非常に澤山出て来る型ですから特に覚えて置いて下さい。

「想ひ出す」と云ふ *sich erinnern* は、*sich an etwas erinnern* でも宜しい。

上述の様に、熟語的なものの不定形をあげる時には、誰か [jemand] 又は [einer] ある物 [ein Ding, n.] ある事柄 [eine Sache] 何物か [etwas] を用ひるのが普通です。同時に、日本語と同じやうに動詞を最後に置くところに注意。斯うした不定形の事を *Rennform* (引用形) と謂ひます。

■ 一 読本の部第十三課を読み。

## 第二十三講

### 關係代名詞

關係代名詞及び關係代名詞によつて導かれる關係文は、これこそ白哲人種の過去數千年の精神文化が残して行つた貴重なる遺産です。これあるが爲めに白哲人種は概念を扱ふ方面の精神界に於て斷然人類の尖端に立つてしまつた。一國語の概念的論理的機構を完全ならしめるが爲めにはどうしても關係代名詞が無くてはならない。我々日本人は、歐洲の國語を學ぶと同時に、斯くの如き無形の器具を相續し、且つ駆使しなければならないのであります。

#### 162. 先行詞 *Antezedenz*

關係代名詞は、一文章中の隨意の一名詞を捉へて、それに他の副文章を引つ掛ける時の媒介をする代名詞です。つまり一つの名詞を捉へてそれを一つの他の文章に引き伸ばすと云つても宜しい。其の時は、關係代名詞及び關係的副文章は大抵の場合、基本になる、問題の名詞の後に従ひます。故に、その名詞を、次に来る關係代名詞の先行詞と云ひます。

*Der Mann, der mich grüßt hat,....*

上例は「私に挨拶した男」と云ふ意味ですが、關係代名詞 *der* は、その前にある名詞 *Mann* を「受け」てゐる、または *Mann* に「係かつてゐる」と云ひ、*Mann* といふ名詞は、次の *der* の「先行詞」であると云ひます。

關係代名詞と其の先行詞との間は必ずコンマによつて仕切られます。また關係文が終ると必ずコンマによつて仕切る。つまり關係文はコンマに依つてその前後を仕切られる譯で、ちょっと括弧の中に閉じ込められてゐるかの様な感があります。(此の點が英語と違ひます。)

先行詞は時とすると省かれる事があります。

*Wer mich grüßt,....*

譯。誰でも [wer] 私に [mir, 私を] 挨拶する [grüßt] ものは。即ち、私に挨拶するものは誰でも、の意。

上の例で、*wer* は、苟しくも……するものは、の意で、「もの」といふ先行詞はなくても、*wer* なる関係代名詞そのものが、先行詞と関係代名詞とを兼ねてゐるのです。「何でも……もの」といふ *was* も同様です。先行詞があるものを定関係代名詞と云ひ、無いものを不定関係代名詞と云ひます。「定」と云ふのは、性、數の決まってゐる一定の名詞を受けるからで、不定と云ふのは、誰にでも、または何にでも當てはまる様に、漠然と一般的な云ひ方をし、別にこれぞと云ふ一定の名詞を想定させないからです。

### 163. 定関係代名詞

一定の先行詞を受ける定関係代名詞は、現今のところ二種類あります。一は、定冠詞と殆んど同形のものを用ひ [英語の *that*]、他は疑問詞 *welcher* [英語の *who, which*] と同じ形を用ひます。

	der				welcher			
	m.	f.	n.	pl.	m.	f.	n.	pl.
1	der	die	das	die	welcher	welche	welches	welche
2	dessen	deren	dessen	deren	缺	缺	缺	缺
3	dem	der	dem	denen	welchem	welcher	welchem	welchen
4	den	die	das	die	welchen	welche	welches	welche

*der* と *welcher*との間には、別に意味上の區別はありません。ただ *welcher*の方は、少し重苦しくて、文語體になりますから、口語體の文章では殆んど用ひられないと云ふだけの區別です。

### 164. 定関係代名詞の性・數・格の定め方

男」と云ふ句を作るとします。「その男」が先行詞だから先づ最初に *Der Mann* を置いて、その次にコンマを打つ、ところで其の次に来る関係代名詞は、上の表の中の何處のを使ふかと云ふ問題です。それは、強ひて厳密に云ふと、斯ういふ風に定義できます。

関係代名詞の「性」、「數」は先行詞に一致せしめ、

「格」は副文章内の關係によつて定める。

たとへば、「私が似てゐると云ふその

そこで、「それに私が似てゐる」といふ關係文を作るためには、「それ」は、先行詞 *der Mann* の數・性、即ち單數男性に定め、*der, dessen dem, den* の列を探ることになります。次に格は、副文章内の關係が「それに」ですから、三格 *den* を採ります。こんどは、先行詞が一格だからと云つて一格にしては不可ません。(ギリシャ語には這般の關係を混同する語法がありますが、ドイツ語には絶対にありません。) ここがはつきり判らない人は、此の講義錄も此の邊で脱會した方が好いでせう。概念的に判然と區別する事、それが出来ないとドイツ語は到底駄目です。

其處で問題の文章を作つて見ると、

*Der Mann, dem ich ähnlich bin,.....*

それとも、*sollen* といふ助動詞を使って

*Der Mann, dem ich ähnlich sein soll,.....*

*soll* は、.....ださうな、といふ意です。

### 165. 日本語の悲哀

既にこんな簡単な文章でも、これを日本語で云はうとすると或種の困難を感じます。一そらんと意譯をして、「私の空似の相手」とか、それとも、「似る」と云ふ以上は、どちらが主でもなくて、甲が乙に似てゐる乙は甲に似てゐない、なんて、そんな變な場合はない譯ですから、關係を反對にして、「私に似てゐる男」とでもやれば苦勞はない譯ですが、文章の關係を其の儘日本語で表現するとなると頗るむづかしい。「私がその男に似てゐるといふ其の男」なんて事になつてしまふ。

つまり日本語には關係代名詞に相當するものがなく、またそんな理窟っぽい考へ方を神武天皇以來しなかつたのです。

こんな例はどうでせう。これは古來の哲學者が、「本質とは何ぞや」 [*Was heißt Wesen?*] と云ふ間に答へるおきまり文句です。

*Das Wesen ist<sup>(1)</sup> das<sup>(2)</sup> wodurch ein Ding das<sup>(3)</sup> ist,<sup>(4)</sup> was es ist.<sup>(5)</sup>*

註 *wodurch* は *durch welches* または *durch das* と同じです。

直譯すると、「本質とは [das Wesen] 或る一つの物が [ein Ding] それに依つて [wodurch] それが [es] 現在ある [ist]<sup>(3)</sup> ところの [was] それ [das]<sup>(2)</sup> である [ist]<sup>(2)</sup> ところの其の物 [das]<sup>(1)</sup> である」[ist]<sup>(1)</sup>

わかり易く云ふと、「本質とは、或物が、依つて以て其物たる所以の點である」、もつと日本語にすると、「本質とは、これあるが爲めに或物が他から區別されると云つた様な其の點である」——譯を止して單なる解釋を下すとすると、「人の人たる所以は其の道義心にあり」と云へば、その道義心が人の本質だ——と云ふ意味です。

けれども、考へ方がはつきりしてゐる上では、どうしても原文に叶はない。こんなものを譯する時にはどうしても日本語に關係代名詞がないのを恨まないわけには行きません。

### 166. 關係代名詞二格の用法

一格三格四格の場合は割合に使ひ易いが、初學者が多少困難を感じるのは二格の場合です。

#### 和文獨譯問題

「良人に先立たれた妻は不幸だ」

文字通りに譯しては決してドイツ語になりません。まづドイツ文の構造を日本語で考へて見ます。すると先づ「……妻は不幸だ」が主文章にならなければ不可ないと云ふ事がわかるでしょう。良人が先立つと云ふ文章は、妻を先行詞として關係代名詞で結び付ければ好いのです。妻が先立つのなら關係代名詞は一格で宜しいが、良人は、妻から考へると、妻「の」良人であるから、此の際は二格が入用です。

それから其の二格の性は女性です。先行詞の「妻」によつて決まるのですから。妻は大抵女のやうに思はれるから女性です。

英語でなら the husband of whomとか何とか云つて、二格的な關係代名詞は名詞の次に來ますが、ドイツ語では前に來て、その次の名詞の定冠詞を取り去ります。

答 Die Frau, deren Mann vor ihr gestorben ist, ist unglücklich.  
Die Frau の代りに das Weib (中性) を使ふと、

Das Weib, dessen Mann vor ihm [または ihr] gestorben ist, ist unglücklich.

註 Das Weib (妻) das Mädchen (娘) das Fräulein (令嬢) 等は、女の癖に中性で、ドイツ人自身も取扱ひに困つてゐますが、それを受ける代名詞は女性で構はないのです。あんまり接近してゐると中性にも扱ひます。

### 167. 關係代名詞と前置詞

關係代名詞には前置詞を附する事も出来ます。さうすると段々關係が複雑になつて来て、日本語に直譯する事が益々困難になるのが普通です。むしろ日本語から獨文に譯する方をやりませう。

#### 和文獨譯

僕は、たつた今あの漁夫が出て來た家に住んでゐるのです。

直ぐに主文章になる部分だけを擱み出さなければなりません。主文章として全體の構造の基礎になつてゐるのは、「僕は……家に住んでゐます」です。「たつた今あの漁夫が出て來た」は家そのものの説明句、即ち家を先行詞とする關係句、即ち副文章になります。

まづ主文章を作ると

Sie wohne im Hause,.....

その次の副文章は、日本語でこそ單に「たつた今あの漁夫が出て來た」ですが、ドイツ語では、その句と家との間の關係を明示しなければならない。即ち「その家から」出て來るのですから、「それから」といふ關係代名詞句が必要です。ところでその「それ」は、先行詞が Haus といふ中性名詞故、das, dessen, dem, das もしくは文語體で welches, dessen, welchem, welches の方を用ひるのですが、「から」といふ前置詞 aus を用ひると、aus は三格支配ですから、そのうちの第三格を取つて、aus dem 又は aus welchem となります。その次の句は、副文章の構造ですから、全然日本語と同じ順にならべます。

答 Sie wohne im Hause, aus dem eben jener Fischer herausgetreten ist.

herausgetreten は勿論 herausgekommen でも構ひません。treten [trat, getreten] は歩むの意です。此處では現在完了にしました。

以上は定關係代名詞の用法の中最も厄介な、二格の場合と前置詞を伴ふ場合を練習したので、實際の諸種の場合は、讀本の部に譲ります。

### 168. 不定關係代名詞

不定關係代名詞といふのは、これぞと云ふ定まつた先行詞を受けないもので、例へば、Was dir gefällt, gefällt mir auch (汝に氣に入るものは私にも氣に入る) 等の如く、was は、「何でも斯く斯様な物は」と云ふ意味故、別にこれぞと云ふ物を指しません。長つたらしく云ふとすれば、Die Dinge, die dir gefallen, gefallen mir auch と云ふ事になります。[Dinge は Ding 物、の複數] それから、たとへ先行詞を置く事があつても、それは所謂不定指示代名詞、即ち alles (何でも) etwas (何物か) nichts (英語の nothing) で、結局、指すが如くにして實は何物をも指さない言葉に限ります。

Alles, was gefällt, ist auch erlaubt.

(凡そ快適なる凡ての物は許されてあり。)

Das ist etwas, was mir ganz fremd ist.

(それは我輩に全然没交渉なる何物かなり。)

Sie habt nichts, was wertvoll wäre.

(君達は貴重なる何物をも所持してゐない。)

それから、was の外に、なほ人間を指すに用ひる wer と云ふのがあります。

Wer lügt, kann auch stehlen.

(嘘を吐くやうな奴なら泥坊もし兼ねない。)

Wer liebt, sieht [scharf]. [sicht, 不定法 leben]

(戀する者は炯眼なり。)

註 sieht [scharf] [鋭く見る]

### 不定關係代名詞一覽

人を意味する時	物を意味する時
1. wer	1. was
2. wessen	2. wessen [用ひられず]
3. wem	3. was, wen [用ひられず]
4. wen	4. was

### 169. 疑問代名詞

この wer と was は、既に讀本部で御承知の通り、元來は疑問代名詞なのです。

Was trägst du in der Hand?

(おまへは手に何を持ってゐるのだ)

Wer reitet so spät durch Nacht und Wind?

(夜と風を貫いて此の夜更けに騎り行くは誰ぞ)

その疑問代名詞を、時には副文章にして用ひる事があります。(定形の後置に注目。)

Sie weiß, was du in der Hand trägst.

(私は、おまへが手に何を持ってゐるか、知つてゐる)

これは決して、「おまへが手に持つてゐる所のそのものを知つてゐる」と云ふ意味ではありません。その時には第一 wissen は使へない。Kennen を使ひます。

けれども、さう云ふ、不定關係代名詞的な用法とは、まあ荒っぽく云へば五十歩百歩です。かう云ふところから、つまり疑問詞が關係詞になつて來たのでせう。

### 170. was と前置詞との結合 womit, worin, etc.

定關係代名詞が前置詞と共に用ひられる様に、不定關係代名詞も前置詞と

共に用ひられますが、其の時には普通兩者が結びついて、しかも順が反対になります。

womit	= mit	was
wodurch	= durch	was
wobei	= bei	was
wofür	= für	was
wovon	= von	was
wogegen	= gegen	was
worum	= um	was

それから、in, auf 等、母音で始まつてゐるものは、wor- を附します。

worin	= in	was
worauf	= auf	was
woran	= an	was
woraus	= aus	was
worach	= nach	was

之等のものは凡て一個の單語として覚える必要があるので、勝手なものを捏造する事は許されません。たとへば ohne [英語の without] が前置詞だからと云つて、worohne なんてものを作つては不可ない。そんなのは無いのです。

これらは、元來は不定關係代名詞の筈ですが、定關係代名詞として用ひる事もあります。たとへば in welchem または in dem と云ふ代りに worin と云ふ等。

*Das Glas, worin Bier ist,.....*

(ビールの入つてゐるコップ)

*Der Stuhl, worauf ich sitze,.....*

(私が腰かけてゐる椅子)

その外になほ多少構造の違つた結合もあります。

weshwegen	(.....故に)
weshalb	(.....の爲めに)
warum? (何故?)	疑問詞にのみ用ふ。

以上のものは、凡て、同時に疑問詞です。

*Der Tisch, woran wir sitzen.* [關係代名詞]

(我々が着席してゐる机)

*Woran hängt das Blatt?* [疑問詞]

(ピラは何に懸けてあるか)

註 既に御存じの通り、in, an, auf, 等は、三格支配の時は「中で」「そばで」「上で」等、静止状態を意味し、四格支配の時には「中へ」「そばへ」「上へ」等、その點に向つてする運動、方向を指すのですが、was と結合されると、格の關係がわからなくなつてしまひます。ただ in だけはその區別があつて、worin は三格、静止、worein は四格で、運動方向を現はします。

### 171.

### 文意を受ける was

これは was の特殊な用法で、先行詞の代りに、文章全體、もしくはその一部の意味を漠然と受けます。

*In diesem Augenblick sieht er an seinem Schreibtisch und schreibt Briefe, was er nur sehr selten tut.*

只今の瞬間 [in diesem Augenblick] 彼は [er] 彼の書物机に [an seinem Schreibtisch] 掛けて [sieht] 手紙を數通 [Briefe=不定冠詞の複數] 書いてゐる [schreibt]、それは [was] 彼が [er] 只 [nur] 非常に稀に [sehr selten] する事が [tut]。

漠然と文意を受けるとは云ひながら、よく考へて見ると、決して漠然とではありません。それは文意總體の意味する所を考へれば、必ず何か確かな一つの事實を指してゐるのです。ただそれが一定の「物」ではなくて、「事實」だと云ふだけの相違です。

172. 關係代名詞 *welcher* の附加語的用法

これも特殊な用法に屬します。どう云ふ意味で普通の定關係代名詞的用法と相違してゐるか、仔細に考へないと解りません。文法的な頭腦を鍛る練習です。

In diesem Augenblick sitzt er an seinem Schreibtisch und schreibt Briefe, *welches Geschäft* er gewöhnlich seinem Sohne zu überlassen pflegt.

此の瞬間彼は彼の書物机に向つて數通の手紙を書いてゐる。その用事は [*welches Geschäft*, 四格] 彼は [er] 普通 [gewöhnlich] かれの子息に [seinem Sohne] まかせるのを [zu überlassen] 例とするのだが [pflegt.]

*welches* は、前文に先行詞を持ちません。それは次の *Geschäft* (n) に冠さつてゐる形容詞的なもの、即ち附加語です。

173. *wie* と人代名詞で表はす關係文

これは、關係代名詞の部類には属しませんが、關係文を作る上に必要です。たとへば、

## 和 文 獨 譯

此の小説の中に出て来る様な人物は現今の世にはもはや絶対に見受けられない。

註 小説 (der Roman) 人物 (Person, f. Gestalt, f. Charakter, m.) 出て来る (auftreten; erscheinen; vorkommen; または「去來する」といふ wandeln, einherwandeln) 見受けられる (zu sehen sein; anzutreffen sein 邂逅できる) 現今の世 (in der heutigen Welt; in diesem Jahrhundert 今世紀には; heutzutage 英語 nowadays) 絶対に (absolut.....nicht; durchaus.....nicht; nie; niemals.)

「出て来る様な」が問題です。單に「出て来る」ならば定關係代名詞で宜しいが、「様な」を譯するとなると、それでは不可ない。

## 答

1. Gestalten, wie sie in diesem Roman an uns herantreten, sind in diesem Jahrhunderte kaum noch anzutreffen.

2. Charaktere, wie sie in dieser Erzählung auftreten, sind heutzutage durchaus nicht mehr zu sehen.

3. Menschen, wie sie in diesem Romane einherwandeln, sind in der heutigen Welt absolut unentdeckbar.

實際作つて見ると最初あげた單語だけでは間に合はなくなつて來ました  
が、とにかく *wie sie* だけはどうしても使はなければならなくなります。*wie sie* は、要するに複數一格の *welche* または *die* と同じやうなもので、*wie sie* の二字で一つの關係代名詞をなしてゐると云つても好いでせう。

以上は一格の場合ですが、これが四格でも構ひません。

## 和 文 獨 譯

僕なら、君が今やつてゐる様な仕事は朝飯前にやつてのける。

註 朝飯前なんて事はドイツ語に無いから「兒戲である」と云ふ *nur ein Kinderspiel sein* 又は *nur ein Leichtes sein* を使ひます。従つて「僕なら」を「僕に取つては」とします。「やる」は *treiben*.

## 答

Für mich ist ein Geschäft, wie du es jetzt freibist, nur ein Kinderspiel.

此の際、*wie* と *es* とは離れてゐるけれども前例の場合が此處では四格になつてゐるきりです。

174. *wo* を用ひる場合

これも關係代名詞の代用物です。

In der Stadt, wo er sie kennen lernte,.....

(彼が彼女を見知るに至つたその町に)

In der Zeit, wo er noch arm war,.....

(彼がまだ貧乏だった時分に)

とにかく、空間的にも時間的にも、in dem, in welchem, in der, in welcher 等の代りに、簡単に wo を使ふ事があります。

☞ 読本の部第十四課を読み。

175. **da との結合形を關係代名詞に用ひる事あり**

これは少し古い文體に屬しますが、次課の 188 に於て述べてある darin, darauf 等を、關係代名詞に、即ち worin, worauf 等と同じやうに用ひることがあります。

Der Hügel, darauf (worauf の代り) eine Hütte steht.  
(頂上に小屋の立つてゐる丘)

## 第二十四講 指示詞

176. **指示形容詞 der, die, das**

指示詞といふものは、既に指示代名詞といふ名稱の下に御存じの如の、dieser, jener と同じ意味のものです。dieser (此の) jener (彼の) に對して、此處で改めて紹介する der, die, das (定冠詞と同一物を使ふわけです) は、「其の」とでも云へば適當でせう。所で、わざわざ指示「形容詞」などと云ふあまり耳慣れのせぬ術語を使つたのは、der, die, das を指示的に用ひる時には明らかに二つの場合があつて、名詞に冠せられる場合、即ち附加語の場合と、獨立して名詞的に用ひられ、「其の物」「其の人」等になる場合とがあるからです。先づ附加語となる der, die, das から始めます。

指示形容詞 der, die, das.

<i>m.</i>	<i>f.</i>	<i>n.</i>	<i>pl.</i>
1. der [Mann]	die [Frau]	das [Kind]	die [Leute]
2. des [Mannes]	der [Frau]	des [Kindes]	der [Leute]
3. dem [Manne]	der [Frau]	dem [Kinde]	den [Leuten]
4. den [Mann]	die [Frau]	das [Kind]	die [Leute]

何の事だ! つまり定冠詞と同じぢやないか! ——さう云へばさうです。だがよく表を御覧なさい。der Mann ではなくて der Mann です。der の字間が開いてゐます。斯ういふ印刷體を Sperrschrift と云ひます。英語なら特に所謂イタリックで書くところでせうが、くしやくしやしたドイツ字にはイタリックが無い。(もつとも、義武者の活字が剥さへ横にひん曲つた日には見られた圖ぢやないでせうからね。) だからその代償としてドイツ人が斯う云ふ變な事を發明したのです。ドイツ書の中に此の Sperrschrift があつたら、其處は筆者が、特に念を入れ、聲色を勵まして讀者の注意を惹かうとしてゐる文句です。

ドイツの印刷界では、此の Sperrſchrift が頻りに用ひられるから、原稿で所謂アンダーライン（下線）をして置くと、印刷職工がちゃんと字間を開いてくれるといふ約束ださうです。

要するに、指示形容詞に用ひられる *der, die, das* は、必ず Sperrſchrift にするのが約束です。筆記體の時、たとへば手紙の中などでは、文字の下に直線又は波形の線を引きます。よむ時には特に發音をのばし、強く読みます。

### 177. 指示形容詞と定冠詞との差別

例へば *Der Bart des Doktors ist schwarz* と云へば、*des* は普通の定冠詞だから、「ドクトルの鬚は黒い」または前後の文脈によつては「凡そドクトルの鬚は黒いとしたものだ」なんて事になつてしまはないとも限らない。所が *Der Bart des Doktors ist schwarz* と云ふと、「其のドクトルの鬚は黒い」であつて、決して「ドクトルの鬚は黒いとしたものだ」なんて事にはなりません。これが指示形容詞です。

Schiller の長詩 *Das Lied von der Glocke 鐘鐘の歌* [意譯] に、

*Der Mann muß hinaus  
ins feindliche Leben.*

〔男兒は波瀾重疊の  
世の荒浪に乗り出でよ〕

といふ一株があります。直譯すれば、男兒たるものは、敵意に充ちたる生活の裡に出て行かざる可からず、と云ふ事ですが、ドイツ人は、鐘鐘の歌と云へば誰でも知つてゐるから、それをもちつて、

*Der Mann muß hinaus!*

なんて戯談を云ふ事がある。*Der* を強く發音すると、ちよつとした加減で定冠詞が指示形容詞になつてしまつて、「あの男は表へ出なければならぬ」即ち、「あんな野郎、表へおつぱり出しちまへ！」と云ふ事になるのです。「我々男子なるものは」「總じて男子などと申すものは」と云ふ *der* が、一轉して彼の野郎になる、これが定冠詞と指示形容詞との間の區別です。

### 178. 指示代名詞 *der, die, das*

さあ、同じ様なものが盛んに出で來ました。でも *der, die, das* は、本當に之れでもうおしまひです。つまり *der, die, das* には四つの場合がある譯です（1. 定冠詞——2. 關係代名詞——3. 指示形容詞——4. 指示代名詞）。

#### 指示代名詞 *der, die, das*

	<i>m.</i>	<i>f.</i>	<i>n.</i>	<i>pl.</i>
1.	<i>der</i>	<i>die</i>	<i>das</i>	<i>die</i>
2.	<i>dessen</i>	<i>deren</i>	<i>dessen</i>	<i>deren</i> [又は <i>derer</i> ]
3.	<i>dem</i>	<i>der</i>	<i>dem</i>	<i>denen</i>
4.	<i>den</i>	<i>die</i>	<i>daß</i>	<i>die</i>

#### 用法

(1) 後に述べる *derjenige, diejenige, dasjenige* と同様、即ち「それ」です。

*Mein Hauslehrer ist jung; der meines Bruders ist alt.*  
(私の家庭教師は若い、私の従兄のそれは年寄りだ)

(2) 従つて、關係代名詞の先行詞になり勝ちです。

*Ich fürchte den, der seinen<sup>(1)</sup> Sohn nicht zeigt.*  
(私は自分の怒情を色に現さぬ者を恐れる)

(3) 時には人代名詞 *er, sie, es* 等と同様な使用法をします。但し多少指し方が強い。

*Es<sup>(1)</sup> war einmal eine alte Frau, die hatte zwei Söhne.*  
(昔一人の年老いた女があつた、彼女は二人の子を持つてゐた)

(4) 二格 *dessen, deren* 等の用法は特に注意を要します。

*Du bist das Weib dessen, den die Leute hassen.*  
(汝は人々の憎しめる者の妻なり)

註 此の際は、後で述べる *derjenige* の二格と同じで、*du bist das Weib desjenigen* 云々と云つても好いのです。

(5) 二格は、物主代名詞と區別するために用ひる事があります。次の二つの例の相違を考へて下さい。

Sie besucht ihre Freundin und Ihren Onkel.

(彼女は彼女の女友達と彼女の伯父とを訪問する)

Sie besucht ihre Freundin und deren Onkel.

(彼女は彼女の女友達と其の伯父とを訪問する)

179. **deren と derer** 指示代名詞の表が、關係代名詞のそれと異つてゐるのは、複數の二格の個所ですが、*deren* と *derer* とはどう云ふ風に使ひ分けるか？一言にして云へば *deren* は名詞の前に、*derer* は名詞の後に來るのである。

「其の人たちの義務」と云ふのに、云ひ方が二つ出来る譯です。

1. *deren Pflicht* [此の際冠詞を省く]
2. *die Pflicht derer*.

第二の場合、即ち *derer* を用ひる場合には、大抵その次に關係文が續きます。

Hast du die Gesinnung *derer*, die beim Fürsten etwas vermögen, gründlich kennen gelernt?

君は (du) 君側に (beim Fürsten=Fürst m. 腹變化) 多少重きをなす (etwas vermögen=何事かをなし能ふ) 所の (die) 人々の (*derer*) 意向を (die Gesinnung) 根本的に (gründlich) 知悉したか？ (hast.....kennen gelernt?)

180. **指示詞 *derjenige*** これは指示詞 *der* の後に *jenig* と云ふ形容詞が附着したきりで、變化は *der* と *jenig* とを分けて書いた際とちつとも變りません。用法も前の *der*, *die*, *dass* と似てゐます。ただ此の次には必ず名詞の二格または關係代名詞が來ます。「のそれ」とでも譯すれば好いでせう。

	<i>m.</i>	<i>f.</i>	<i>n.</i>	<i>pl.</i>
1.	<i>derjenige</i>	<i>diejenige</i>	<i>dasjenige</i>	<i>diejenigen</i>
2.	<i>desjenigen</i>	<i>derjenigen</i>	<i>desjenigen</i>	<i>derjenigen</i>
3.	<i>demjenigen</i>	<i>derjenigen</i>	<i>demjenigen</i>	<i>denjenigen</i>
4.	<i>denjenigen</i>	<i>diejenige</i>	<i>dasjenige</i>	<i>diejenigen</i>

### 和 文 獨 譯

「神は自ら扶くる者を扶く」

今までの指示詞を使ふと、「者」が四つの方法で云へます。(者は、男女共通故、代表として男性を使ひます。)

1. Gott hilft dem Menschen, der sich selbst hilft. (指示形容詞)
2. Gott hilft dem, der sich selbst hilft. (指示代名詞)
3. Gott hilft demjenigen Menschen, der sich selbst hilft.
4. Gott hilft demjenigen, der sich selbst hilft.

注意 *berjenige* は必ず冠詞の部分を強く發音します。

181. **指示詞 *derselbe* 古形 (*derselbige*)** これは元來英語の the same と同じく、「その同じもの」を意味するのですが、單なる指示詞(代名詞及び形容詞)としても用ひます。だから、「同じ」と云ふ意味にこだはり過ぎるとわからなくなります。

1. Es ist dieselbe Person, die uns gestern besucht hat.  
(それは昨日我々を訪れたのと同一人物だ)
2. Er hatte eine Schwester; dieselbe wurde krank.  
(彼には一人の姉妹があつたが、その姉妹が病氣になつた)

182. ***dieser* と *jener*** これはもう簡単に置きます。ただ一つ、特殊な用法を紹介しておきます。

Ein Offizier grüßt einen Bürger: **dieser**<sup>(1)</sup> nimmt den Hut ab,  
**jener** hebt die Hand auf.

(一人の將校が一人の市民に會釋する。後者は帽子を取り、前者は手を擧げる)

即ち、**dieser** と **jener** とが對照的に用ひられる場合には、近いものを **dieser** (後者) と謂ひ、遠いものを **jener** (前者) と謂ひます。つまり英語の **the former, the latter** です。

## 183. 不定代名詞

次に擧げるものは、普通は不定代名詞と稱する、名の通り頗る不定な一部門をなすものですが、要するに單語として心得なければならぬと云ふに過ぎませんから左に掲げて置きます。

- (1) man 既に述べました。(117 參照)
- (2) jemand 誰か (英語の *some one, somebody*)
- (3) niemand 誰も (英語の *nobody*)
- (4) feiner [同上]
- (5) mancher 多数の人
- (6) etwas, was 何か (英語の *something*)
- (7) nichts 何も (英語の *nothing*)
- (8) mehrere, pl. 數人、數個 (英語の *several*)
- (9) all, a. すべての (語尾を附して用ふ)
- (10) beide, pl. 兩方の
- (11) ander, a. 他の
- (12) einige, pl. 二三の
- (13) etliche, pl. [同上]
- (14) jedweder, jeglicher. (*jeder* の古形)
- (15) viel, a. 多くの

(16) wenig, a. 少き

(17) jedermann 誰でも

注意。(1) **man** は左の如く格變化をします。

- 1. man (または einer)
- 2. eines (稀)
- 3. einem
- 4. einen

注意。(2) **jemand, niemand** は全然變化をせず、ただ二格で **-es**, または **-s** をつけるだけの事もあり、また特に格を示したい時には **-em, -en** をつけることもあります。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. jemand       | 1. niemand       |
| 2. jemandes     | 2. niemandes     |
| 3. jemand [-em] | 3. niemand [-em] |
| 4. jemand [-en] | 4. niemand [-en] |

注意。(3) **jedermann** は二格の **jedermannes** 以外すべて同形。

184. 不定の意を強める **irgend**

何でも好いから、とにかく「何かしら」と云ひたい事があります。「何處でも構はない、とにかく何處かしらで」と云ひたい事があります。さう云ふ時には、不定代名詞なり疑問詞なりに **irgend** を先行せしめます。

- |               |   |        |
|---------------|---|--------|
| irgend einer  | } | とにかく誰か |
| irgend wer    |   |        |
| irgend jemand |   |        |
| irgend etwas  | } | とにかく何か |
| irgend was    |   |        |
| irgendwo      |   | 何處かで   |

irgendwie	どうにかして
irgendwann	何時か
irgendwelche	何等かの

單に *irgend* と云ふと、それは *irgendwie* の事です。

185. **etwas Gutes (was Gutes) nichts Gutes** something good  
(何か好いもの)

等、*etwas* の次に形容詞を附ける時には、必ず形容詞を大書して *es* の語尾をつけます。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1. etwas Gutes | 1. nichts Gutes |
| 2. 缺           | 2. 缺            |
| 3. etwas Gute  | 3. nichts Gute  |
| 4. etwas Gutes | 4. nichts Gutes |

註 *etwas* は俗語では *was*, *nichts* は *nig*, *nicht* などと云ひます。故に *etwas Gutes* の代りに *was Gute* などとも云ひます。また *viel* (澤山の) *wenig* (少き) の後でも同形の形容詞から來た名詞を用ひます。

用例 *An<sup>(1)</sup> ihm ist etwas Geheimnisvolles.*

(彼奴には、何か斯う神祕的な所がある)

*An ihm finde ich nichts Interessantes.*

(彼奴には、別に興味ある何物も發見できない)

186. **無性無數の es, das, dies** たとへば、これが私の母です  
と云つて人に紹介する、その  
時には、女性は *sie* だからと云つて *sie ist meine Mutter* などとは云ひません。その時には *das*, *dies* を使ひます。*dies* は *dieses* が略されたもので、*dieses* と云つたつて構ひません。*das* は、此の際別に指示代名詞 *der*, *die*, *das* の中性の *das* ではないので、何性に拘らず、「これ」と云ふ際に使ふのです。また、單複の區別もありません。次の例を見て下さい。

*Wer klopft? Es ist ein Briefträger.*

(戸を敲くのは誰だらう？配達夫だ)

*Das sind meine Jugendfreunde.*

(これが僕の竹馬の友たちです)

*Das ist der Lohn deiner Untreue.*

(これが汝の不實の酬ひだ)

*Er erzählte mir dies<sup>(1)</sup> und das.*

(彼は私にあれや之れやと物語つた)

註 南歐の諸語には、かう云ふ風に、物を改めて紹介する時には、一定の語法があります。*Das ist, das sind* はつまり佛語の *voilà* (時には *c'est, ce sont*) です。

187. **es ist と das ist** *es ist* と *das ist* とはどう使ひ分けるかと云ふ質問をよく聞きますから、一言辯じて置きませう。

(1) 概括的に云ふと、*es ist* は、第一指示的ではありません。それは發音でもわかります。一たい *ich bin, du bist, er ist* その他 *er geht, wir sehen* 等、代名詞と定形の動詞とか並んでゐると、必ず定形動詞の方にアクセントがあります。*ich bin* は「イヒ・ビン」であつて「いヒ・ビン」ではありません。つまり *i**ch**bin* といふ一語で、*ich* を非分離前綴の様に思つて發音すれば好いのです。だから、略すると *es ist* が 's ist になり、*ich bin ein Mensch* は *bin ein Mensch* になるのです。

要するに發音の方から見ても *es* には殆んど何の意味もありません。*es ist ein Sturm!* は「嵐だ！」であつて、決して「それは嵐だ！」ではありません。

ところが *das ist* の方は、*das* をいくら強く發音しても構ひません。念が通らぬと思つたら、卓を叩かうと、どならうと、指ささうと構ひませんが、その時はなる可く *das* と同時に歎鳴るなり卓を打つなり指さすなりして貰ひたいものです。さうでないと二齣三齣されたトーキーみたいになつてしまひますからね。

そんな事はまあどうでも宜しいが、*das ist* は指示的です。*das ist ein Sturm!* と言つたら、「それは嵐と云ふものだ」と云ふ説明になるか、「この嵐はどうだらう！」と云ふ指示的間接的なものになるかのどちらかです。

此の最後の指示的間投的な用法なるものは、これだけでは一寸飲み込めないだらうと思ひますから、例を引いて註解を加へます。ナポレオンがドイツへ行つた時に、時の文豪ゲーテに會ひたいと云つて大本營へ呼び出した事はゲーテの記録に残つてゐる名高い話ですが、ゲーテの語るところによると、彼がナポレオンの部屋へ這入つた時には、ナポレオンは副官に向つて何事か命じつつあつたが、やがてゲーテの方を見て、しばらく黙した後、佛蘭西語で *Voilà un homme!* と云つたさうです。これはドイツ語の *Das ist ein Mann!* に當ります。またイエス・キリストが羅馬の總督の前に引き出された時に、その總督が發した言葉として名高い *Ecce homo!* と同じです。もつとも *Ecce homo* の方は *das ist der Mensch!* (ははあ、此の男だな) と云ふ意味だつたかも知れません。いづれにしろ「此の人を見よ」と云つたやうな深刻な意味でなかつた事は確かです。引用句としてはそんな意味で用ひられてはゐますが。

要するに奈翁は *Das ist ein Mann!* と云ひました。これは「天晴れだ」と云ふ感服の言葉だつたのです。ゲーテは、肖像畫などを御覽になると解りますが、實に何とも云へない、おつとりとした、しかも眼が大きくて、何處となく深い所のある、しかも圓満な福々しい顔をしてゐます。人間のあらゆる複雑さをすべて含んでゐて、しかもそれら凡てが渾然たる調和の下に、所謂白髪童顔とでも稱す可き體の善良さにこんもりと包まれてゐる。仲々食へない爺だと云つた様な氣もすれば、こんな爺さんになら大船に乗つたやうな氣になつて何でも打ち明けたくなるだらうと云つたやうな氣もする。とても人が好いだらうと云つたやうな氣もすれば、皮肉屋だらうと云つたやうな氣もする。要するに、威あつて猛からず、食へなくてなつかしい顔です。ナポレオンが *Das ist ein Mann!* と思はず嘆聲を放つた瞬間の氣持はよくわかるやうな氣がします。「これぞ男兒なる」「奸漢愛すべし」と云つたやうな意味です。

また、よく動詞の不定法を名詞にしてつける事があります。

*Das war ein Trinken!* (飲んだの飲まないのつて!)

*Das ist ein Schießen!* (よく撃つたものだなあ!)

(2) *Das* 又は *es* で指す事實が、文章として表はれる際には、*das* は既に述べられたものを受け、*es* は、これから述べられんとするものを受けます。

*Du willst, daß ich dich verlasse: das ist mir unmöglich.*

(おまへは、私がおまへを見捨てる事を望むが、それは私は不可能だ)

*Es ist mir unmöglich, daß ich dich verlasse.*

(おまへを見捨てる事は私にとつては不可能なことだ)

けれども、特に讀者の注意を惹きたい時には、次に述べられる事を豫め *das* で受けとることもあります。さうすると非常に力が這入るわけです。斯く斯く斯様であるぞよ、と云つたやうな事になつて、文章の調子が高くなります。

*Das nämlich ist der Lohn der bösen Tat, daß man die Frucht derselben nicht in Ruhe genießen kann.*

その成果を安堵して享樂し得ざる事、これが即ち惡業の酬ひである。

#### 188. *das* と前置詞との結合

前章 168 に述べておいた *was* と前置詞との結合と同じやうな

譯です。次に數例を示すに止めます。

damit	それを以て
dadurch	それに依つて
dabei	その際に
dafür	それに對して、その代りに
davon	それに就て、それから
dagegen	それに對して
danach [又は darnach]	その後
darin	その中に (in の三格支配)

darein	その中へ (in の四格支配)
darauf	その上に
daran	それに接して
daraus	その中から
darum	その周圍に、それが故に

これらの結合形は英語の *therein*, *thereupon*, *therefore* 等に相當します。これらを *worin*, *worauf* 等の代りに用ひる古い様式のあることは既に 173 に於て一言しました。

☞ 読本第十五課を讀め。

## 第二十五講

### 形容詞の名詞化

前章で述べた *etwas Gutes*, *nichts Gutes* 等、形容詞を大書して名詞に用ひる場合が非常に多いから、特に一章を割いて説明して置きます。

#### 189. 名詞を省くのと名詞化とは違ふ

まづ最初に斷つて置きたいのは、

名詞化した形容詞は必ず大書するが、小文字の儘の形容詞で語尾がついて冠詞を伴つてゐるのは、それは何か前に出てゐる名詞が省かれてゐるのだと云ふ事です。

In ihm kreuzen sich<sup>(1)</sup> drei Rassen: die weiße, die gelbe und die schwarze.

彼奴の中では三人種が交叉してゐる、即ち白いのと、黄色いのと、黒いのとが、

此の際は一々 *Rasse* (人種) といふ字を繰りかへす代りに、*die -e* と、形容詞を女性にして、その儘使つたのです。かう云ふ際には形容詞は大書しません。これから述べようとする形容詞の名詞化といふのは、これとは全然ちがつてゐて、前に何等の名詞も出てゐず、従つて形容詞その者を大書して名詞に用ひる場合です。(大書すると云ふ件に關しては一つの例外があります。たとへば、少數の人たちと云ふ際に *die wenigen* と云ふやうな場合で、これだけはまた別に述べます。)

#### 190. 形容詞の名詞化

次に最も普通なものの例を數個示します。(名詞化したものは、大抵辭書に名詞として登録してあるのが通例ですが、必ずしもすべてが登録してあるとは限りません。)

der Alte	老人	die Blonde	金髮美人
der Blinde	盲人	die Braune	褐髮美人
der Reiche	金持	die Schöne	美人
der Arme	貧乏人	das Freie	戶外
der Fremde	他國人	das Äußere	外貌
der Wilde	土人	das Ganze	總體
der Weise	賢者	das Schöne	美
der Tote	死人	das Erhabene	崇高美
der Krankle	病人	das Stomische	滑稽
der Heilige	聖者	das Gegebene	與件

註 左の列にあげた男性のものは、勿論すべて女性にも使ひます。

### 191. 形容詞から轉來した元來の名詞

形容詞から轉來したものではあるが

元來の名詞として扱ふものがありますから、これは混同しないやうにする必要があります。女性の抽象名詞で、性質そのものを指すのがそれと、變音すべき母音あればすべて變音してゐるのが普通です。

形容詞	名詞
lang	長き
fürz	短かき
warm	暖き
kalt	冷き
stark	強き
schwach	弱き
fern	遠き
Länge	長さ
Kürze	短かさ
Wärme	温度
Kälte	寒氣
Stärke	强度
Schwäche	弱點
Ferne	遠方

nah	近き	Nähe	近所
hoch	高き	Höhe	高度、高所
tief	深き	Tiefe	深度

### 192.

名詞化した形容詞と元來の名詞との格變化の相違  
die Fremde, 他國の女; die Fremde, 異郷

形容詞が名詞化したものは、あくまでも形容詞としての格變化をします。即ちその前に置かれる冠詞、指示代名詞、物主代名詞等に強語尾があれば弱語尾を探り、語尾がなければ強語尾を探ります。それらの様子が單なる形容詞と些かも違はないで、ただ大書すると云ふだけが形式上の相違です。

だから、偶然同じ形をした形容詞の名詞化と元來の名詞とを、格に展げて變化して見ると、その區別が露骨にわかります。

形容詞の名詞化	本名詞
die Fremde 他國の女	die Fremde 他郷
1. die Fremde	die Fremde
2. der Fremden	der Fremde
3. der Fremden	der Fremde
4. die Fremde	die Fremde

(冠詞を附けない場合)

1. Fremde	Fremde
2. Fremder	Fremde
3. Fremder	Fremde
4. Fremde	Fremde

本名詞は、たとへ冠詞が附かうと附くまいと、變化に變りはない筈です。

また、男性の方だと、もつと疎隔が出来て來ます。der Deutsche (ドイツ人) は形容詞が名詞化したものですが、der を附けなければ Deutscher, ein を附けると ein Deutscher です。Engländer (英人) は形容詞の名詞化ではないから、同じやうに -er の語尾を探つても、違つた變化をする兩者の差別が判然します。

	s.	s.
1.	ein Deutscher	ein Engländer
2.	eines Deutschen	eines Engländers
3.	einem Deutschen	einem Engländer
4.	einen Deutschen	einen Engländer

  

	pl.	pl.
1.	Deutsche	Engländer
2.	Deutscher	Engländer
3.	Deutschen	Engländern
4.	Deutsche	Engländer

### 193. 過去分詞の名詞化

過去分詞も一種の形容詞です。他動詞のは受動的な意味になり、自動詞

のは能動的過去的な意味になります。

他動詞の過去分詞		自動詞の過去分詞	
geweckt	起された	eingeschlafen	眠り込んだ
verlassen	置き去られた	vergangen	過ぎ去つた
gefällt	斃された	gefallen	落ちた
gesenkt	沈められた	gesunken	沈んだ

従つて、これらの過去分詞から轉來した名詞の意味もさうです。次に最も普通なものの例をあげます。(定冠詞を附した時の語尾で)

der Gesandte	公使
der Abgeordnete	代議士
der Angestellte	雇員
der Bediente	召使
der Verwandte	親戚
der Vorgesetzte	上官
der Gefangene	俘虜
der Bekannte	知己
der Gelehrte	學者
der Erwachsene	大人
der Gebildete	教育ある人
der Verbündete	盟友
der Beamte	官吏
der Verstorbene	故人
der Betrunkene	醉漢
der Berrückte	狂人
der Besessene	憑かれた人
die Prostituierte	醜業婦
der Verdammte	被宣告者
der Verwundete	負傷者

上表のものに對して必ずしもそれに相當する動詞がある譯ではありません。たとへば der Gelehrte, der Beamte, der Bediente 等は、多少に限らず異例的なものに屬します。der Bekannte は、過去分詞としての bekannt から來たのではなく、過去分詞がまづ形容詞化して、その次にまた名詞化した

のです。言葉にはすべて其の歴史、身元属性と云ふものがあるから、簡単に考へられません。いづれにしろ、過去分詞形をしたものはすべて形容的な變化をすると云ふ事を心得て置けば好いでせう。

また、中性のみに用ひられるものは随分多く、大抵は其の場合場合に製造されます。

das Gesagte	前述の事柄
das Erwähnte	(同上)
das Vergangene	過ぎたる事柄

#### 194. 現在分詞の名詞化

現在分詞の事はまだ説明してありませんが、こいつは頗る簡単で、ただ不定法の語幹に -end の語尾をつければ好いのです。(但し、-er, -el の語尾ある語幹には、口調をよくするために -nd をつけます。)

sein	ある	seidend	ありつゝある
tun	なす	tuend	爲しつゝある
sagen	云ふ	sagend	云ひつつある
zittern	顫える	zitternd	顫えつつある

つまり英語の -ing に當る譯ですが、英語の -ing 形のやうな多くの用ひ方はなく、ただ形容詞として用ひられるのみです。

従つてそれを名詞に轉用することが出来ます。成語として普通辭書に登録してあるのは極く少數で、大抵は其の場合に臨んで作るのです。

der Reisende	旅行者	der Vorsitzende	議長
der Genesende	恢復患者	der Trauernde	喪に服せる人
der Anwesende	出席者	der Abwesende	缺席者
der Rasende	狂漢	der Wütende	狂漢
der Schafende	眠れる者	der Sterbende	瀕死の人

#### 195. 中性の際の意味

形容詞を中性の名詞に用ひる時には特種な意味が生じ、一般的な特徴があります。「點」とか「側」とか「方面」とか「事柄」とか云つたやうな譯語が當てはります。

Er sieht nur das Kleine im Großen, das Schmückige im Reinen.

(彼は偉大なる事柄の中に只その瑣々たる一側のみを見、淨き事柄の中に只その汚らはしき一面のみを見る。)

Das Ästhetische umfaßt sowohl<sup>(1)</sup> das Erhabene als auch das Unmutige.

(美は、崇高美をも優美をも包含す。)

斯ういふ名詞化は、諸種の抽象的な現象を扱ふ精神科學の方では盛んに用ひられます。たとへば美學に於ては、美を諸種の類型 (Gattungen) に分類し、それに一々名をつきますが、その時には、或ひは das Brächtige (美麗なるもの) 或ひは das Erfrüttende (震駭的なるもの) 或ひは das Rührende (感動的なるもの) 或ひは das Naive (天真なるもの) 等の名稱を造り出します。これらはすべて拉丁語の -a の語尾のもの (中性複數) を眞似たのです。

和文獨譯の際にも、形容詞の名詞化を譯する時にはこれで行かなくてはなりません。

遠きを望んで近きを忘る。

Über das Entfernte das Naheliegende vergessen.

#### 196. 集合名詞的な複數

翻譯小説からでも發した傾向でせうが、形容詞的な名詞の複數がほとんど西洋語と同じ意味で、日本語になつて來たやうです。ドストエフスキイの「虐げられた人々」なんぞも與つて大いに力があつたのでせう。ところが古い時代ではまださう云ふ日本語がなかつたと見えて、ユーゴーの Les Misérables [Die Géilden] は、「惨めなる人々」とは譯されないで、「毫無情」なんて、その人々を不幸にして置く世間に對する間接句でやつつけられてゐます。此處にも時代の推移がはつきりと現れてゐるわけです。

die Liebenden	戀する人々
die Gefallenen	墮落せる人々
die Umstehenden	並び居る人々
die Vermögenden	有産階級
die Begeisterten	感激せる人々
die Gebildeten	インテリゲンチア
die Großen	要人達

197.

**小書する複数**

複数は、字によると小書する事があります。

die wenigen	少數の人士
die meisten	大多數の人々
einige	或種の人々
alle	みんな
viele	多くの人々

しかしこれらは實は形容詞ではなくて、普通は、不定數詞と云つたり、また時とすると不定指示代名詞と云つたりします。

198.

**一般的法則**

實際書物を讀む時に非常に重要な法則があります。それは、もし形容詞が大書されて名詞化してゐたら、それは決して前に一度出た名詞が省かれてゐるのではなく、もしそれが中性の際には「事柄」を、もしそれが男性女性又は複數であれば必ず人間を指すといふ此の點です。

此の法則に洩れる例外はほんの少數で、たとへば *der Neue* と云ふと、男性であるに拘らず事物を指す、即ち新酒、其の年に搾られた葡萄酒を指す、と云つたやうな、極く特種なものばかりです。 *die Rechte* (右手) *die Gerade* (直線) 等も例外で、*der Neue* の場合に *der Wein* が省かれてゐるやうに、各々が省かれてゐるわけで、こんなのは數へる程しかありません。

**文法講座文例譯註**

末吉寛

— 159 頁 — 160 頁 —

- 1) 彼は (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待する (lädt.....ein)
- 2) 彼は (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待しようと (einladen) 欲する (will)
- 3) 彼は (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待した (hat.....eingeladen)
- 4) 今日 (heute) 彼は (er) 私を (mich) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待する (lädt.....ein)
- 5) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待せよ! (lade.....ein!)
- 6) 彼が (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待する (einladt) なら (wenn)
- 7) 彼が (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待しようと (einladen) 欲する (will) なら (wenn)
- 8) 彼が (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待してしまつた (eingeladen hat) なら (wenn)
- 9) 彼は (er) 私を (mich) 今日 (heute) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待した (lub.....ein)
- 10) 彼が (er) 私を (mich) 盤飯に (zum Mittageessen) 招待した (einlub) 時に (als)

— 163 頁 —

お父さんは (der Vater) 出て行つた (ging, ..... aus), 彼に (ihm お父さんに) お母さんが (die Mutter) 晚飯前には (vor Abendessen) きっと (gewiß) 歸つて來て欲しい (zu Hause sein soll), でないと (sonst) スープが (die Suppe) 冷える (kalt werde) から (weil) と云ひ (gesagt), そして (und), 彼が (er, der Vater を受ける) 彼女から (ihr, sie の三格 die Mutter を受ける) 帽子とステッキとをとり (Hut und Stock abgenommen), そして (und) 部屋の中で (im Zimmer) 遊んでゐた (spielten) ところの子供達に (die Kinder, die.....) 接吻をした (geküsst hatte) 後 (nachdem).

- (註) 1) こゝは本来 *gefragt hatte* であり、後の *abgenommen* も *abgenommen hatte* であるが、後に *geträgt hatte* と *hatte* が重なるので前の二つの場合は省略したのである。  
 2) *soll* に対する接續法。(接續法は第三巻で述べられる。)  
 3) *zu Hause sein* 本來は「我家にゐる」、「在宅する」といふ意味である。  
 4) *wird* に対する接續法。

— 167 頁 —

私は (ich) 火の中へ (ins Feuer) 飛込む可く (hineinzuspringen) 私に (mir, ich の三格) 信を置かない (getraue.....nicht).

(註) 1) *ins=in das.*

— 173 頁 —

(直譯)  
 私を (mir) 挨拶した (gegrüßt hat) ところの、その男 (der Mann, der.....)

— 178 頁 —

- 1) 凡そ氣に入るところの (was gefällt) 凡ての物は (alles) 許されても (auch erlaubt) あり (ist)
- 2) それは (das) 私に (mit) 全然様違ひ (ganz fremd ist) ところの何物か (etwas, was.....) である (ist)
- 3) 君達は (ihr) 貴重でもあらう様な (wertvoll wäre\*) 何物をも持たない (habt nichts, was.....)
- \* *wäre* は *ist* [直接法] に対する接續法。
- 4) 虐を吐くものは (Wer lügt), 盗むことも (auch stehlen) あり得る (kann)
- 5) 愛する者は (wer liebt), 視く見る (sieht scharf)

— 179 頁 —

- 1) 何を (was) おまへは (du) 手の中に (in der Hand) 持つか (trägt)
- 2) 夜と風を貫いて (durch Nacht und Wind) こんな夜更けに (so spät) 馬で行くのは (reitet) 誰だ (wer)
- 3) 私は (ich) おまへが (du) 手の中に (in der Hand) 何を持つてゐるかを (... weß ..... trägt) 知つてゐる (weiß)

— 180 頁 — 181 頁 —

- 1) その中に (worin) ビールが入つてゐる (Bier ist) そのコップ (das Glas)
- 2) その上に (worauf) 私が (ich) 腰掛けでゐる (sitzt) その椅子 (der Stuhl)
- 3) それに接して (woran) 我々が (wir) 着席してゐる (sitzen) その机 (der Tisch)
- 4) 何に (woan) ピラは (das Blatt) 懸つてゐるか (hängt=hängen)

— 183 頁 — 184 頁 —

- 1) 彼が (er) 彼女を (sie) 見知つた (kennen lernte) その町の中で (in der Stadt, wo.....)
- 2) 彼が (er) まだ (noch) 貧乏で (arm) あつた (war) その時分に (in der Zeit, wo.....)

— 184 頁 —

- 1) その上に (darauf) 一軒の小舎が (eine Hütte) 立つてゐる (steht) その丘 (der Hügel)

— 187 頁 — 188 頁 —

- 1) 私の家庭教師は (mein Hauslehrer) 若い (ist jung), 従兄のそれは (der meines Bruders) 年寄りだ (ist alt)
- 2) 私は (ich) 自分の怒りを (seinen <sup>註</sup> Zorn) 現はさない (nicht zeigt) その男を (den, der.....) 恐れる (fürchte)
- (註) *seinen* は前の *den* と同一人を指す。
- 3) 一人の年老いた女が (eine alte Frau) 昔々あつた (es war einmal), その女は (die) 二人の息子を (zwei Söhne) 持つてゐた (hatte)
- (註) 之れは嘶風な書きかたの冒頭に用ひられるきまり文句です。
- 4) 汝は (du) 人々が憎む (die Leute hassen) ところのその男の (desen, den.....) 妻で (die Weib) ある (ist)
- 5) (イ) 彼女は (sie) 彼女の女友達と彼女の伯父とを (ihre Freundin und ihren Onkel) 訪問する (besucht)  
 (ロ) 彼女は (sie) 彼女の女友達とその伯父とを (ihre Freundin und deren Onkel) 訪問する (besucht)

— 190 頁 —

一人の將校が (ein Offizier) 一人の市民を (einen Bürger) 會釋する (grüßt). 後者は (dieser) 帽子を取り (nimmt den Hut ab), 前者は (jener) 手を擧げる (hebt die Hand)

(註) *heben, hob, gehoben* (擧げる)

— 192 頁 —

(註) *an* といふ前置詞は三格支配の場合と、四格支配の場合と両方あります。この場合の様に三格支配のときは或物が或他の物に接近して存在することを示すのですが、四格支配の場合には或物の表面に、或は或物の附近へ向つての運動を示す。

— 193 頁 —

(註) これは「あれやこれやと色々なこと」といふ意味の慣用句です。

— 195 頁 —

- 1) おまへは (bu) 私が (ich) おまへを (dir) 捨てる (verlasse) ことを (... , daß....)
- 望む (willt) がそれは (daß) 私には (mir) 不可能である (ist....unmöglich)
- 2) 私がおまへを捨てる (ich dir verlasse) といふその事は (es....., daß....) 私に  
とつて不可能である (ist mir unmöglich)
- 3) その同じ物〔悪行の〕の (derselben) 果實を (die Frucht) 安靜に於て (in Ruhe)  
楽しめない (nicht.....genießen kann) といふ (daß) その事が (daß) 即ち (nämlich)  
悪い行の (der bösen Tat) 報酬で (der Lohn) ある (ist)

— 197 頁 —

彼の中では (in ihm) 三人種が (drei Rassen) 交叉する (kreuzen sich), 即ち (:) 白いの  
と (die weiße, 白人種) 黄色のと (die gelbe) そして黒いのと (und die schwarze)  
(註) *sich kreuzen* はこの場合數人種の血がまぢり合ふといふ意味です (das Kreuz  
=十字架)。

— 203 頁 —

- 1) 彼は (er) 大なるものの中に (im Großen) 只小をのみ (nur das Kleine), 慶きこと  
の中に (im Reinen) 汚らはしきもの [をのみ] (das Schmutzige) 見る (sieht)
- 2) 美學的ななるものは (das Ästhetische) 崇高なるもの (das Erhabene) 立びに (sowohl  
.....als auch) 優美なるもの (das Unmutige) を包含する (umfaßt=umfassen)  
(註) *sowohl.....als auch*, 二者を並べて「これ並びにこれ」といふ際に用ひる。
- 3) 遠隔したるもの (das Entfernte) のために (über) 近くに横たはる物事を (das  
Naheliegende, nahe=近くに) 忘れる (vergessen)  
(註) これは不定句、即ち遠きを望んで近きを忘れる「事」といふ意です。不定  
句は概念を日本語と全然同じ順に並べます。

## 第八課

### A

#### 規則動詞の現在完了を受動形

einig, a.	若干の	Meisterstück, n.	傑作
tapfer, a.	勇敢な	Sprache, f.	言語
still, a.	静かな	recht (副詞のさき) fehrt と同じ	
glücklich, a.	幸福な	darum	其故に
deutsch, a.	獨逸の	bis (四格支配)	[till]
Weg, m.	路、道	über と四格	[about]
Nacht, f.	夜	davon	それに就て
Dorf, n.	村	doch (助詞) .....に非ずや	
Schüler, m.	生徒	sondern	[(not), .....but]

【注意】 besuchen, zerstören, verteidigen 等は過去分詞の前綴 *ge-* を要せず。

1. Ich habe meinem Vater gesagt, daß ich Dich heute Morgen besucht habe.
2. Der alte Diener Deines reichen Onkels hat der Frau dieses Arbeiters einen Brief geschickt.
3. Du hast doch behauptet, daß das schöne Pferd dieses Soldaten nach einigen Tagen ganz sicher frank werden wird.
4. Vor einigen Tagen ist der Sohn dieses reichen Mannes nach jenem schönen Dorf gewandert.
5. Der arme Knabe hat seinen alten Großvater vom Morgen bis in die Nacht überall im Dorfe gesucht.

【譯】 1. 僕が (二つ目の ich) 君を (Dir) 今朝 (heute Morgen) 訪問した  
(besucht habe) と (daß) 僕は (最初の ich) 僕の父に (meinem Vater) 云つてしまつた (habe...gesagt) 2. 君の富める叔父の年老いたる下僕は (der alte  
Diener Deines reichen Onkels) 此の労働者の妻に (der Frau dieses Arbeiters)

一本の手紙を (einen Brief) 送つた (hat...geschickt) 3. 君は (Du) 此の兵士の美しい馬が (das schöne Pferd dieses Soldaten) 敷日後には (nach einigen Tagen) きっと (ganz sicher) 病氣になる (frank werden) だらう (wird) と (dass) 主張した (hast...behauptet) ではないか (doch) 4. 敷日前に (vor einigen Tagen) 此の富める男の息子は (der Sohn dieses reichen Mannes) あの美しい村の方へ (nach jenem schönen Dorf) 徒歩旅行した (ist...gewandert) 5. 貧しき少年は (der arme Knabe) 彼の老いたる祖父を (seinen alten Großvater) 朝から (vom Morgen) 夜に至る迄 (bis in die Nacht) 到る所、村の内を (überall im Dorf) 探した (hat...gesucht)

6. Ich glaube, daß er mich nur darum besucht hat. 7. Gott hat ihn geschützt, jetzt wird der arme frakte Knabe gesund. 8. Man sagt, daß der König dieses kleinen Landes durch die ganze Welt gereist ist. 9. Er hat oft gereist, darum kennt er fast alle Länder der Welt. 10. Haben die Feinde schon die schönen Häuser unserer Städte zerstört?

【譯】 6. 私は (ich) 彼が (er) 私を (mich) 専ら其の爲めに (nur darum) 訪問した (besucht hat) のだと (daß) 思ふ (glaube) 7. 神は (Gott)<sup>註1</sup> 彼を (ihm) 守つた (hat...geschützt) 今や (jetzt) 貧しき、病める少年は (der arme frakte Knabe) 丈夫になる (wird gesund) 8. 此の小さな國の王は (der König dieses kleinen Landes) 全世界を通じて (durch die ganze Welt) 旅行した (gereist ist)<sup>註2</sup> と (daß) 世人は (man) 云ふ (sagt) 9. 彼は (er) 屢々 (oft) 旅行してゐる (hat...gereist)<sup>註3</sup> それ故に (darum) 彼は (二つ目の er) 世界の殆んど凡ゆる國々を (fast alle Länder der Welt) 識つてゐる (kennt) 10. 敵達は (die Feinde) 既に (schon) 吾々の諸都市の美しい家々を (die schönen Häuser unserer Städte) 破壊したか (haben...zerstört)?

11. Ihr habt uns die schönen Werke jenes großen Mannes geschenkt, weil wir sie oft gelobt haben. 12. Du hast das kleine Dorf mit größtem Mut verteidigt, tapferer Soldat! 13. Ich bin heute Morgen nach Deinem stillen Landhause gewandert, aber kein

Mensch ist mir auf dem Wege begegnet. 14. Ich bin höchst glücklich, denn ich werde noch immer von meinen Freunden geliebt. 15. Unser Lehrer wird von allen seinen Schülern gefürchtet und geehrt.

【譯】 11. 我々が (wir) 彼等を (sie = die schönen Werke) 歴々 (oft) 褒めた (gelobt haben) ので (weil) 君達は (ihr) 我々に (uns) 彼の偉人の美しい作品を (die schönen Werke jenes großen Mannes) 贈つた (hast...geschenkt) 12. 君は (Du) 小さな村を (das kleine Dorf) 非常な勇氣を以て (mit größtem Mut) 守つた (hast...verteidigt) 勇敢なる兵士よ (tapferer Soldat)! 13. 僕は (ich) 今朝 (heute Morgen) 君のしづかな別荘の方へ (nach Deinem stillen Landhause) 歩いて行つた (bin...gewandert) が併しながら (aber) 一人の人間も (ein Mensch) 私に (mir) 途上で (auf dem Wege) 逢は [なか] つた (ist...begegnet)<sup>註4</sup> 14. 僕は (ich) 非常に幸福で (höchst glücklich) ある (bin) 何故なれば (denn) 僕は (二つ目の ich) 依然として (noch immer) 僕の友人等から (von meinen Freunden) 愛されてゐる (werde...gesiebt) [から] 15. 我々の先生は (unser Lehrer) 全ての彼の生徒等から (von allen seinen Schülern) 恐れられ、そして尊敬される (wird...gefürchtet und geehrt)

16. Wird der Mut dieser tapferen Soldaten von ihrem König oft genug gelobt? 17. Heute Nacht wird das berühmte kleine Dorf vor der Stadt von den Freunden unseres Kaisers tapfer verteidigt, weil es für ihn von größter Bedeutung ist. 18. Die Professoren dieser Universität werden von ihren Studenten nicht gefürchtet, sondern geliebt. 19. In diesem Zimmer darf nicht geraucht werden, denn unsere Großmutter liebt es nicht. 20. Jetzt müssen alle Gäste still sitzen bleiben, denn ein Meisterstück von Beethoven wird gespielt.

【譯】 16. 此の勇敢なる兵士等の勇氣は (der Mut dieser tapferen Soldaten) 彼等の王から (von ihrem König) 充分屡々 (oft genug)<sup>註5</sup> 褒められるか

(wird...gelobt)? 17. 今夜 (heute Nacht) 市外の (vor der Stadt)<sup>註9</sup> 有名な小さな村は (das berühmte kleine Dorf) それが: (es = Dorf) 彼に取つて (für ihn)<sup>註7</sup> 非常な重要さを帶びてゐる (von größter Bedeutung ist) から (weil) 我々の皇帝の味方達から (von den Freunden unseres Kaisers) 勇敢に (tapfer) 守られる (wird ...verteidigt) 18. 此の大學生の教授達は (die Professoren<sup>註8</sup> dieser Universität) 彼等の學生等から (von ihren Studenten) 恐れられ (werden...gefürchtet) なく (nicht) て (sondern)<sup>註9</sup> 愛される (geliebt)<sup>註10</sup> 19. 此の部屋の中で (in diesem Zimmer) 噴煙され (geraucht werden)<sup>註11</sup> てはならぬ (darf nicht) [何故と云ふに] (denn) 我々の祖母が (unsere Großmutter) それを (es)<sup>註12</sup> 好まない (liebt nicht) [から] 20. 今や (jetzt) 全ての客は (alle Gäste) 静かに (still). 坐つたまゝで居なければならぬ (müssen...sitzen bleiben) 何故と云ふに (denn) ベートーベンの一の傑作が: (ein Meisterstück von Beethoven)<sup>註13</sup> 演奏される (wird gespielt) [から]

21. Die deutsche Sprache muß mit Fleiß gelernt werden, denn sie ist sehr schwer. 22. Den besten Schülern wird ein großes deutsches Wörterbuch geschenkt. 23. Dieser Arbeiter ist nur dann glücklich, wenn er recht viel trinken darf. 24. Diese Leute haben den deutschen Kaiser begrüßt und kommen jetzt nach Hause. 25. Der General läßt sein schönes Pferd überall suchen, aber es ist noch keinem Menschen begegnet.

【譯】 21. 獨逸語は (die deutsche Sprache) 熱心に (mit Fleiß) 學ばれなければならぬ (muß...gelernt werden) 何故なれば (denn) 彼女は (sie = die deutsche Sprache) 大脅むづかしく (sehr schwer) ある (ist) [から] 22. 最も良き生徒達に (den besten<sup>註14</sup> Schülern) 一冊の獨逸語大辭書が (ein großes deutsches<sup>註15</sup> Wörterbuch) 贈られる (wird geschenkt) 23. 此の労働者は (dieser Arbeiter) 彼が (er) 非常に多く (recht viel) 飲酒してもよろしい (trinken darf) 時に (wenn) その時にのみ (nur dann) 幸福で (glücklich) ある (ist) 24. 此の人々は (diese Leute) 獨逸の皇帝に (den deutschen Kaiser) 挨拶をしてしまつて (haben...gegrüßt) そして (und) 今や (jetzt) 歸宅する (kommen nach Hause) 25. 将軍は (der General) 彼の立派な馬を (sein schönes Pferd) 到る所で (überall)

探させる (läßt suchen) 併しながら (aber) それは (es = Pferd) まだ (noch) 何人にも逢はなかつた (ist keinem Menschen begegnet)

26. Ich habe bis jetzt bei meinem Onkel gewohnt; jetzt lebe ich mit meinem kleinen Bruder auf dem Lande. 27. Wenn der Lehrer nicht geachtet und gefürchtet wird, so arbeiten die kleinen Knaben gar nicht mehr. 28. Ich habe heute meinen Onkel besucht, aber Du darfst es nicht meinem Vater sagen. 29. Jede Stadt in unserm Vaterlande wird von unsren tapferen Soldaten verteidigt. 30. Man sagt, daß diese Ärzte bis heute still und glücklich gelebt haben.

【譯】 26. 僕は (ich) 今迄 (bis jetzt) 僕の叔父の許に (bei meinem Onkel) 住んでゐた (habe...gewohnt); 今は (jetzt) 僕は (二つ目の ich) 僕の弟と一緒に (mit meinem kleinen Bruder) 田舎で (auf dem Lande) 暮してゐる (lebe) 27. 教師が (der Lehrer) 尊敬され、そして恐れられ (geachtet und gefürchtet wird) ない (nicht) と (wenn) さうすると (so) 小さな少年等は (die kleinen Knaben) もはや全然 (gar nicht mehr) 勉強し (arbeiten) [ない] 28. 僕は (ich) 今日 (heute) 僕の叔父を (meinen Onkel) 訪問した (habe...besucht) が併しながら (aber) 君は (Du) それを (es) 僕の父に (meinem Vater) 云つては不可ないよ (darfst nicht sagen) 29. 我々の祖國に於けるどの都市も (jede Stadt in unserem Vaterlande) 我々の勇敢なる兵士達によつて (von unsren tapferen Soldaten) 守られる (wird verteidigt) 30. 此の醫者達は (diese Ärzte) 今日迄 (bis heute) 静かに、そして幸福に (still und glücklich) 生活した (gelebt haben) 世人は (man) 云ふ (sagt)

【註】 (1) Gott は、基督教の神を指す時は、固有名詞で、冠詞を附けない。

(2), (3) 同一の動詞で、前者の場合は助動詞として *sein* を、後者は *haben* を、とつてゐる。斯くの如き際は特に注意を拂ふ事が肝要 [文法第二卷 111 参照]

(4) *... begegnet 「逢は[なか]つた」の〔〕でつゝまれた箇所は、云ふ迄もなく *sein* の否定が、掛かつてゐるのである。*

[5] *genug* は 大抵の場合、其の意味を修飾する語の後に置かれる。

[6] *vor der Stadt* は「市の前で」の意で、市の隣接地を指す。参考、*die Vorstadt* 「市外」「郊外」

[7] *für ihn* の *ihn* は、勿論、*unser Kaiser* の代名詞。

[8] *Professoren* の發音は「プロフェッソーレン」で、單数 *Professor* は「プロフェッソル」である。即ち、*sor*, *stor* に終る外來語は、必ず終から二級目に強音を持つ。例外、*Monitor* 「忠告者」

[9] *sondern* の前文は、必ず、否定文で、後文は、その前文の反対を表す肯定文である。

[10] *geliebt* は、勿論、*werden* にかかる、*sondern* の用ゐられる文章では、共通部が、よく省略されるから御注意。

[11] *geraucht werden*; 此の文には主語がないが、之に關しては、文法第三卷非人稱動詞 [274] 參照。

[12] *es* は、前の文意 (*geraucht werden*) を受ける〔前出〕

[13] *Beethoven* の發音は、從來、「ペーとーエン」と誤り發音されてゐたが、「ペート、ホーエン」が正しい。

[14] *belt* は英語の *best* と同じ。

[15] *deutsch* は「獨逸の」、「獨逸人の」、「獨逸語の」の三つの意味を持つてゐる。

## 不規則動詞の現在完了と受動形

ein Augenblick, <i>m.</i>	[a moment]	schlafen	眠る
Schloß, <i>n.</i>	城	sehen	見る
Meer, <i>n.</i>	海	für etwas halten	……と見なす
neu, <i>a.</i>	新しい	an と四格	…に見てて
frei, <i>a.</i>	自由な	von (三格支配)	…に就て
ergänzen	物語る [to tell]	ihm (er の三格)	彼に
sprechen	話す [to speak]	gestern	昨日
spazieren gehen	散歩に行く	früher	以前
gegen Abend	夕方近くに		

1. Er ist vor einem Augenblick mit seinem großen Stod nach jenem schönen Dorf spazieren gegangen. 2. Ist der Gatte dieser armen Frau schon ins Zimmer Deines Onkels gekommen? 3. Hast Du an Deinen reichen, glücklichen Bruder einen Brief für uns geschrieben? 4. In alten Zeiten hat hier am Meere ein großes berühmtes Schloß gestanden. 5. Einige Schüler sind bei ihrem alten Lehrer geblieben und tun jetzt ihre Arbeit.

【譯】 1. 彼は (er) 一瞬前に (vor einem Augenblick) 彼の大きな杖を持つて (mit seinem großen Stod) あの美しい村の方へ (nach jenem schönen Dorf) 散歩に行つた (ist...spazieren gegangen, gegangen の不定法は gehen) 2. 此の貧しき婦人の良人は (der Gatte dieser armen Frau) 既に (schon) 君の叔父の部屋に (ins Zimmer Deines Onkels) 来たか (ist...gekommen=kommen) 3. 君は (Du) 君の富める、幸福なる兄弟に宛てて (an Deinen reichen, glücklichen Bruder) 我々の爲めに (für uns) 一本の手紙を (einen Brief) 書いてしまつたか (hast...geschrieben=schreiben) 4. 昔 (in alten Zeiten) 此所に (hier) 海に接して (am =an dem) Meer) 一つの大きな、名高い城が (ein großes berühmtes Schloß)

立つてゐた (hat...gestanden=stehen) 5. 若干の生徒が (einige Schüler) 彼等の老いたる先生の許に (bei ihrem alten Lehrer) 居残つて (sind...geblieben=bleiben) そして (und) 今 (jetzt) 彼等の勉強を (ihre Arbeit) してゐる (tun)

6. Haben Sie, fragt der Arzt meinen kleinen Bruder, in Ihrem neuen Zimmer gut geschlafen? 7. Ich kenne schon die neue Stadt, die alte aber habe ich noch nicht gesehen. 8. Noch vor einem Jahre hat hier ein Garten von großer Schönheit gelegen, auch ich habe ihn auf dem Wege nach der Station gesehen. 9. Er will ein großer, berühmter Dichter werden und ein Meisterwerk schreiben, aber bis auf diese Zeit hat er noch nichts von Bedeutung geschrieben. 10. Was hat er uns getan, daß wir ihn für unsern Feind halten müssen?

【譯】 6. あなたは (Sie) あなたの新らしい部屋で (in Ihrem neuen Zimmer) よく (gut) 眠りましたか (haben...geschlafen=schlafen) と医者が (der Arzt) 私の弟に [を] (meinen kleinen Bruder) 問ふ (fragt) 7. 私は (ich) 既に (schon) 新らしい市を (die neue Stadt) 識つてゐる (kenne) が併し (aber) 古いのを (die alte [Stadt]) 私は (二つ目の ich) まだ (noch) 見てゐない (habe...nicht gesehen=sehen) 8. まだ一年前には (noch vor einem Jahre) こゝに (hier) 非常に美しい [大なる美の] 一つの庭園が (ein Garten von großer Schönheit) 横はつてゐた (hat...gelegen=liegen) 私も亦 (auch ich) 彼を (ihn=Garten) 停車場への途上で (auf dem Wege nach der Station) 見たことがある (habe...gesehen) 9. 彼は (er) 一人の偉大なる、名高き詩人に (ein großer, berühmter Dichter) 成り (werden) そして (und) 一つの傑作を (ein Meisterwerk) 書かうと (schreiben) 思つてゐる (will) 併しながら (aber) 此時 [今] 迄 (bis auf diese Zeit) 彼は (二つ目の er) まだ (noch) 意義ある (von Bedeutung) 何物をも (nichts) 書いてゐ (hat...geschrieben) [ない] 10. 我々が (wir) 彼を (ihn) 我々の敵と見なさなければならぬ (für unsern Feind halten müssen) 程に [とは] (dah) 彼は (er) 我々に (uns) 何を (was) 為したか (hat...getan=tun)?

11. Die Leute vom Schloß haben heute ihre freie Zeit, darum

sind sie gleich am Morgen durch die Stadt spazieren gegangen. 12. Der alte Arbeiter hat viel Wein getrunken und ist erst in der Nacht nach Hause gekommen. 13. Ich habe Sie nicht für einen Japaner gehalten, weil Sie so gut deutsch sprechen. 14. Er kennt Ihren Vater nicht; er hat vor einem Augenblick mit ihm gesprochen, aber er hat ihn für seinen Diener gehalten. 15. Einige von diesen Studenten können heute Morgen gar nichts lernen, weil sie diese Nacht nicht gut geschlafen haben.

【譯】 11. お城の人々は (die Leute vom Schloß) 今日 (heute) 彼等の閑暇を (ihre freie Zeit) 持つ (haben) それ故に (darum) 彼等は (sie) 朝つぱらから (gleich am Morgen) 市を通つて (durch die Stadt) 散歩した (sind...spazieren gegangen) 12. 老いたる労働者は (der alte Arbeiter) 多くの葡萄酒を (viel Wein) 飲んだ (hat...getrunken=trinken) そして (und) 夜に [なつて] やつと (erst in der Nacht) 宅へ歸つた (ist...nach Hause gekommen) 13. 僕は (ich) 貴君が (二つ目の Sie) そんなによく (so gut) 獨逸語を (deutsch) 話す (sprechen) から (weil) 貴君を (最初の Sie) 日本人と見なさなかつた (habe...nicht für einen Japaner gehalten=halten) 14. 彼は (er) 貴君の父を (Ihren Vater) 識らない (kennt nicht); 彼は (二つ目の er) 一瞬間に (vor einem Augenblick) 彼と (mit ihm) 話した (hat...gesprochen=sprechen) 併しながら (aber) 彼は (三つ目の er) 彼を彼の下僕と見なした (hat ihn...für seinen Diener gehalten) 15. 此等の學生の [中の] 若干は (einige von diesen Studenten) 彼等が (sie) 昨夜 (diese Nacht) よく (gut) 眠らなかつた (nicht geschlafen [=schlafen] haben) から (weil) 今朝 (heute Morgen) 全然 (gar) 何ものも (nichts) 學ぶことが出来 (können...lernen) [ない] [勉強が腹に入らぬの意]

16. Wir sind mit unseren Kameraden in die neue Stadt spazieren gegangen, aber wir haben dort nichts Neues gesehen. 17. Er hat in seinen glücklichen Tagen fast gar nichts getan, sondern nur getrunken und gespielt. 18. Er hat hier einen Augenblick gestanden, und dann ist er nach dem Meere gegangen. 19. Gestern Abend

haben Sie so schön gesprochen, ich habe Sie für einen Dichter gehalten. 20. In den stillen, schönen Winternächten habe ich oft an meine Heimat und die gute alte Zeit gedacht.

【譯】 16. 我々は (wir) 我々の同輩と共に (mit unseren Kameraden) 新らしい市に (in die neue Stadt) 散歩に行つた (sind...spazieren gegangen) が併しながら (aber) 我々は (二つ目の wir) 其所に (dort) 格別新らしい何物も (nichts Neues)<sup>註8</sup> 見[なかつ]た (haben...gesehen) 17. 彼は (er) 彼の幸福な時代 [日々] に於て (in seinen glücklichen Tagen) 犹んど (fast) 全く (gar) 何物も (nichts) 爲してゐ[なく] (hat...getan) て (sondern) ただ (nur) 飲酒し、そして賭博をした (getrunken und gespielt)<sup>註9</sup> 18. 彼は (er) こゝに (hier) 一瞬間 (einen Augenblick) 立つてゐた (hat...gestanden) そして (und) それから (dann) 彼は (二つ目の er) 海の方へ (nach dem Meere) 行つた (ist...gegangen) 19. 昨晩 (gestern Abend) 貴君は (Sie) 實に巧く (so schön) 話した (haben...gesprochen) 僕は (ich) 貴君を (二つ目の Sie) 詩人かと思つた (habe...für einen Dichter gehalten) 20. 静かな、美しい冬の夜々に於て (in den stillen, schönen Winternächten) 私は (ich) 屢々 (oft) 私の故郷及び良き古き時の事を (an meine Heimat und die gut alte Zeit) 考へた (habe...gedacht=denken)

21. Ich habe einen Brief an Deinen Vater geschrieben; glaubst Du, daß er ihn schon bekommen hat? 22. Er ist vor einem Augenblick ans Meer spazieren gegangen; er hat mir gesagt, daß er erst gegen Abend nach Hause kommen wird. 23. Nun muß ich frei mit ihm sprechen. Jetzt ist es Zeit für mich. Ich fürchte ihn nicht mehr. 24. Nein, er ist nicht gesund, sondern hat die ganze Zeit nur im Bette gelegen. 25. Wie hat früher diese schöne Straße geheißen?

【譯】 21. 僕は (ich) 一本の手紙を (einen Brief) 君の父に宛てゝ (an Deinen Vater) 書いた (habe...geschrieben) 彼が (er=Vater) 彼を (ihn=Brief) 既に (jchon) 受け取つた (bekommen hat)<sup>註10</sup> と (dass) 君は (Du) 思ふか (glaubst)? 22.

彼は (er) 一瞬間前に (vor einem Augenblick) 海際に (ans [=an das] Meer) 散歩に行つた (ist...spazieren gegangen); 彼は (二つ目の er) 自分が (三つ目の er) 夕方近くに、やつと (erst gegen Abend) 宅へ歸るだらう (nach Hause kommen wird) と (dass) 私に (mir) 云つた (hat...gesagt) 23. 今や (nun) 僕は (ich) 自由に [正直に] (frei) 彼と (mit ihm) 話さなければならぬ (muß...sprechen) 今こそ (jetzt) 僕にとって (für mich) 時節が到來したのだ (es ist Zeit)<sup>註11</sup> 僕は (ich) 彼を (ihn) 最早 (nicht mehr) 恐れ (fürchte) [ない] 24. 否 (nein) 彼は (er) 丈夫で (gesund) なく (ist nicht) て (sondern) 始終 [全部の時間] (die ganze Zeit) 床の中に (im Bette) ばかり (nur) 横はつてゐた (hat...gelegen) 25. 以前 (früher) 此の美しい街道は (diese schöne Straße) 何と (wie) 呼ばれたか (hat ...geheißen=heißen)?

26. Hier in diesem kalten Zimmer hat er die ganze Nacht gefressen und dann erst gegen Morgen ist er schlafen gegangen. 27. Was hat der Student auf der Universität getan? — Nichts. — Was hat er gesehen? — Nichts. — Was hat er gelernt? — Nichts. — Was hat er getrunken? — Alles. 28. Der General ist stehen geblieben, da der Soldat ihn nicht gegruft hat. 29. Nach dem kleinen Kriege hat der deutsche Kaiser die große Stadt, unser König aber die schönen Dörfer am Meer bekommen. 30. Warum hat gestern Ihr reicher Onkel meine kleine Schwester für eine Haushälfte gehalten?

【譯】 26. ここに、此の冷たい部屋の中に (hier in diesem kalten Zimmer) 彼は (er) 終夜 (die ganze Nacht) 腰かけてゐた (hat...gesessen = sitzen) そして (und) それから (dann) 朝方近くに、やつと (erst gegen Morgen) 彼は (二つ目の er) 寝に行つた (ist...schlafen gegangen)<sup>註12</sup> 27. 學生は (der Student) 大學に於て (auf der Universität) 何を (was) 爲したか (hat...getan)? — 何事も [爲さなかつた] (nichts)<sup>註13</sup> — 何を (was) 彼は (er) 見たか (hat...gesehen)? — 何物も [見なかつた] (nichts)<sup>註13</sup> — 何を (was) 彼は (er) 學んだか (hat...gelernt)? — 何物も [學ばなかつた] (nichts)<sup>註13</sup> — 何を (was) 彼は (er) 飲んだか (hat...

getrunken)? — 凡ゆるものを〔飲んだ〕 (alles)<sup>註13</sup> 28. 将軍は (der General) 兵士が (der Soldat) 彼に (ihm) 挨拶しなかつた (nicht begrüßt hat) から (da) 立ち止まつた (ist stehen geblieben) 29. 小さな戦争の後に (nach dem kleinen Kriege) 獨逸の皇帝は (der deutsche Kaiser) 大きな市を (die große Stadt) [得た] 併しながら (aber) 我々の王は (unser König) 海に接した (am Meer) 複数の美しい村を (die schönen Dörfer) 得た (hat...bekommen)<sup>註14</sup> 30. 何故に (warum) 昨日 (gestern) 貴君の富める叔父は (Ihr reicher Onkel) 私の妹を (meine kleine Schwester) 女中だと思つたのだらう (hat...für eine Haushagd gehalten)?

31. Ihr habt mir immer von eurer Königin und ihrer Schönheit gesprochen. 32. Ich werde zu ihm gehen und ein Wort mit ihm sprechen, das ist ganz sicher.

【譯】 31. 君達は (ihr) 僕に (mir) 常に (immer) 君達の王妃及び、彼女の美について (von eurer Königin und ihrer Schönheit) 話した (habt ... gesprochen) 32. 僕は (ich) 彼の所へ (zu ihm) 行くであらう (werde...gehen) そして (und) 一言 [一語] (ein Wort) 彼と [共に] (mit ihm) 話すであらう (sprechen)<sup>註15</sup> それは (das) 全然確かで (ganz sicher) ある (ist) [安心し給への意]

【註】 [1] will は werden [なる] 及び schreiben の二語にかかる。即ち、Er will ein großer, berühmter Dichter werden und er will ein Meisterwerk schreiben. である。

[2] daß は主文章の動作状態の結果程度を示すもので so daß 即ち英語の so that にあたる。

[3] viel Wein: viel は、數の多い事でなく、量の大なる事を意味する時は普通變化しない。

[4] deutsch は、中性名詞で、deutsch sprechen, auf deutsch の如く無冠詞の場合には小文字で書くを常とする。

[5] 最初の er = あなた。Ihr Vater = お父さん とすれば、[二つ目の er] = [三つ目の er] = お父さん; (mit) ihm = ihm = [für] seinen (Diener gehalten) = お父さん。

[6] einige は、不定数詞が名詞として用ゐられたるもので、小書きする。

[7] diese Nacht の diese は此の場合、直ぐ前の過去即ち「最近の(過去)」の意。—

般に、dies が、時を現す名詞の前に附けらるる時は、「現在」、「最近の過去」、「最近の未来」の三つの意味を持つ、従つて、文章の前後の關係によつて、その三つの内のいずれかになる。

[8] nichts Neues は etwas Neues の否定で、詳しくは、文法、第二卷 [183] を参照。

[9] getrunken und gespielt は、二つとも前の er hat を受けてゐる。

[10] bekommen は過去分詞で、不定法の形と同じである。此の bekommen の三要形の變化に就いては、要するに語幹丈が問題になる。即ち kommen が不定法で gekommen は過去分詞であるが、bekommen の be は弱勢前綴であるから、過去分詞としての前綴 ge を附けない。従つて過去分詞と不定法と同形となる。第二卷 105 の終と 106 の終を見よ。

[11] 即ち es は、即ち es ist に就いては文法第二卷 [185] を参照。

[12] schlafen gegangen は schlafen gehen (寝に行く) の過去分詞の形である。

[13] nichts: Er hat nichts getan. Er hat nichts gesehen. Er hat nichts gelernt. Er hat alles getrunken. の省略文である。

[14] hat...bekommen は兩方の文章にかかつてゐる。即ち完全文章を書いて見れば： Nach dem kleinen Kriege hat der deutsche Kaiser die große Stadt bekommen, unser König aber hat die schönen Dörfer am Meer bekommen. である。

[15] sprechen は ich werde にかかる。

## 第九課

## 人稱變化の不規則なる動詞

Kaufmann, m.	商人	nehmen	取る
Dieb, m.	泥棒	schlagen	打つ
Hund, m.	犬	geben	與へる
Schuh, m.	靴	lesen	読む
Dienst, m.	[service]	stehlen	盗む
erklären, 宣言する・説明する		zu Ende	終まで
vergessen	忘れる	gleich	直ちに
halten	[to keep]	nie	[never]
essen	食ふ	Dir (Du の三格)	汝に
fressen	啖ふ	indem	……しつつ

1. Weil der Morgen schön ist, nimmt er Hut und Stock und geht spazieren. 2. Sie spricht sehr gut deutsch, aber ich kann kein Deutsch. 3. Schläft Dein Vater noch? Ein Besuch ist da und will ihn sprechen. 4. Der Lehrer sieht, daß der kleine Schüler sehr gut lernt, und lobt ihn vor allen seinen Kameraden. 5. Das arme Kind! Es ist glücklich, wenn seine Mutter es nur nicht schlägt.

【譯】 1. 朝は〔今朝は〕(der Morgen) 美しく〔天気が良く〕(schön) ある (ist) から (weil) 彼は (er) 帽子と杖とを (Hut und Stock) 取り (nimmt=nehmen) そして (und) 散歩に行く (geht spazieren). 2. 彼女は (sie) 大脣良く (sehr gut) 獨逸語を (deutsch)=sprechen) 併しながら (aber) 私は (ich) 一つも 獨逸語が出来ない (kann kein Deutsch). 3. 汝の父は (Dein Vater) まだ (noch) 眠つてゐるか (schläft=schlafen)? 一人の訪問客が (ein Besuch) 其所にある [= 来てるる] (ist da) そして (und) 彼と話さうと (ihn sprechen)<sup>註2</sup> 欲する (will). 4. 先生は (der Lehrer) 小さな生徒が (der kleine Schüler) 大脣良く (sehr gut)

學ぶ (lernt) と (dass) 見て (sieht=siehen) そして (und) 彼を (ihm) 全ての彼の 同輩の前で (vor allen seinen Kameraden) 褒める (lobt). 5. あはれなる子供よ (das arme Kind)! それは [=その子供は] (es) その母が (eine Mutter) それを [=その子供を] (二つ目の es) 打ちさへしなければ [=それだけで] (nur nicht schlägt=schlagen) 幸福で (glücklich) ある (ist) [それで満足してゐる]

6. Der reiche Kaufmann gibt dem Boten seines Freundes ein kleines Trinkgeld. 7. Der Großvater schläft immer, wenn er gegessen hat. 8. Sprechen Sie kein Japanisch? oder halten Sie mich für einen Engländer, daß Sie gleich englisch mit mir sprechen? 9. Der Arzt sieht, daß er schwer krank ist, und sagt ihm, daß er im Bett liegen bleiben muß. 10. Der Mensch ist das, was er ist, hat ein deutscher Materialist gesagt.

【譯】 6. 富める商人が (der reiche Kaufmann) 彼の友人の使者に (dem Boten seines Freundes) 少しの心附けを (ein kleines Trinkgeld) 與へる (gibt=geben)<sup>註3</sup> 7. 祖父は (der Großvater) 彼が [自分が] (er) 食事を終る (gegessen [=essen] hat) と (wenn) 必ず (immer) 眠る (schläft). 8. 貴君は (Sie) 少しも日本語が話せませんか (sprechen...kein Japanisch)?<sup>註4</sup> それとも (oder) 貴君は (二つ目の Sie) 貴君が (三つ目の Sie) 直ぐに (gleich) 英語を (englisch)<sup>註4</sup> 私と話す (mit mir sprechen) 程に (dass) 私を (mir) 英国人と見なしますか (halten...für einen Engländer) [頭つから私に英語をお話し掛けになる所を以て見ると、あなたは私を英國人だとでもお思ひになつたのですね?] 9. 醫者は (der Arzt) 彼が (er) 重い病氣で (schwer krank) ある (ist) のを (dass) 見る (sieht) そして (und) 彼に (ihm) 彼は (二つ目の er) ベットの中に (im Bett) 横はつたまゝでゐ (liegen bleiben) なければならない (muß) と (dass) 云ふ (sagt). 10. 人間は (der Mensch) 彼が (er) 食ふ (ist = essen) 所の (woß)<sup>註5</sup> そのもので (das) ある (ist)<sup>註6</sup> と、ある獨逸の唯物論者が (ein deutscher Materialist) 云つた (hat...gesagt).

11. Dieser Mann ist ganz reich, aber er gibt nie Trinkgeld. Man sagt, daß er es vergißt. Ich kann es nicht glauben. 12.

Warum schlägst Du Deinen kleinen Bruder? Er hat Dir nie etwas getan! 13. Warum nimmt dieser Mensch meine schöne Schwester bei der Hand? — Weil sie frank und er ein Arzt ist. — Ach darum! 14. Wenn man etwas stiehlt, indem man etwas gibt, so heißt man Kaufmann, wenn man aber stiehlt, indem man nichts gibt, so heißt man Dieb. 15. Der Hund stiehlt einen Schuh, das Dienstmädchen sieht es und schlägt ihn mit einem Stock.

【譯】 11. 此の男は (dieser Mann) 非常に金持で (ganz reich) ある (ist) が併しながら (aber) 彼は (er) 決して (nie) 心附けを (Trinkgeld) 與へ (gibt) [ない]。彼は (二つ目の er) それを (es) 記<sup>10</sup> 忘れる (vergibt = vergessen) のだと (dass) 人は云ふ [=…との噂だ] (man sagt) 僕は (ich) それを (二つ目の es) 記<sup>11</sup> 信することが (glauben) 出來ない (kann... nicht) 12. 何故に (warum) 汝は (Du) 汝の小さな兄弟を (Deinen kleinen Bruder) 打つか (schlägst)? 彼は (er) 汝に (Dir) 曾て (nie) 何事も (etwas) 爲さ [なか] つたではないか (hat... getan)! 13. 何故に (warum) 此の人間は (dieser Mensch) 私の美しい姉妹を (meine schöne Schwester) 取るか (nimmt <sup>12</sup>? 一彼女は (sie) 病氣で [あり] (kranf) そして (und) 彼は (er) 醫者で (ein Arzt) ある (ist) から (weil) — あア (oh) それですか (darum)! 14. 人が (二つ目の man) 何か或物を (二つ目の etwas) 與へ (gibt) つつ (indem) 人が (一つ目の man) 何か或物を (一つ目の etwas) 盜む (stiehlt=stehlen) 時には (wenn) その時には (so) 人は (三つ目の man) 號<sup>13</sup> 商人と (Kaufmann) 呼ばれる (heißt) 併しながら (aber) 何物も與へないでゐて (indem man nichts gibt) 人が (四つ目の man) 盜む (二つ目の stiehlt) 時には (二つ目の wenn) その時には (二つ目の so) 人は (六つ目の man) 泥棒と (Dieb) 呼ばれる (二つ目の heit) 15. 犬が (der Hund) 一つの靴を (einen Schuh) 盜む (stiehlt) 下婢か (das Dienstmädchen) それを (es) 見る (sieht) そして (und) 彼を (ihm) 一本の杖を以て (mit einem Stock) 打つ (schlägt)

16. Unsere Mutter ist in diesem Augenblide auf ihrem Zimmer und spricht mit einem Gaste. 17. Haben Sie schon zu Abend

gegessen? — Nein, ich bin nur vor einem Augenblick nach Hause gekommen und habe noch nichts gegessen. 18. Wenn man einem sein Wort gegeben hat, so muß man es auch halten. 19. Es ist nicht genug, daß man viel liest: man muß auch gute Bücher lesen. 20. Früher habe ich auch die deutsche Sprache gelernt, jetzt aber habe ich sie ganz vergessen.

【譯】 16. 我々の母は (unsere Mutter) 此の瞬間に [=今] (in diesem Augenblide) 彼女の部屋に (auf <sup>14</sup> ihrem Zimmer) ある (ist) そして (und) 一人の客と (mit einem Gaste) 話してゐる (spricht) 17. 貴君は (Sie) 既に (schon) 晚飯を食つてしまひましたか (haben... zu Abend gegessen)? <sup>15</sup> — 否 (nein) 僕は (ich) ほんの一寸前に (nur vor einem Augenblick) 歸つた (bin... nach Hause gekommen) そして (und) まだ (noch) 何物をも (nichts) 食べてゐる [ない] (habe...gegessen) 18. 人が (man) 人に (einem) <sup>16</sup> 彼の言葉を與へてしまつた (sein Wort gegeben hat) <sup>17</sup> 時には (wenn) その時には (so) 人は (二つ目の man) <sup>18</sup> それを (es=sein Wort) また (auch) 守らなければならぬ (muß...halten) 19. 人が (man) 多くを (viel) <sup>19</sup> 讀む (liest=lesen) 事 (dass) それは (es) <sup>20</sup> 充分で (genug) ない (ist nicht): 人は (二つ目の man) また (auch) 良い本を (gute Bücher) 讀まなければならぬ (muß...lesen) 20. 以前 (früher) 私は (ich) 獨逸語をも (auch die deutsche Sprache) 學んだ (habe...gelernt) 併しながら (aber) 今は (jetzt) 私は (二つ目の ich) 彼女を (sie=die deutsche Sprache) 全然 (ganz) 忘れてしまつてゐる (habe...vergessen)

21. In diesem Augenblick sieht der frante Bruder auf dem Bett und liest den Brief seines Freundes. 22. Mein Dieb stiehlt in seinem eigenen Hause, wenn er es überhaupt hat. 23. Er hält mich für einen Engländer und spricht englisch mit mir. 24. Seiner Kaufmann hat viel zu tun. Er hat immer keine Zeit. Er liest und schreibt Briefe, indem er ist. 25. Der Besuch will jetzt gehen und nimmt Hut und Stock, indem er noch immer mit meinen Eltern spricht.

【課】 21. 此の瞬間に [=今] (in diesem Augenblick) 病氣の兄弟は (der kranke Bruder) ベットの上に (auf dem Bett) 腰かけ (sitzt) て (und) 彼の友人の手紙を (den Brief seines Freundes) 読んでゐる (liest) 22. 如何なる泥棒も (ein Dieb) 彼が (er) それを (es = Haus) 抑も (überhaupt) 持つてゐる (hat) ならば (wenn) 自分自身の家 [の中] では (in seinem eigenen Hause) 盜ま (stiehlt) [ない] 23. 彼は (er) 私を (mich) 一人の英國人と (für einen Engländer) 見なし (hält = halten) そして (und) 英語を (englisch) 私と (mit mir) 話す (spricht) 24. あの商人は (jener Kaufmann) 爲すべく多くを持つ [多忙である] (hat viel zu tun) 彼は (er) 常に (immer) 暇を持たない (hat ... keine Zeit) 彼は (二つ目の er) 彼が (三つ目の er)<sup>註17</sup> 食べ (iht) つつ (indem) 手紙を (Briefe) 読み、且つ、書く (liest und schreibt) 25. 訪問客は (der Besuch) 今や (jetzt) 去らんと欲し (will ... gehen) て (und) 彼は (er) 依然として (noch immer) 私の両親と (mit meinen Eltern) 話し (spricht) つつ (indem) 帽子と杖とを (Hut und Stock) 取る (nimmt)

26. Er liest das Buch zu Ende und erklärt, daß es ein Werk von einiger Bedeutung ist. 27. Ich habe meinem kleinen Bruder einen Brief für Dich gegeben. Aber er vergißt alles: er vergißt auch, daß er es vergessen hat. 28. Mein Vater liest nie etwas, darum kann er uns nie etwas erzählen. 29. Der kleine Knabe liebt den Hund sehr, darum geht er gleich zu seiner Mutter und sagt, daß der große Bruder ihn mit einem Stock schlägt. 30. Der Hund stiehlt, wenn man ihm nichts zu fressen gibt. 31. Wenn man nichts zu essen hat, so muß man Dieb werden.

【譯】 26. 彼は (er) 本を (das Buch) 終まで (zu Ende) 読み (liest) そして (und) それが: (es) 若干の意義の [ある] 作品で (ein Werk von einiger Bedeutung) ある (ist) と (dab) 宣言する (erklärt) 27. 私は (ich) 私の弟に (meinem kleinen Bruder) 汝に [届ける] 爲めの手紙を (einen Brief für Dich) 與へた (habe ... gegeben) 併し (aber) 彼は (er) 凡ゆることを (alles) 忘れる (vergibt): [即ち] 彼は (二つ目の er) 自分が (三つ目の er) それを (es) 忘れ

てしまつてゐる (vergessen hat) と云ふことを (dab) も亦 (auch) 忘れる (vergibt) 28. 私の父は (mein Vater) 決して (nie) 何物をも (etwas) 購ま (liest) [ない] 其故に (darum) 彼は (er) 我々に (uns) 決して (二つ目の nie) 何物をも (二つ目の etwas) 物語ることが出來 (kann... erzählen) [ない] 29. 小さな少年は (der kleine Knabe) 犬を (den Hund) 非常に (sehr) 愛する (liebt) 其れ故に (darum) 彼は (er) 直ぐに (gleich) 彼の母の所へ (zu seiner Mutter) 行く (geht) そして (und) 兄さんが (der große Bruder) 彼を (ihn = Hund) 棒で (mit einem Stock) 打つてゐる (schlägt) と (dab) 云ひつける (sagt) 30. 犬は (der Hund) 人が (man) 彼に (ihm) 喰ふべき (zu fressen)<sup>註17</sup> 何物をも (nichts) 奥へ (gibt) [ない] 時には (wenn) 盜む (stiehlt) 31. 人は (man) 食ふべき (zu essen)<sup>註18</sup> 何物をも (nichts) 持た (hat) [ない] 時には (wenn) その時には (je) 人は (二つ目の man) 泥棒に (Dieb) ならなければならぬ (muß... werden)

【註】 [1] kein Deutsch の Deutsch は大書してあるが、之れは否定冠詞が附いてあるからである。

[2] ihn sprechen [彼を話す] は、mit ihm sprechen「彼と話す」とは違つて、「面會する」の意。

[3] gibt は「ギーブト」で「ギブト」ではない。古くは giebt である。

[4] kein Japanisch, englisch の大書、小書の問題も、deutsch の場合と同様である。

[5] was は關係代名詞で、詳しくは文法第二卷 [166] 参照。

[6] 米を食へば米であり、コロッケを食へばコロッケである、つまり物質その物である、の意。

[7] es は「心附を與へる事を」の意。二つ目の es は、前文即ち daß er es vergibt 「彼が、それを忘れる事」と云ふ事」をうけてゐる。

[8] nimmt meine schöne Schwester bei der Hand は、「私の姉妹の手を取る」の意、獨逸語では、此の種の言ひ廻しが慣用になつてゐる。例、Er saß ihn bei den Haaren. 彼は「彼の髪を摑む」、Ich habe ihn in den Fingern geschnitten (=schneiden)「僕は、彼の指を切つた」等。此の言ひ廻しに於て、上例の、四格の補足語にあたるもののが、三格の場合もある。[文法第四卷 413 に至つて説明す]

[9] man は元來、不定代名詞で、一格しか形がなく、er で代理する事が出來ないから、必要の場合には、幾つても man の形を繰返さなければならぬ。[文法第二卷 118]

[10] auf は in と殆んど同意味で用ひられる。

- [11] zu Abend eßen 「晩飯を食ふ」は熟語である。
- [12] einem は、man の三格、此の man は一つ目の man 以外のものである。註(9)の説明の通りであるから、man の二格より四格迄は、同じ意味に用ゐらるる不定代名詞 einer の二、三、四格 (eineß, einem, einen) を代用す。〔文法第二卷 181〕
- [13] sein Wort geben 「約束する」の sein は一つ目の man の物主代名詞である。換言すれば、man の人代名詞は man であるが、物主代名詞は sein である。
- [14] 二つ目の man = 一つ目の man.
- [15] viel liebt の viel は、量の意味に於て、名詞的に用ゐられたるもので、「多くの書物を讀む」、多讀の意味である。
- [16] es は、主文章に於て、dab 以下の副文章（主語となるべき）を代表す。
- [17] 三つ目の es は、日本語に譯す時は却つて之が無い方が判りやすい位で、日本語では此の「彼」を繰返さないが、獨逸文では、副文章の主語として省略する事が出來ない。
- [18] fressen は動物が食ふ時、essen は人間に就いて用ゐられる。

## 第 十 課

### A

#### 規則動詞の過去及び sollen, wissen の用法

Zaugenichts, m. 役立たず	hoffen [to hope]
Eisenbahn, f. 鐵道	zu [too+形容詞]
Reich, n. 國、帝國	als .....時に
Volk, n. 國民	hatte [had]
wieder [again]	war [was]
sonst 然らずんば	waren [were]
nicht einmal ... すらも ... (せず)	gegen (四格支配) ... に對して
nachts um eins 夜中の一時に	stark, a. 強い

1. Der reiche Kaufmann grüßte mich und sagte mir guten Morgen. 2. Dein Bruder achtete und fürchtete den Vater, aber

Du fürchtest ihn gar nicht, sagte mir meine Mutter. 3. Sein Vater glaubte ihn stark und schickte sofort einen Diener nach dem Arzt. 4. Der Vater wollte den Knaben stehlen lehren, aber auch das Stehlen war zu schwer für ihn. Da sagte ihm der Vater: Du kannst nicht einmal ein Zaugenichts werden! 5. Der Mann wollte gar nicht arbeiten, sondern immer nur trinken und spielen, darum wollten seine Kinder nicht in einem Hause mit ihm wohnen

【譯】 1. 富める商人は (der reiche Kaufmann) 私に (mir) 挨拶した (grüßte) そして (und) 私に (mir) お早うと (guten Morgen) 云つた (sagte) 2. 汝の兄弟は (Dein Bruder) 父を (den Vater) 尊敬した (achtete) そして (und) 恐れた (fürchtete) 併しながら (aber) 汝は (Du) 彼を (ihn) 全然 (gar) 恐れない (fürchtet nicht) と、私の母は (meine Mutter) 私に (mir) 云つた (sagte) 3. 彼の父は (sein Vater) 彼を (ihn) 病氣と (stark) 思つた (glaubte) そして (und) 直に (sofort) 一人の下僕を (einen Diener) 醫者の方へ [醫者を呼びに] (nach dem Arzt) 遣つた (schickte) 4. 父は (der Vater) 少年に (den Knaben) 盜むことを教へようとした (wollte...stehlen lehren) 併しながら (aber) 盗むことさへ (auch das Stehlen) 彼にとつては (für ihn) あまりに難しく (zu schwer) あつた (war) そこで (da) 父は (der Vater) 彼に (ihm) 云つた (sagte): お前は (Du) 役立たず (ein Zaugenichts) すらも (nicht einmal) 成ることが出来 (kannst...werden) [しない]! 5. 男は (der Mann) 全然 (gar) 働くことを欲しなかつた (wollte... nicht arbeiten) で (sondern) 常に (immer) ただ (nur) 飲酒し、そして、賭博をせんと欲した ([wollte] trinken und spielen) 其れ故に (darum) 彼の子供達は (seine Kinder) 一つの家 [= 同じ家] に (in einem Hause) 彼と共に (mit ihm) 住むことを欲しなかつた (wollten...nicht wohnen)

6. Wenn der Knabe mit Fleiß arbeitete, dann taufte die Mutter schöne Bücher und schenkte sie ihm. 7. Früher wohnten er und seine alten Eltern in einer der schönsten Straßen von Wien. 8. In alten Zeiten war noch keine Eisenbahn da, und die armen

Leute wanderten mit einem Stock in der Hand. 9. Du sollst Deine Eltern lieben, sonst wirst Du nicht von Deinen Kindern geliebt. 10. Soll ich gleich zum Arzt gehen? fragte sie ihren kranken Vater.

【譯】 6. 少年が (der Knabe) 勤勉に (mit Fleiß) 勉強した (arbeitete) 時には (wenn) その時には (dann) 母は (die Mutter) 美しい本を (schöne Bücher) 買つた (kaufte) そして (und) それ等を (sie = Bücher) 彼に (ihm) 贈つた (geschenkte) 7. 以前 (früher) 彼とそして彼の老いたる両親とは (er und seine alten Eltern) 維納 (Wien) の (von) 最も美しい街道の一の内に (in einer der schönsten Straßen) 住んでゐた (wohnten) 8. 昔の時代に於ては (in alten Zeiten) まだ (noch) 一つも鐵道が (eine Eisenbahn) そこに [なか] つた [存在し[なか] つた] (war ... da) そして (und) 貧しき人々は (die armen Leute) 手に (in der Hand) 一本の杖を持つて (mit einem Stock) 徒歩旅行をした (wanderten) 9. 汝は (Du) 汝の両親を (Deine Eltern) 愛すべきである (sollst ... lieben) 然らずんば (sonst) 汝は (Du) 汝の子供等から (von Deinen Kindern) 愛されない (wirst ... nicht geliebt) 10. 私は (ich) 直ぐに (gleich) 醫者の所に (zum Arzt) 行きませうか (soll...gehen)? と彼女は (sie) 彼女の病氣の父に (ihren kranken Vater) 問うた (fragte)

11. Wenn ich nicht recht arbeiten wollte, so sagte mir meine Mutter nichts, aber weinte still in ihrem Zimmer. 12. Als der König die schönste Stadt des Reichs zerstörte, da erklärte ihm der deutsche Kaiser den Krieg. 13. Im Weltkriege hat das deutsche Volk sein Reich gegen die ganze Welt verteidigt. 14. Der Knabe suchte seine Schuhe überall, aber sie waren nicht mehr zu finden. Vielleicht hat sie ein Dieb gestohlen. 15. Mein alter Lehrer liebte das deutsche Volk, und erzählte uns immer von ihm und seinem Fleiß.

【譯】 11. 私が (ich) 餘り (reicht) 勉強することを欲しなかつた (nicht arbeiten wollte) 時には (wenn) その時には (jo) 私の母は (meine Mutter) 私に

(mir) 何も (nichts) 云は [なか] つた (sagte) 併し (aber) 彼と (still) 彼女の部屋で (in ihrem Zimmer) 泣いた (weinte) 12. 王が (der König) 帝國の一一番美しい市を (die schönste Stadt des Reichs) 破壊した (zerstörte) 時に (als) その時に (da) 獨逸の皇帝は (der deutsche Kaiser) 彼に (ihm) 戰争を (den Krieg) 宣言した (erklärte) 13. 世界戰争に於て (im Weltkriege) 獨逸國民は (das deutsche Volk) 彼等の國を (sein Reich) 全世界に對して (gegen die ganze Welt) 守つた (hat...verteidigt) 14. 少年は (der Knabe) 彼の靴を (seine Schuhe) 到る所に (überall) 探した (suchte) 併し (aber) 彼等は (sie = Schuhe) 最早 (nicht mehr) 見出すべく (zu finden) [な] かつた (waren) 惟らくは (vielleicht) 一人の泥棒が (ein Dieb) 彼等を (二つ目の sie = Schuhe) 盜んだ [のであらう] (hat...gestohlen) 15. 私の老いたる先生は (mein alter Lehrer) 獨逸の國民を (das deutsche Volk) 愛した (liebte) そして (und) 我々に (uns) 常に (immer) 彼と彼の勤勉に就て (von ihm [= das deutsche Volk] und seinem Fleiß) 物語つた (erzählte)

16. Diese Soldaten verteidigten tapfer ihr schönes Heimatland, als es die Feinde zerstören wollten. 17. Früher rauchte mein Kamerad sehr viel, aber jetzt raucht er nicht mehr. 18. Ich weiß, daß er noch keine Eisenbahn gesehen hat. 19. Weißt Du, daß Du ein Taugenichts bist? Wenn Du es nicht weißt, so sollst Du es jetzt wissen. 20. Er weiß, daß ich einen reichen Onkel habe, und kommt immer zu mir, wenn er kein Geld hat.

【譯】 16. 此の兵士等は (diese Soldaten) 敵が (die Feinde) それを (es = Heimatland) 破壊せんと欲した (zerstören wollten) 時 (als) 勇敢に (tapfer) 彼等の美しき故國を (ihre schönen Heimatland) 守つた (verteidigten) 17. 以前 (früher) 私の同輩は (mein Kamerad) 非常に多く (sehr viel) 喫煙した (rauchte) 併しながら (aber) 今 (jetzt) 彼は (er) 最早 (nicht mehr) 喫煙し (raucht) [ない] 18. 彼は (er) まだ (noch) 鐵道を (eine Eisenbahn) 見た事がない (gesehen hat) といふ事を (dass) 私は (ich) 知つてゐる (weiß) 19. 汝が (二つ目の Du) 一人の役立たずで (ein Taugenichts) ある (bist) と云ふことを (dass) 汝は

(一つ目の Du) 知つてゐるか (weißt)? 汝が (三つ目の Du) それを (es) 知ら (weißt) ない (nich!) ならば (wenn) それならば (so) 汝は (四つ目の Du) それを (es) 今や (jetzt) 知る可きである (jollst...wissen) 20. 彼は (er) 私が (ich) 一人の富める叔父を (einen reichen Onkel) 持つ (habe) 事を (dass) 知る (weiß) そして (und) 彼が (二つ目の er) 一文も (ein Geld) 持た (hat) [ない] 時には (wenn) いつも (immer) 私の所へ (zu mir) 出掛けて来る (kommt)

21. Weißt Du, daß ich diese Nacht um eins einen Besuch gehabt habe? — Was! nachts um eins einen Besuch! Was hatte er Dir zu sagen? — Nichts. Aber beim Gehen sagte er mir: „ich hoffe nicht wieder zu kommen, Du bist zu arm.“ 22. Der Lehrer lobte mich, wenn ich die Worte seines geliebten Dichters erklären konnte. 23. Das deutsche Volk hofft, jetzt wieder so stark zu werden wie vor dem Weltkriege.

【譯】 21. 僕が (ich) 昨夜 (diese Nacht) 一時に (um eins) 一人の訪問客を (einen Besuch) 持つた (gehabt habe) といふ事を (dass) 君は (Du) 知つてゐるか (weißt)? — 何ツ (was)! 夜中の一時に (nachts um eins) 一人の訪問客を (einen Besuch) [註4] 彼は (er) 君に (Dir) 云ふべく (zu sagen) 何を (was) 持つたか (hatte)? — 何も [持たなかつた] (nichts) [註5] 併し (aber) 去る際に (beim Gehen) [註6] 彼は (二つ目の er) 僕に (mir) 云つた (sagte): 「僕は (ich) 再び (wieder) 来ることを (zu kommen) 期し (hoffe) ない (nich!) 君は (Du) 餘りに貧しく (zu arm) ある」 (bist) と云つた (sagte) 22. 先生は (der Lehrer) 私が (ich) 彼の愛する詩人の詞を (die Worte seines geliebten Dichters) 説明できた (erklären konnte) 時には (wenn) 私を (mich) 褒めた (lobte) 23. 獨逸の國民は (das deutsche Volk) 今や (jetzt) 再び (wieder) 世界戦争の前の (vor dem Weltkriege) 如く (wie) そんなに強く (so stark) 成ることを (zu werden) 期してゐる (hofft)

【註】 (1) ~Sein Vater glaubte, daß er trank ist.

(2) einer = einer Straße.

(3) der Besuch [靴] は、單數は片足の意になるから、大抵複数を使ふと思つて宜しい。

(4) einen Besuch = Du hast einen Besuch gehabt! 併し此の場合、省略文の方が強く云ひ現される。

(5) nichts = er hatte mir nichts zu sagen.

(6) beim Gehen: 不定法は、大書して中性名詞となる。従つて Gehen は「行くこと」「歩行」の意味。動作を意味する名詞の前の bei は、常に「……の際に」の意。

(7) seines geliebten Dichters の geliebt は、lieben の過去分詞で、元來は「愛されたる」の意味を有する形容詞であつて、「彼の愛されたる詩人」では、日本語として少し誤解される虞があるが、lieben「愛する」の対象は Dichter で、er ではない。

## B

### 不規則動詞の過去及び倒置法

Stuhl, m.	椅子	verlangen	要求する
Wasser, n.	[water]	schreien	叫ぶ
Kirche, f.	教會	laufen	走る
Walz, m.	森	werfen	投げる
Graf, m. [弱]	伯爵	springen	[to spring]
Nachbar, m.	隣人	bringen	[to bring]
freundlich, a.	親切な	bitten	願ふ
höflich, a.	町寧な	selbst	自分自身
seit (三格)	…以来	um (四格)	…の周圍に
nächst, a.	次の	hinein	中へ
warten	待つ	früh	早い

1. Heute Morgen ging ich zu meinem Onkel und fand, daß er frant im Bette lag.
2. Er nahm einen Stock und schlug nach dem Knaben.
3. Dieser schrie und lief zu seiner Mutter.
4. Der Großvater saß in einem Stuhl und erzählte uns von dem großen europäischen Krieg.
5. Als ich vor einem Augenblick aus dem

Zimmer ging, schließt die kleine Schwester noch still in ihrem Bette.  
5. Er hielt mich für einen Japaner, weil ich so gut japanisch sprach.

【譯】 1. 今朝 (heute Morgen) 私は (ich) 私の叔父の所へ (zu meinem Onkel) 行つた (ging=gehen) そして (und) 彼が (er) 病氣で (krank) ベットの中に (in Bette) 横はつてゐた (lag=siegen) のを (daß) 見出した (fand=finden) 2. 彼は (er) 一本の杖を (einen Stock) 取つた (nahm=nehmen) そして (und) 少年を 狙つて (nach dem Knaben) 打つた (schlug=schlagen) 後者は (dieser=Knabe) 叫んだ (schrie=schreien) そして (und) 彼の母の所へ (zu seiner Mutter) 走つた (lief=laufen) 3. 祖父は (der Großvater) 一つの椅子の中に (in einem Stuhl) 腰かけてゐた (saß=sitzen) そして (und) 我々に (uns) ヨーロッパの大戦について (von dem großen europäischen Kriege) 物語つた (erzählte) 4. 私が (ich) 一瞬間に前に (vor einem Augenblick) 部屋 [の中] から [外へ] (aus dem Zimmer) 行つた (ging) 時 (als) 妹は (die kleine Schwester) まだ (noch) 静かに (still) 彼女のベットの中に (in ihrem Bette) 眠つてゐた (schließt=schlafen) 5. 彼は (er) 私が (ich) そんなに良く (so gut) 日本語を (japanisch) 話した (sprach=sprechen) から (weil) 私を (mich) 一人の日本人と (für einen Japaner) 見なした (hielt=halten)

6. Der Dichter blieb immer in seinem Zimmer, saß still da, sprach kein Wort und dachte über sein nächstes Werk. 7. Wir gingen jeden Tag mit unserm kleinen Hunde spazieren, und wenn wir einen Stock ins Wasser warfen, so sprang er hinein und brachte ihn wieder zu uns. 8. Da unser Graf ein reicher Mann war, gab er unsren Dienern immer viel Trinkgeld. 9. Mein Vater hatte immer sehr viel zu tun, aber wenn er einen freien Augenblick hatte, dann las er die Werke der deutschen Dichter. 10. Du mußt alles tun, was ich von Dir verlange, sonst halte ich Dich für keinen Freund mehr.

【譯】 6. 詩人は (der Dichter) 常に (immer) 彼の部屋の中に (in seinem Zimmer) 止まつて (blieb=bleiben) 静かに (still) そこに (da) 腰かけてゐて (saß) 一語も語らずして (sprach kein Wort) そして (und) 彼の次の作品に就いて (über sein nächstes Werk) 考へた (dachte=denken) 7. 我々は (wir) 每日 (jeden Tag) 我々の小さな犬と共に (mit unserm kleinen Hund) 散歩に行つた (gingen...spazieren) そして (und) 我々が (二つ目の wir) 一本の棒を (einen Stock) 水の中へ (ins Wasser) 投げた (warf=werfen) 時には (wenn) その時には (jo) 彼は (er=Hund) 中へ (hinein) 跳び [込んで] (sprang=springen) 彼を (ihn=Stock) 再び (wieder) 我々の所へ (zu uns) 持つて來た (brachte=bringen) 8. 我々の伯爵は (unser Graf) 一人の富める男で (ein reicher Mann) あつた (war=sein) から (da) 彼は (er) 我々の下僕等に (unsren Dienern) 常に (immer) 多くの心附けを (viel Trinkgeld) 興へた (gab=geben) 9. 私の父は (mein Vater) 常に (immer) 爲すべき (zu tun) 非常に多くを (sehr viel) 持つた [非常に多忙だった] (hatte=haben) 併し (aber) 彼は (er) 自由なる一瞬間を (einen freien Augenblick) 持つた (hatte) 時には (wenn) その時には (dann) 彼は (二つ目の er) 獨逸の詩人達の作品を (die Werke der deutschen Dichter) 読んだ (las=lesen) 10. 汝は (Du) 私が (ich) 汝から (von Dir) 要求する (verlange) 所の (was) 凡ゆることを (alles) 爲さねばならぬ (muß...tun) 然らずんば (sonst) 私は (二つ目の ich) 汝を (Dir) 最早や友人と (für [keinen] Freund [mehr]) 見なさ (halte) [ない]

11. Er tat alles für Geld, für nichts tat er nichts. 12. Früher stand das Schloß des Fürsten in einer der schönsten Straßen dieser Stadt. 13. Er hatte keine Eltern, und wenn er nichts zu essen hatte und man ihm nichts geben wollte, stahl er, und so wurde er ein Dieb. 14. Das Kind schrie und verlangte Milch, aber die Mutter war nicht da. 15. Im Hause schrie man Feuer, und nach einem Augenblick standen die Leute um das Haus und hatten Wasser gebracht.

【譯】 11. 彼は (er) 金錢と引換へでなら [金きへ貰へば] (für Geld) 何でも (alles) した (tat=tun) 無と引換へには [ただでは、の意] (für nichts)

彼は(二つ目の er)何事も(二つ目の nichts)爲さ[なか]つた(二つ目の tat)  
 12. 以前(früher)侯爵の城が(das Schloß des Fürsten)此の市の最も美しい  
 街道の一つに(in einer der schönsten Straßen dieser Stadt)立つてゐた(stand  
 = stehen) 13. 彼は(er)両親を持たなかつた(hatte keine Eltern)そして(und)  
 彼が(二つ目の er)食ふべき(zu essen)何物も(nichts)持た[なく]て(hatte)  
 そして(二つ目の und)人が(man)彼に(ihm)何物をも(二つ目の nichts)  
 與へようと欲し[なか]つた(gaben wollte)時には(wenn)彼は(三つ目の er)  
 盜んだ(stahl=stehlen)斯くして(und so)彼は(四つ目の er)一人の泥棒に  
 (ein Dieb)なつた(wurde = werden) 14. 子供は(das Kind)叫んだ(schrie)  
 そして(und)乳を(Milch)要求した(verlangte)併しながら.(aber)母は(die  
 Mutter)そこに(da)ゐなかつた(war nicht) 15. 家の中に於て(um Haus)  
 人が(man)火事だ、と(Feuer)註<sup>1</sup>叫んだ(schrie)そして(und)一瞬間の後  
 には(nach einem Augenblick)人々は(die Leute)家の周圍に(um das Haus)  
 立つてゐた(standen)そして(二つ目の und)水を(Wasser)持つて來てゐた  
 (hatte...gebracht = bringen)

16. Wenn man von ihm einen Dienst verlangte, so mußte man  
 ihm Geld geben, sonst wollte er gar nichts tun. 17. Was für  
 ein Baum stand früher vor dem Hause Deines Onkels, als Du bei  
 ihm wohntest? 18. Das Dienstmädchen brachte mir einen Stuhl  
 und bat mich, nur einen kleinen Augenblick zu warten. 19. Ein  
 Bote kam in aller Eile zu mir und brachte einen Brief von unserm  
 Lehrer. 20. Vor vielen Jahren stand eine schöne Kirche zwischen  
 dem Schloß des Grafen und dem Landhaus jenes berühmten  
 Kaufmanns.

【譯】16. 人が(man)彼から(von ihm)一つの仕事を(einen Dienst)要  
 求した(verlangte)時には(wenn)その時には(so)人は(二つ目の man)彼に  
 (二つ目の ihm)錢を(Geld)與へなければならなかつた(mußte...geben)然  
 らずんば(sonst)彼は(er)全然(gar)何事をも(nichts)爲すことを欲し[なか]  
 つた(wollte...tun) 17. 以前(früher)君が(Du)彼の許に(bei ihm = Onkel)

住んでゐた(wohnte)時(also)君の叔父の家の前には(vor dem Hause Deines  
 Onkels)何の樹が(was für ein Baum)立つてゐたか(stand)? 18. 下婢  
 は(das Dienstmädchen)私に(mir)一つの椅子を(einen Stuhl)持つて來た  
 (brachte)そして(und)私に(mid)註<sup>2</sup>ただ(nur)ちよつとの間[少しの瞬間]  
 (einen Augenblick)待つことを(zu warten)願ふた(bat = bitten) 19. 一人の  
 使者が(ein Bote)大急ぎで(in aller Eile)私の所に(zu mir)來た(kam =  
 kommen)そして(und)我々の先生からの一本の手紙を(einen Brief von  
 unserm Lehrer)持つて來た(brachte) 20. 昔(vor vielen Jahren)一つの美  
 しい教會が(eine schöne Kirche)伯爵の城(dem Schloß des Grafen)と(und)  
 かの有名なる商人の別荘との(dem Landhaus jenes berühmten Kaufmanns)間に  
 (zwischen)立つてゐた(stand)

21. Das Pferd warf den General auf die Erde und lief in den  
 Wald hinein. 22. Als ich noch ein kleines Kind war und meine  
 Großmutter noch lebte, gehörte der Wald dem Grafen dieses Landes.  
 23. Als ich früh am Morgen im Dorfe spazieren ging, da war  
 noch kein Mensch auf der Straße zu sehen, und nur ein Vogel saß  
 auf dem Dach eines Hauses und sang. 24. Ein armer Mann  
 stand vor der Tür meines Hauses und bat, ihm etwas zu essen zu  
 geben, aber ich konnte ihm nichts geben, weil ich selber seit gestern  
 nichts zu essen hatte. 25. Ich kannte ihn sehr gut, da er mein  
 Spielsamerad war. Mit einem Wort, er war ein Taugenichts, tat  
 nichts, rauchte und trank, so klein er war, schlug seine eigene Mutter,  
 ging nicht einmal in die Kirche.

【譯】21. 馬は(das Pferd)將軍を(den General)地の上へ(auf die Erde)  
 投げ出し(warf)て(und)森の中へ[すつと](in den Wald hinein)走つ  
 た(lief) 22. 僕が(ich)まだ(noch)一人の小さな子供で(ein kleines Kind)  
 あつて(war)そして(und)僕の祖母が(meine Großmutter)まだ(二つ目の  
 noch)生きてゐた(lebte)時(also)森は(der Wald)此の國の伯爵に(dem Grafen  
 dieses Landes)屬してゐた(gehörte) 23. 私が(ich)朝早く(früh am Morgen)

村の中を (im Dorfe) 散歩した (spazieren ging) 時 (als) その時は (da) まだ (noch) 一人の人間も (ein Mensch) 街道に (auf der Straße) 見るべく (zu sehen) をら [なか]つた (war) [=見掛けなかつた] そして (und) ただ一羽の鳥が (nur ein Vogel) 一軒の家の屋根の上に (auf dem Dach eines Hauses) とまつてゐて (saß) そして (二つ目の und) 歌つてゐた (sang = singen) 24. 一人の貧しき男が (ein armer Mann) 私の家の扉の前に (vor der Tür meines Hauses) 立つて ゐた (stand) そして (und) 彼に (ihm) 食ふべき何か或物を (etwas zu essen) 與へることを (zu geben) 願ふた (bat) 併し (aber) 私は (ich) 自分自身が (二つ目の ich selber) 昨日以来 (seit gestern) 食ふべき (zu essen) 何物をも (二つ目の nichts) 持つてゐ[なか]つた (hatte) から (weil) 彼に (二つ目の ihm) 何物をも (一つ目の nichts) 與へることが出来 [なかつた] (konnte [= können] ... geben) 25. 僕は (ich) 彼が (er) 僕の遊び友達で (m. in Spielfreund) あつた (war) から (da) 彼を (ihn) 非常によく (sehr gut) 識つてゐた (kannte = kennen). 一語を以てすれば [約言すればの意] (mit einem Wort) 彼は (二つ目の er) 一人の役立たずで (ein Lauenichts) あつた (二つ目の war) 何事も爲さなかつた (tat nichts) 喫煙した (rauchte) そして (und) 飲酒した (trank = trafen) 彼は (三つ目の er) 如何に小さく (so klein) あつた (三つ目の war) [=とは雖も] 彼自身の母を (seine eigene Mutter) 打つた (schlug) 教會へ (in die Kirche) すらも (nicht einmal) 行 [かなか]つた (ging)

26. Als ich gestern mit meinen Freunden in die Stadt ging, begegnete mir ein alter Soldat auf dem Wege und fragte mich nach dem Schlosse des Königs. 27. Wenn die Nacht still war und alles im Hause schlief, da dachte ich oft an meine Heimat und meine alten, glücklichen Tage und mußte weinen. 28. Vor dem Dorfe lag ein Schloß und in diesem wohnte ein reicher Graf. Er war sehr geliebt, weil er freundlich gegen seine Nachbarn war, und die Leute vom Dorf grüßten ihn höflich, wenn er durch das Dorf ging.

【譯】 26. 私が (ich) 昨日 (gestern) 私の友人等と共に (mit meinen Freunden)

市へ (in die Stadt) 行つた (ging) 時 (als) 私に (mir) 一人の老いたる兵士が (ein alter Soldat) 途中で (auf dem Wege) 出逢つた (begegnete) そして (und) 私に (mir) 王の城を (nach dem Schlosse des Königs) 問ふた (fragte) 27. 夜が (die Nacht) 静かで (still) あつて (war) そして (und) 凡ゆるものか (alles) 家の中に (im Hause) 眠つてゐた (schlief) 時には (wenn) その時には (da) 私は (ich) 屢々 (oft) 私の故郷及び私の昔の幸福の時代を [=日日を] (an meine Heimat und meine alten, glücklichen Tage) 考へた (dachte) そして (三つ目の und) 泣かざるを得なかつた (mußte [= müssen] weinen) 28. 村の前に (vor dem Dorfe) 一つの城が (ein Schloß) あつた (lag) そして (und) 此のものの中に (in diesem = Schloß) 一人の富める伯爵が (ein reicher Graf) 住んでゐた (wohnte) 彼は (二つ目の er) 彼の隣人等に對して (gegen seine Nachbarn) 親切で (freundlich) あつた (二つ目の war) から (weil) 彼は (一つ目の er) 大層愛されて (sehr geliebt) あつた (一つ目の war) そして (und) 彼が (三つ目の er) 村を通つて (durch das Dorf) 行つた (ging) 時には (wenn) 村の人々は (die Leute vom Dorf) 彼に (ihn) 叮嚀に (höflich) 挨拶した (grüßten)

【註】 (1) Feuer は es ist Feuer! 「火事だ」の省略。

(2) mich (I) fragen, grüßen [前出] 等の場合と同様に、日本語では「私に」であるが、bitte も、他動詞なるが故に四格の補足語をとる。

(3) in den Wald hinein の hinein は、いづれ文法の第二十講へ行つて分離動詞を研究すればわかる。

(4) so klein の so は、此の場合副詞でなく、接続副詞になる [第四卷 296]。

(5) alles は、中性單數の變化をなし名詞的に用ゐられ、集合的に人を示す。

(6) in diesem の diesem に就ては、譯讀第一卷、第七課 B、註(4) 及び文法第二卷 [180] 参照。

(7) geliebt (I lieben の過去分詞で、「愛されたる」の意味を持つ形容詞である。

## 第十課

## 人代名詞、縮小名詞の構成法及び形容詞の格支配

Gesicht, n.	顔	willkommen, a. [welcome]
Liebe, f.	愛	treu, a. 忠實な
Luft, f.	空氣	ja 否むしろ
Schulden, pl.	借金	später 後で
Seite, f.	[side]	endlich 遂に
weit, a.	遠い、廣い	dringe 乗り込む
ehrlich, a.	[honest]	lange 長らく
nah, a.	近くの	daneben その側に

1. Sie sind mir nicht willkommen, denn als ich vor einigen Jahren zu Ihnen kam und einen kleinen Dienst von Ihnen verlangte, da sagten Sie mir ins Gesicht, daß Sie mich nicht für Ihren Freund hielten. 2. Euer König gibt euch das schönste seiner Pferde, weil ihr in diesem Kriege so tapfer wart und sein Land gegen die Feinde verteidigt habt. 3. Unser Diener war uns immer treu und liebte uns so, daß er nicht einmal zu Bette ging, wenn einer von uns krank war. Wir Kinder halten ihn darum nicht für einen Diener, sondern für einen Freund, ja für unsern Großvater. 4. Als ich noch ein kleiner Knabe war, spielte ich mit ihr Mann und Frau, und oft sagte sie mir, daß sie auch später meine Frau werden wollte. Das hat sie aber vergessen und jetzt ist sie das Weib meines Nachbars. 5. Sie und ich, wir waren nicht glücklich in unserer Liebe, denn wenn ich sie liebte, liebte sie mich nicht, und wenn sie mich nicht liebte, liebte ich sie.

【譯】 1. 貴君は (Sie) 私に (mir) 歓迎されて (willkommen) をらない (sind ...nicht) と云ふのは (denn) 私が (ich) 二三年前に (vor einigen Jahren) 貴君の所へ (zu Ihnen) 来て (kam) そして (und) 一つの小さな用事を (einen kleinen Dienst) 貴君から [= 貴君に] (von Ihnen) 要求した [頼んだ] (verlangte) 時 (als) その時 (da) 貴君は (二つ目の Sie) 私に、顔の中へ向つて [= 私の顔の中へ向つて = 面と向つて] (mir ins Gesicht)<sup>註1</sup> 貴君は (三つ目の Sie) 私を (mich) 貴君の友人と (für Ihren Freund) 見なさない [過去] (nicht...hielten) と (dass) 云つた (sagten) [から] 2. 汝等の王は (euer König) 汝等が (ihr) 此の戦争に於て (in diesem Kriege) そんなに勇敢で (so tapfer) あつて (wart) そして (und) 彼の國を (sein Land) 敵に對して (gegen die Feinde) 守つた (verteidigt habt) から (weil) 汝等に (euch) 彼の馬の [中の] 最も立派なのを (das schönste<sup>註2</sup> seiner Pferde) 與へる (gibt) 3. 我々の下僕は (unser Diener) 我々に (uns)<sup>註3</sup> 常に (immer) 忠實で (treu) あつた (war) そして (und) 彼は (er) 我々の [中の] 一人が (einer<sup>註4</sup> von uns) 病氣で (krank) あつた (war) 時には (wenn) ベットへ (zu Bette) すらも (nicht einmal) 行か [なか] つた (ging) 程に (dass)<sup>註5</sup> そんなに (so) 我々を (二つ目の uns)<sup>註6</sup> 愛した (liebte) 我々、子供等は (wir Kinder) 彼を (ihn) それ故に (darum) 一人の下僕と (für einen Diener) 見なさない (halten ...nicht) で (jondern) 一人の友人と (für einen Freund) 否むしろ (ja) 我々の祖父と [見なす] (für unseren Großvater) 4. 僕が (ich) まだ (noch) 一人の小さな少年で (ein kleiner Knabe) あつた (war) 時 (als) 僕は (二つ目の ich) 彼女と共に (mit ihr) 夫婦 [の遊戯] を (Mann und Frau)<sup>註7</sup> 遊んだ (spielte) そして (und) 屢 (oft) 彼女は (sie) 彼女が (二つ目の sie) 後で [= 将來] も亦 (auch später) 私の妻に (meine Frau) ならうと欲する (werden wollte) と (dass) 私に (mir) 云つた (sagte) それを (das) 併しながら (aber) 彼女は (三つ目の sie) 忘れてしまつて (hat...vergessen) そして (und) 今は (jetzt) 彼女は (四つ目の sie) 私の隣人の妻で (das Weib meines Nachbars) ある (ist) 5. 彼女と僕 [との] (sie und ich) 我々は (wir)<sup>註8</sup> 我々の愛に於て (in unserer Liebe) 幸運で (glücklich) なかつた (waren nicht) 何故となれば (denn) 僕が (二つ目の ich) 彼女を (二つ目の sie) 愛した (liebte) 時には (wenn) 彼女は (三つ目の sie) 僕を (mich) 愛さなかつた (liebte...nicht) そして (und) 彼女が (四つ目の sie) 僕を (二つ目の mich) 愛さなかつた (nicht drei目的 liebte) 時に (二つ目の wenn) 僕は (三つ目の ich) 彼女を (五つ目の sie) 愛した (liebte) [から]

6. Mein Brüderchen und dein Schwestern gingen mit unserm Hündchen durch das Dörfchen in das nahe Wäldlein spazieren. 7. Eigentlich hatte ich keine Lust, bei Ihnen Schulden zu machen, aber da Sie so freundlich gegen mich waren, mußte ich es Ihnen zu Liebe tun. 8. Meine Eltern sprechen sehr gut deutsch, englisch und französisch und lassen mich auch alle diese Sprachen lernen; im nächsten Winter darf ich vielleicht mit ihnen nach Europa gehen und dort einige Jahre bleiben. 9. Die Feinde waren endlich vor dem Stadttor, und als die Soldaten des Fürsten es nicht mehr verteidigen konnten, drangen jene in das Städtchen und warfen Feuer in alle Häuser und auch in das Schloß des Fürsten hinein. 10. Als er so bei seinen Nachbarn alles getan hatte, was sie nicht lobten, und ihn kein Mensch mehr auf der Straße grüßten, sondern jeder ehrliche Mann ihm aus dem Wege ging, da blieb ihm nichts übrig, als aus der Heimat in die weite Welt hinaus zu wandern.

【譯】 6. 僕の小さき兄弟 (mein Brüderchen) と (und) 君の小さき姉妹とは (mein Schwestern) 我々の小さき犬と共に (mit unserem Hündchen) 小さな村を 通つて (durch das Dörfchen) 近くの小さな森の中へ (in das nahe Wäldlein) 散歩に行つた (gingen...spazieren) 7. 本當は (eigentlich) 私は (ich) 貴君の所で [=貴君に] (bei Ihnen) 借金を (Schulden) 作るべき (zu machen) 慾望を持つてゐなかつた (hatte...keine Lust) 併しながら (aber) 貴君が: (Sie) 私に對して (gegen mich) そんなに親切で (so freundlich) あつた (waren) から (da) 私は (二つ目の ich) 貴君を喜ばす爲めに (Ihnen zu Liebe) それを (es) <sup>註8</sup> 爲さざるを得なかつたのだ (mußte...tun) 8. 私の両親は (meine Eltern) 大層よく (sehr gut) 獨逸語を (deutsch) 英語を (englisch) そして (und) 佛蘭西語を (französisch) 話す (sprechen) そして (二つ目の und) 私をして (mich) また (auch) すべての之等の言語を (alle diese Sprachen) 學ばしめる (lassen...lernen); 次の冬に於て (im nächsten Winter) 私は (ich) 恐らくは (vielleicht) 彼等と共に (mit ihnen) ヨーロッパ [の方] へ行き (nach Europa gehen) そして (三つ目の und) 其所に

(dort) 二三年間 (einige Jahre) 止まる事が出来る (darf...bleiben) 9. 敵は (die Feinde) 遂に (endlich) 市門の前に (vor dem Stadtor) あつた (waren) そして (und) 侯爵の兵士等が (die Soldaten des Fürsten) それを (es=Stadtor) 最早 (nicht mehr) 守ることが出来なかつた (verteidigen konnten) 時 (als) 彼の者等は (jene) 小さな市に (in das Städtchen) 乗込んだ (drangen = dringen) そして (und) 凡ゆる家の中へ (in alle Häuser) そして (und) 侯爵の城の中へも亦 (auch in das Schloß des Fürsten) 火を (Feuer) 投げ込んだ (warfen...hinein) 10. 彼が: (er) 斬くして (so) 彼の隣人達の所で [=隣人達に] (bei seinen Nachbarn) 彼等が: (sie) 褒めなかつた (nicht lobten) 所の (was) 凡ゆることを (alles) 爲してしまつて (getan hatte) そして (und) 彼に (ihm) 最早何人も (kein Mensch mehr) 往來で (auf der Straße) 挨拶し [なく] つ (grüßten) T (sondern) すべての良民達が (ieber ehrliche Mann) 彼に、道から [外へ] 行つた [=彼の道から外へ行つた = 彼を避けた] (ihm aus dem Wege ging) 時 (als) その時に (da) 故郷から (aus der Heimat) 遠い世界へ (in die weite Welt) 外へ (hinaus) 行くこと (zu wandern) より外に (二つ目の als) <sup>註9</sup> 彼には (二つ目の ihm) 何事も (nichts) 残り (übrig) 止まらなかつた (blieb)

11. Sind Sie schon lange in Japan? — Nein, ich bin erst seit einem Jahre hier. — Wie lange hoffen Sie bei uns zu bleiben? — Ich weiß nicht, wie lange ich bleiben darf, denn ich bin mit meinen Eltern gekommen. 12. Wenn Sie diesen Weg nach dem Walde nehmen, so kommen Sie bald an einen großen Garten. Daneben steht ein stilles, schönes Häuschen und auf einer Seite der Haustür sieht man ein kleines Bäumchen: das ist mein Elternhaus. 13. Unser Großvater liebte uns und wir hatten ihn auch sehr lieb. Jetzt ist er nicht mehr da, er ruht schon neben der Kirche unseres Dorfs in der kalten Erde. Aber wir haben ihn nicht vergessen und denken oft an ihn. 14. Der Arbeiter arbeitet nicht mehr und trinkt den ganzen Tag. Da kann sein Weib ihn nicht mehr so lieb haben wie früher und will ihm nicht gehorchen. Da trinkt der

Mann noch mehr, weil sein Weib ihm nicht gehorcht. Er schlägt sie und sie schlägt ihn wieder. Und so hat es kein Ende.

【譯】 11. 貴君は (Sie) 既に (schon) 長らく (lange) 日本に (in Japan) るますか (find)? — 否 (nein) 私は (ich) やつと (erst) 一年以来 (seit einem Jahre) こゝに (hier = in Japan) をります (bin) — 如何程長く (wie lange) 貴君は (二つ目の Sie) 我々の所に (bei uns)<sup>註10</sup> 止まることを (zu bleiben) 豫想しますか (hoffen)? — 如何程長く (二つ目の wie lange) 私は (三つ目の ich) 止まつてよろしいかを (bleiben darf) 私は (二つ目の ich) 知らない (weiß nicht) 何故と云ふに (denn) 私は (四つ目の ich) 私の両親と共に (mit meinen Eltern) 来た (bin ... gekommen) [から] 12. 貴君が (Sie) 此の道を (diesen Weg) 森の方へ (nach dem Walde) とる (nehmen) ならば (wenn) そんならば (so) 貴君は (二つ目の Sie) 程なく (bald) 一つの大きな庭園の側に (an einen großen Garten) 来る (kommen) 其の側に (daneben) 一軒の静かな、美しい小家が (ein stilles, schönes Häuschen) 立つてゐる (steht) そして (und) 玄關の扉の一方の側に (auf einer Seite der Haustür) 人は (man) 一本の小さな樹を (ein kleines Baumchen) 見る (sieht): それが (das) 私の両親の家で (mein Elternhaus) ある (ist) 13. 我々の祖父は (unser Großvater) 我々を (uns) 愛した (liebte) そして (und) 我々は (wir) 彼を (ihn) また (auch) 非常に (sehr) 愛した (hatten ... lieb)<sup>註11</sup> 今 (jetzt) 彼は (er) 最早 (nicht mehr) そこにある [ない] = [生きてゐない] (ist...da) 彼は (二つ目の er) 既に (schon) 我々の村の教會の側に (neben der Kirche unseres Dorfes) 冷たい地の中に (in der kalten Erde) 休む (ruht) 併しながら (aber) 我々は (二つ目の wir) 彼を (二つ目の ihn) 忘れてしまつてゐない (haben ... nicht vergessen) そして (und) 屢々 (oft) 彼の事を (an ihn) 考へる (denken) 14. 勞働者は (der Arbeiter) 最早 (nicht mehr) 働か (arbeitet) [ない]、そして (und) 終日 (den ganzen Tag) 飲酒する (trinkt) そこで (da) 彼の妻は (sein Weib) 彼を (ihn) 最早 (二つ目の nicht mehr) 以前の如くに (wie früher) そんなに (so) 愛すことが (lieb haben) 出來 (kann) [ない]、そして (und) 彼に (ihm) 服従しようと欲しない (will...nicht gehorchen) そこで (二つ目の da) 男は (der Mann) 彼の妻が (二つ目の sein Weib) 彼に (二つ目の ihm) 服従しない (nicht gehorcht) から (weil) なほ、より多く [=益々多く] (noch mehr) 飲酒する (二つ目の trinkt) 彼は (er) 彼女を (sie) 打つ (schlägt) そして (und) 彼

女は (二つ目の sie) 彼を (二つ目の ihn) 再び、打つ [=打ち返す] (schlägt ... wieder) そして (und) 斯の如くにして (so) 終を (kein Ende) 持た [ない] [=果てしない] (hat es)<sup>註12</sup>

【註】 [1] 第九課、註[8] 参照。

[2] das schönste = das schönste Pferd.

[3] 一つ目の uns は三格、二つ目の uns は四格。

[4] einer: 数詞として名詞的に用ゐられたるもの。

[5] 第八課、B、註[2] 参照。

[6] Mann und Frau は、例の二語一想で、此所では、遊戯の名になつてゐる。

[7] sie und ich, wir: er und ich, ich und du の二つの場合も、mir でまとめる、du und er (oder sie) は ihr で締める。

[8] es = bei Söhnen Schulden zu machen.

[9] als は、否定の後に用ゐられて、除外を意味す。

[10] bei uns は「我國に」で、bei uns in Japan の意である。

[11] hatten...lieb は、lieb haben といふ成句である。

[12] es hat kein Ende, は非人稱的熟語といふもので、いづれ次巻で説明がある筈。

## 第十二課

## 分離動詞

hin	彼方へ	selber	自分自身
her	此方へ	erst, <sup>a.</sup>	第一の
hinter	うしろ	mehrmaß	度々
unter	下	verlassen	去る
zurück	[back]	fliehen	逃げる
weg, fort	[away]	tragen	運ぶ
Dūgend, n.	一ダース	aufhören	やむ、やめる
Sonne, f.	太陽	aufmachen	開ける
Mond, m.	大陰	zumachen	閉ぢる
Effen, n.	食事	vorlesen	読み聞かせる
Seite, f.	頁	zu hören	聴聽する

1. Ich kenne noch kein Wörtchen Lateinisch, darum will ich mit einem ganz leichten Buche anfangen. 2. Ich nehme ein kleines Lesebuch und fange von der ersten Seite an. 3. Er singt von der ersten Seite an, aber sie war ihm zu schwer, da ging er zu seinem Vater und bat ihn, sie ihm zu erklären. 4. Er hat schon mehrmals angefangen, die deutsche Sprache zu lernen. 5. Was war es heute für ein Tag! Wenn ich etwas anfing, war immer wieder ein Besuch da.

【譯】1. 私は (ich) まだ (noch) 一つの小さな言葉も [=少しも] 拉典語を (ein Wörtchen<sup>は</sup> Lateinisch) 識ら (kenne) [ない]。それ故に (darum) 私は (二つ目の ich) 一冊の全く易い本を以て (mit einem ganz leichten Buche) 始めんと欲する (will...anfangen) 2. 私は (ich) 一冊の小さな讀本を (ein kleines Lesebuch) とり (nehme) そして (und) 第一頁から始める (von der ersten Seite)

(fange ... an) 3. 彼は (er) 第一頁から (von der ersten Seite) 始めた (ging [=fangen]...an) 併し (aber) 彼女は (sie=die erste Seite) 彼に (ihm) 餘りに難しく (zu schwer) あつた (war) そこで (da) 彼は (二つ目の er) 彼の父の所へ (zu seinem Vater) 行つた (ging) そして (und) 彼女を (sie = die erste Seite) 彼に (二つ目の ihm = 最初の er) 説明することを (zu erklären) 彼に [=父に] (ihn) 願つた (bat) 4. 彼は (er) 既に (ihon) 度々 (mehrmaß) 獨逸語を (die deutsche Sprache) 學ぶことを (zu lernen) 始めた (hat...angefangen) [=anfangen]) 5. 今日は (heute) 何とした日で (was...für ein Tag)! 既<sup>2</sup> あつた事よ (war es)<sup>は</sup> 僕が (ich) 何か或る事を (etwas) 始めた (anfang) 時には (wenn) 何時でも、また [=始終] (immer wieder) 訪問客が (ein Besuch) そこに、あつた [=來た] (war...da)

6. Die Sonne geht noch nicht auf, es ist noch früh am Morgen. 7. Dort kommen viele Soldaten aus dem Walde heraus, sie wollen in das nahe Dorf hineingehen. 8. Die Leute verlassen ihre Häuser und fliehen weit ins Land hinein, denn die Feinde kommen heran. 9. Die Sonne geht hinter dem Walde unter und jetzt wird es Nacht. 10. Jetzt ist die Sonne untergegangen, aber der Mond geht noch nicht auf.

【譯】6. 太陽は (die Sonne) まだ (noch) 上ら (geht...auf) ない (nicht) それは (es) まだ (二つ目の noch) 早朝で (früh am Morgen) ある (ist)<sup>は</sup> 7. 彼所に (dorf)<sup>は</sup> 多くの兵士が (viele Soldaten) 森[の中]から (aus dem Walde) 出て来る (kommen...heraus) 彼等は (sie) 近くの村[の中]へ (in das nahe Dorf) 入り込まんと欲する (wollen...hineingehen) 8. 人々は (die Leute) 彼等の家々を (ihre Häuser) 去る (verlassen) そして (und) 遠く、國のの方へ (weit ins Land) 逃げ込む (fliehen...hinein) 何故と云ふに (denn) 敵が (die Feinde) 近づいて来る (kommen heran) [から] 9. 太陽は (die Sonne) 森の後で (hinter dem Walde) 沈む (geht ... unter) そして (und) もはや (jetzt) 夜に (Nacht) なる (wird es) 10. もう (jetzt) 太陽は (die Sonne) 沈んでしまつた (ist...untergegangen [=untergehen]) 併し (aber) 月は (der Mond) まだ (noch) 上ら (geht...auf) ない (nicht)

11. Wenn Du hinausgehst, mußt Du auch mich mit nehmen.
12. Darf ich auch mitgehen, wenn Du reisest, mein Vater? 13. Es ist Abend geworden und das Kind ist in seinem Bette eingeschlafen.
14. Sie stand von ihrem Arbeitstisch auf, als wir zu ihr hineingingen. 15. Er arbeitete lange Zeit in seinem Arbeitszimmer und erst gegen Abend hörte er auf, als das Dienstmädchen das Abendessen hereintrug.

【譯】 11. 君は (Du) 外へ行く (hinausgehst) なら (wenn) 君は (二つ目の Du) 僕も (auch mich) 一緒に (mit) 連れて行つて呉れなければ困る (mußt ... nehmen) 12. あなたが (Du) 旅行する (reisest) ならば (wenn) 私も亦 (ich auch) 一緒に行つてもよろしいか (darf... mitgehen)? 私の父よ (mein Vater) 13. 晩に (Abend) なつてしまつた (es ist... geworden) そして (und) 子供は (das Kind) その床の中に (in seinem Bette) 眠り込んでしまつた (ist... eingeschlafen) 14. 彼女は (sie) 我々が (wir) 彼女の所へ (zu ihr) 入つて行つた (hineingingen) 時 (als) 彼女の仕事臺から (von ihrem Arbeitstisch) 立上つた (stand... auf) 15. 彼は (er) 長い間 (lange Zeit) 彼の書齋で (in seinem Arbeitszimmer) 働いてゐた (arbeitete) そして (und) 夕方近く、やつと (erst gegen Abend) 下婢が (Dienstmädchen) 晩飯を (das Abendessen) [中へ] 還び込んで來た (hereintrug) 時 (als) 彼は (二つ目の er) 止めた (hörte... auf)

16. Er ging früh am Morgen hinaus und kam gegen Abend zurück. 17. Ist dein Bruder schon von Deutschland zurückgekommen? 18. Alle gingen zum Stadttor hinaus und nur die alten Weiber waren zurückgeblieben. 19. Der Lehrer machte ein großes Buch auf, las uns einige Seiten vor, und machte es dann wieder zu. 20. Der alte Soldat stand auf und erzählte uns vom Krieg, — er hatte ihn mitgemacht — und wir hörten ihm still zu.

【譯】 16. 彼は (er) 朝早く (früh am Morgen) 外へ行つた (ging... hinaus) そして (und) 夕方近くに (gegen Abend) 歸つて來た (kam... zurück) 17. 汝の

兄弟は (dein Bruder) 既に (schon) 獨逸から (von Deutschland) 歸つて來てゐるか (ist ... zurückgekommen)? 18. みんなが (alle) 市門の所 (zum Stadttor) から外へ行つた (gingen hinaus) そして (und) 老いたる女達のみが (nur die alten Weiber) 後に残つてゐた (waren zurückgeblieben) 19. 先生は (der Lehrer) 一冊の大きな本を (ein großes Buch) 開けた (machte... auf) 我々に (uns) 二三頁を (einige Seiten) 読み聞かせた (las... vor) そして (und) それから (dann) それを (es) 再び (wieder) 閉ぢた (machte... zu) 20. 老いたる兵士は (der alte Soldat) 立ち上つた (stand auf) そして (und) 我々に (uns) 戰争について (vom Krieg) 物語つた (ergähzte), — 彼は (er) 彼を (ihn = Krieg) 共に爲してゐた [戦争に參加したの意] (hatte ... mitgemacht) — そして (und) 我々は (wir) 彼に (ihm) 静かに (still) 謹聽した (hörten... zu)

21. Der Diener machte die Haustür auf, kam heraus, und gab dem armen Manne zu essen. 22. Ich wartete lange vor seiner Tür, aber da er noch immer nicht zurückkam, da ging ich fort. 23. Der Hund wollte den Schuh des Mädchens stehlen, da brachte sie einen Stod und der Hund lief in aller Eile weg. 24. Er liebt alle Welt und schenkt alles weg, sodaß er selber nicht einmal zu essen hat. 25. Wenn mein Mann ausgeht, so bringt er sicher ein Dutzend Gäste zum Abendessen mit nach Hause.

【譯】 21. 下僕は (der Diener) 玄關の扉を (die Haustür) 開けた (machte... auf) 外へ出て來た (kam heraus) そして (und) 貧しき男に (dem armen Manne) 食ふべく [=食物を] (zu essen) 與へた (gab) 22. 私は (ich) 長らく (lange) 彼の扉の前に (vor seiner Tür) 待つてゐた (wartete) 併し (aber) 彼は (er) 依然として (noch immer) 歸つて來なかつた (nicht zurückkam) から (da) そこで (二つ目の da) 私は (二つ目の ich) 去つた (ging... fort) 23. 犬は (der Hund) 娘の靴を (den Schuh des Mädchens) 盜もうとした (wollte... stehlen) そこで (und) 彼女は (sie) 一本の棒を (einen Stod) 持つて來た (brachte) すると (und) 犬は (二つ目の der Hund) 大急ぎで (in aller Eile) 走り去つた (lief... weg) 24. 彼は (er) 世間中を [=誰彼の嫌ひなく] (alle Welt) 愛する (liebt) そ

して (und) 彼自身 (二つ目の er selber) 食物を (zu essen) すら (nicht einmal) 持た [ない] (hat) 程に (so daß) 何もかも (alles) やつてしまふ (schenkt... weg)  
 25. 私の良人が (mein Mann) 外へ行く (ausgeht) 時には (wenn) その時には (iv) 彼は (er) 岐度 (sicher) 一ダースの客を [客をどつさり] (ein Dutzend Gäste) 晩飯に [=晩飯を食べる爲めに] (zum Abendessen) 一緒に (mit) 家へ (nach Hause) 連れて来る (bringt)

26. Die glücklichen Kinder spielen im Gärtnchen und laufen zwischen den Bäumen hin und her. 27. Karl, willst du diesen Hut und diesen Stock gleich zum Vater hinuntertragen? Er wartet vor der Haustür. 28. Die Soldaten gingen vor und das Wolf floh in aller Eile weg. 29. Willst nur du zurückbleiben, wenn alle deine Kameraden in den Krieg gehen?

【譯】 26. 幸福なる子供等は (die glücklichen Kinder) 小さな園の中で (im Gärtnchen)遊び (spielen) そして (und) 樹々の間を (zwischen den Bäumen) 彼方此方へ (hin und her) 走る (laufen) 27. カルルよ (Karl) お前は (du) 此の帽子と此の杖とを (diesen Hut und diesen Stock) 直ぐに (gleich) 父の所へ (zum Vater) 持つて降りて呉れないか (willst... hinuntertragen)? 彼は (er) 玄關の扉の前で (vor der Haustür) 待つてゐる (wartet) 28. 兵士等は (die Soldaten) 前進した (gingen vor) そして (und) 群衆は (das Wolf) 凡ゆる急ぎに於て [-大急ぎで] (in aller Eile) 逃げ去つた (floh... weg) 29. 全ての汝の同輩が (alle deine Kameraden) 戦争に (in den Krieg) 行く (gehen) のに (wenn) 汝のみ (nur du) 後に止まらんと欲するか (willst... zurückbleiben)?

【註】 [1] kein Wörtchen Lateinisch の 翻訳は、此の課の [25] の ein Dutzend Gäste の ein Dutzend と同様、數量を示す詞で Lateinisch と同格に置かれてゐる。

[2] was... für ein Tag! の was für ein は感歎の意を現す。

[3] war es は非人稱動詞である。(第三卷)

[4] es はも非人稱動詞である。

[5] dort は、「彼所から」と譯す方が判りやすい、此の「から」の譯は、heraus の her からして、其の意味が出て來るのである。

[6] alle は名詞的用法で、alle Leute の意味。

[7] zum Stadttor hinaus: 第二卷 237 を見よ。

[8] zu essen は etwas zu essen である。

[9] Gärtnchen は Garten の縮小名詞で、en は發音の關係上省略されてゐる。

## 第十三課

### 再 跡 動 詞

Tisch, m.	机	sich erinnern (二格) 想ひ出す
Bank, f.	ベンチ	sich verheiraten (mit) 結婚する
Park, m.	公園	sich ausdrücken 言ひ廻す
Wunder, n.	奇蹟	sich entfernen 遠ざかる
allein	[alone]	sich nennen 名乗る
zwar	成程 (...ではある)	sich befinden ...である、に在る
sich setzen	腰かける	sich helfen 要領よくやる
sich fürchten (vor)	を恐れる	sich trauen 敢てする
sich freuen (über)	を欣ぶ	sich schmeicheln 自負する

1. Der Kaufmann setzte sich an einen Tisch und fing an, einen Brief zu schreiben. 2. Die Feinde waren sehr stark, aber die Soldaten fürchteten sich nicht vor ihnen. 3. Ich war immer arm und hatte oft nichts zu essen, aber ich habe immer gewußt, mir zu helfen. 4. Wollen Sie sich auf den Stuhl setzen und mir etwas Neues erzählen? 5. Mein Vater freut sich sehr, Sie bei uns zu sehen, denn er hat Sie immer für seinen Hausfreund gehalten.

【譯】 1. 商人は (der Kaufmann) 一つの机に向つて (an einen Tisch) 腰かけた (setzte sich) そして (und) 一本の手紙を (einen Brief) 書くことを (zu schreiben) 始めた ( fing an) 2. 敵は (die Feinde) 非常に強く (sehr stark) あつてからして、其の意味が出て來るのである。

た (waren) 併しながら (aber) 兵士達は (die Soldaten) 彼等の前に (vor ihnen) 恐れをなさなかつた (fürchteten sich nicht) 3. 私は (ich) 常に (immer) 貧しく (arm) あつた (war) そして (und) 屋々 (oft) 食ふべき (zu essen) 何物をも (nichts) 持た [なかつ]た (hatte) 併しながら (aber) 私は (二つ目の ich) 常に (二つ目の immer) 要領よくやることを (mit zu helfen) 知つてゐた (habe ... gewußt = wissen) 4. 貴君は (Sie) 椅子の上に (auf den Stuhl) 腰かけ (sich setzen) そして (und) 私に (mir) 何か新しい事を (etwas Neues) 話して (erzählen) 下さいませんか (wollen)? 5. 私の父は (mein Vater) 貴君を (Sie) 我々の許で [= 家で] (bei uns) 見ることを (zu sehen) 非常に (sehr) 欣々 (freut sich) 何故と云ふに ( denn) 彼は (er) 貴君を (二つ目の Sie) 常に (immer) 彼の家庭の親友と (für seinen Haustreund) 見なしてゐた (hat...gehalten) [から]

6. Ich weiß, wie er heißt, aber seines Gesichtes erinnere ich mich nicht mehr. 7. Er war in Amerika und vor einigen Jahren hat er sich mit einer Amerikanerin verheiratet. 8. Er kann die deutsche Sprache sehr gut lesen und schreiben, aber wenn er sie sprechen will, so weiß er nicht, wie er sich ausdrücken soll. 9. Ich glaubte auf der Straße meinen alten Spielfameraden zu sehen, ich lief nach, da hatte er sich schon entfernt. 10. Er nennt sich Georg Schulze und ist ein reicher Kaufmann von Hamburg.

【譯】 6. 如何に (wie) 彼が (er) 名乗るかを (heißt) 私は (ich) 知る (weiß) 併しながら (aber) 彼の顔を (seines Gesichtes) 私は (二つ目の ich) 最早 (nicht mehr) 想ひ出さ (erinnere...mich) [ない] 7. 彼は (er) アメリカに (in Amerika) むた (war) そして (und) 二三年前に (vor einigen Jahren) 彼は (二つ目の er) 一人のアメリカ婦人と (mit einer Amerikanerin) 結婚した (hat sich verheiratet) 8. 彼は (er) 獨逸語を (die deutsche Sprache) 非常によく (sehr gut) 読み、そして、書くことが出来る (kann...lesen und schreiben) 併しながら (aber) 彼は (二つ目の er) 彼女を (sie = die deutsche Sprache) 話さうと欲する (sprechen will) 時は (wenn) その時は (so) 彼は (三つ目の er) 如何にして (wie) 彼が (四つ目の er) 言ひ廻すべき (sich ausdrücken soll) [かを] 知らない (weiß nicht)

9. 私は (ich) 街道上で (auf der Straße) 私の古い遊び友達を (meinen alten Spielfameraden) 見ると (zu sehen) 信じた (glaubte)<sup>註1</sup> 私は (二つ目の ich) 後について走つた (lief nach) その時には (da) 彼は (er) 既に (schon) 遠ざかつてしまつてゐた (hatte sich entfernt) 10. 彼は (er) ゲオルク・シュルツエと (Georg Schulze) 名乗る (nennt sich) そして (und) ハンブルクの (von Hamburg) 一人の富める商人で (ein reicher Kaufmann) ある (ist)

11. Sie glaubt sich eine Dichterin und schmeichelt sich, sich bald mit einem berühmten Manne zu verheiraten. 12. Er ging in das Zimmer seines reichen Onkels hinein, aber da das Zimmer so schön war, getraute er sich nicht, sich auf einen Stuhl zu setzen. 13. Mein Schwestern war leicht krank, aber sie tat alles, was der Arzt ihr sagte, und so befindet sie sich heute besser als gestern. 14. Der arme Mann ging in den Park, setzte sich auf eine Bank und schlief ein. 15. Wenn Du Dich mit einem solchen Weibe verheiratest, so will ich Dich nicht mehr für meinen Bruder halten.

【譯】 11. 彼女は (sie) 自分を (sich) 一人の女詩人だと (eine Dichterin) 信する (glaubt) そして (und) 程なく (bald) 一人の名高き男と (mit einem berühmten Manne) 結婚することを (sich zu verheiraten) 自負する (schmeichelt sich) 12. 彼は (er) 彼の富める叔父の部屋の中へ (in das Zimmer seines reichen Onkels) 入つて行つた (ging...hinein) 併しながら (aber) 部屋は (二つ目の das Zimmer) 非常に美しく (so schön) あつた (war) から (da) 彼は (二つ目の er) 一つの椅子の上へ (auf einen Stuhl) 腰かけることを (sich zu setzen) 敢てしなかつた (getraute sich nicht) 13. 私の妹は (mein Schwestern) 軽い病氣で (leicht krank) あつた (war) 併しながら (aber) 彼女は (sie) 醫者に (der Arzt) 彼女に (ihr) 云つた (sagte) 所の、凡ゆることを (alles, was) 為した (tat) 斯くして (und so) 彼女は (二つ目の sie) 今日は (heute) 昨日 (gestern) より (als) より好く (besser) ある (befindet sich) 14. 貧しき男は (der arme Mann) 公園へ (in den Park) 行つた (ging) 一つのベンチの上へ (auf eine Bank) 腰かけた (setzte sich) そして (und) 眠り込んだ (schlief ein)<sup>註2</sup> 15. お前が (Du) 左様な女と

(mit einem solchen Weibe) 結婚する (Dich verheiratest) なら (wenn) そんなら (so) 私は (ich) も前を (二つ目の Dich) 最早 (nicht mehr) 私の兄弟と (für meinen Bruder) 見なすことを (halten) 欲し (will) [ない]

16. Wenn die Lehrer den Fleiß eines Schülers loben, so freut er sich sehr und auch die Eltern sehen es sehr gern. 17. Wenn Du Dich an gar nichts erinnerst, und alles vergisst, was Dir der Lehrer gesagt hat, so ist es kein Wunder, daß Du Dich gar nicht auszudrücken weißt. 18. Ich getraute mir, mich auf englisch auszudrücken, obgleich ich noch mit keinem Engländer gesprochen hatte. 19. Wenn ein Kind ganz allein in seinem Bette schlafen muß, so fürchtet es sich und schreit nach seiner Mutter. 20. Warum fürchtet er sich vor Dieben und macht die Haustür noch vor Abend zu? — Weil er reich ist. 21. Ich erinnere mich seiner Worte noch; er hat sich ganz schön ausgedrückt.

【譯】 16. 先生達が (die Lehrer) 一人の生徒の勤勉を (den Fleiß eines Schülers) 褒める (loben) 時には (wenn) その時には (so) 彼は (er) 非常に (sehr) 驚く (freut sich) そして (und) 兩親も亦 (auch die Eltern) それを (es) 非常に喜んで (lebt gern) 見る (sehen). 17. 汝が (Du) 全然何物をも (an gar nichts) 想ひ出さ (Dir...erinnert) [なく] そして (und) 先生が (der Lehrer) 汝に (Dir) 云つた (gesagt hat) 所の、凡ゆることを (alles, was) 忘れる (vergibt) とすれば (wenn) それでは (so) 汝が (二つ目の Du) 全然 (二つ目の gar) 言ひ廻すことを (Dir ... auszudrücken) 知らない (nicht weißt) と云ふ (dass) 事は (es) 何等不思議な事 (ein Wunder) ではない (ist). 18. 僕は (ich) 僕が (二つ目の ich) まだ (noch) 一人の英國人とも (mit keinem Engländer) 話したことば [なか] つた (gesprochen hatte) にも拘らず (obgleich) 英語で (auf englisch) 言ひ廻すことを (mich auszudrücken) 敢てした (getraute mir). 19. 子供が (ein Kind) 獨りきりで (ganz allein) 自分の床の中で (in seinem Bette) 眠らねばならない (schlafen muß) 時には (wenn) その時には (so) 彼は (er) 恐れ (fürchtet sich) そして (und) 自分の母の方へ [=母を求めて] (nach seiner Mutter) 泣く

(föhret) 20. 何故に (warum) 彼は (er) 泥棒を (vor Dieben) 恐れ (fürchtet sich) そして (und) 玄関の扉を (die Haustür) まだ (noch) 晩の前に (vor Abend) 閉ぢるか (macht...zu)? — 彼は (er) 金持で (reich) ある (ist) から (weil) 21. 私は (ich) 彼の詞を (seiner Worte) まだ (noch) 想ひ出す (erinnere mich); 彼は (er) とても巧妙に (ganz schön) 言ひ廻した (hat sich ausgedrückt)

【註】 [1] 見掛けた様な「氣」がした、の意。

[2] schließen に就いては、既に、文法の方で、御承知のことと思ふが、之れは「眠り込む」で、schlafen だけならば「眠る」即ち、「眠つてゐる」で、動作と状態との差がある。

## 第十四課

### 關係代名詞

treiben	爲す	größer, a.	より大なる
fahren	行く (乗物で)	lächerlich machen	滑稽化する
Fahrzeug, n.	乗物	Ehre, f.	光榮
unter	[among]	bekannt, a.	著名の
Kirschbaum, m.	櫻樹	Schauspieler, m.	俳優
großmütig	寛仁に	fremd, a.	[strange, foreign]
verzeihen	恕す	Züge, pl.	顔相
unendlich	無限に	Blick, m.	一目

1. Der Knabe, der sich eben neben meinen Bruder gesetzt hat, ist der Sohn meines Lehrers. 2. Der Schüler, dessen Fleiß Sie schon kennen, ist auch von seinem Lehrer gelobt worden. 3. Mein Onkel, dem Du gestern auf der Straße begegnet bist, hat oft von Dir gesprochen. 4. Der General, den wir gestern auf der Station gesehen haben, muß jetzt nach Amerika. 5. Der Garten, in dem meine Kinder spielen, gehört jetzt meinem Nachbar.

【譯】1. 今 (eben) 私の兄弟の側へ (neben meinen Bruder) 腰かけた (sich gesetzt hat) 所の (der) 少年は (der Knabe) 私の先生の息子で (Der Sohn meines Lehrers) ある (ist) 2. その生徒の勤勉を (dessen Fleiß) 貴君が (Sie) 既に (schon) 識る (kennen) [所の]、生徒は (der Schüler) 彼の先生からも亦 (auch von seinem Lehrer) 優められた (ist ... gelobt worden) 3. 汝が (Du) 昨日 (gestern) 街道上で (auf der Straße) 出逢つた (begegnet bist) 所の (dem) 私の叔父は (mein Onkel) 屢々 (oft) 汝について (von Dir) 話した (hat gesprochen) 4. 我々が (wir) 昨日 (gestern) ステーションに於て (auf der Station) 見た (gesehen haben) 所の (den) 将軍は (der General) 今や (jetzt) アメリカへ (nach Amerika) 行かねばならぬ (muß)註<sup>1</sup> 5. その庭の中に (in dem) 私の子供達が (meine Kinder) 遊んでゐる (spielen) [所の]、庭は (der Garten) 今は (jetzt) 私の隣人に (meinem Nachbar) 属する (gehört)

6. Er hat seine Frau, mit der er sich vor einigen Jahren verheiratet hat, mit seinen Kindern nach England geschickt. 7. Er stand auf und verließ das Zimmer, in welchem sein alter Vater schlief. 8. Er suchte seine Taschenuhr und sah nicht auf seine eigene Hand, mit welcher er suchte und in welcher sie sich befand. 9. Der Diener, der ins Zimmer hereintrat, näherte sich dem Tische, an dem sein Herr arbeitete. 10. Ich erinnere mich nicht mehr an die Zeit, in welcher ich noch keine Eisenbahn gesehen hatte.

【譯】6. 彼は (er) [[彼が (二つ目の er)] は譯さぬ方がよい] 二三年前に (vor einigen Jahren) 結婚した (sich verheiratet hat) 所の (mit der) 彼の妻を (seine Frau) 彼の子供等と共に (mit seinen Kindern) 英國へ (nach England) 遣はした (hat...geschickt) 7. 彼は (er) 立ち上つた (stand auf) そして (und) 彼の老いたる父が (sein alter Vater) 眠つてゐた (schlief) [所の] (in welchen) 部屋を (das Zimmer) 去つた (verließ) 8. 彼は (er) 彼の懐中時計を (seine Taschenuhr) 探した (suchte) そして (und) それを以て (mit welcher) [[彼が (二つ目の er)] も譯さぬ方がよい] 探しつつあつた (二つ目の suchte) [所の] そ

して (und) その中に (in welcher) 彼女が (sie = Taschenuhr) 在つた (sich befand) [所の] 彼自身の手の上を (auf seine eigene Hand) 見なかつた (sah nicht) 9. 部屋の中へ (ins Zimmer) 入つて來た (hereintrat) 所の (der) 下僕は (der Diener) それに接して (an dem) 彼の主人が (sein Herr) 働いてゐた (arbeitete) [所の] その机に (dem Tische) 近寄つた (näherte sich) 10. 僕は (ich) その時に於て (in welcher) [二つ目の ich は譯さず] まだ (noch) 一つの鐵道をも見てゐなかつた (eine Eisenbahn gesehen hatte) [所の] その當時を (an die Zeit)註<sup>2</sup> 最早、想ひ出さない (erinnere mich nicht mehr)

11. Ich bitte Sie, das deutsch-japanische Wörterbuch, das Sie vor einigen Tagen aus meiner Bibliothek genommen haben, mir sofort zurückzugeben. 12. In diesem Büchlein finde ich viele Ausdrücke, deren Bedeutung ich mir nicht erklären kann. 13. Die Kinder können die Gesichter der Leute, von denen sie einmal etwas geschenkt bekamen, nie vergessen. 14. Gott sieht und weiß alles, was wir treiben. 15. Wie nennt man das Fahrzeug, womit man durch die Luft fährt?

【譯】11. 貴君が (二つ目の Sie) 二三日前に (vor einigen Tagen) 私の藏書の中から (aus meiner Bibliothek) 持つて行つてしまつた (genommen haben) 所の (das) 獨和の辭典を (das deutsch-japanische Wörterbuch) 私に (mir) 直ちに (sofort) 返すことを (zurückzugeben) 私は (ich) 貴君に (一つ目の Sie) 願ふ (bitte) 12. 此の小さな本の中に (in diesem Büchlein) 私は (ich) その [言ひ廻しの] 意味を (deren Bedeutung) [私が (二つ目の ich)] 自分に (mir) 説明出来ない (nicht erklären kann) [所の] 多くの言廻しを (viele Ausdrücke) 見出す (finde) 13. 子供達は (die Kinder) その人々から (von denen) 彼等が (sie = Kinder) 一度 (einmal) 何か或る物を (etwas) 贈つて貰つた (geschenkt bekommen)註<sup>4</sup> [所の] 人々の顔を (die Gesichter der Leute) 決して忘れることが出来ない (können...nie vergessen) 14. 神は (Gott) 我々が (wir) 爲す (treiben) [所の] 月のりることを (alles, was) 見、そして知る (sieht und weiß) 15. それを以て (womit) [人が (二つ目の man)] 空中を通じて (durch die Luft) 行く (fährt)

〔所の〕乗物を (das Fahrzeug) 人は (一つ目の man) 如何に (wie) 名づけるか  
(nennt)

16. Im Parke standen viele alte Bäume, worunter sich auch einige Kirschbäume befanden. 17. Wer seine Kinder liebt, der schickt sie in die Welt hinaus. 18. Wen Du lächerlich machst, der macht Dich auch wieder lächerlich. 19. Wem du großmütig verzeihst, dem zeigst du, daß du unendlich größer bist als er. 20. Die Frau, mit der zu sprechen ich heute die Ehre hatte, war eine bekannte Schauspielerin. 21. Der Gast, in dessen Zimmer hineinzugehen er sich nicht getraut hatte, war ein Schauspieler. 22. Das Gesicht, an dessen Büge ich mich beim ersten Blick zu erinnern glaubte, war doch ein fremdes.

【譯】 16. 公園の中には (im Parke) 多くの、古い樹が (viele alte Bäume) 立つてゐた (standen) その樹の中には (worunter)<sup>註5</sup> 二三の桜も亦 (auch einige Kirschbäume) 在つた (sich befanden) 17. 彼の子供等を (seine Kinder) 愛する (liebt) 所の (wer) その人は (der) 彼等を (sie) 世の中へ (in die Welt) 送り出す (schickt...hinaus) 18. 汝が (Du) 滑稽化する [=馬鹿にする] (lächerlich macht) 所の (wen) その人は (der) 亦汝をも (Dir auch) 再び [=…し返す] (wieder) 滑稽化する (macht...lächerlich) 19. その人を (wem)<sup>註6</sup> 汝が (du) 寛仁に (großmütig) 恕す (verzeihst) [所の] その人に (dem) [汝は (二つ目の du)] 汝が (三つ目の du) 彼 (er) より、無限に、より偉大で (unendlich größer ... als) ある (ist) ことを (示す) (zeigt) 20. その婦人と (mit der) 私が (ich) 今日 (heute) 話すべき光榮を (zu sprechen die Ehre) 持つた (hatte) [所の] 婦人は (die Frau) 一人の有名な女優で (eine bekannte Schauspielerin) あつた (war) 21. その客の部屋の中へ (in dessen<sup>註7</sup> Zimmer) 入り込むことを (hineinzugehen) 彼が (er) 敢てしなかつた (sich nicht getraut hatte) [所の] 客は (der Guest) 一人の俳優で (ein Schauspieler) あつた (war) 22. その顔相を (an dessen Büge) 私が (ich) 最初の一瞥に際して (beim ersten Blick) 想ひ出すと (mich zu erinnern)<sup>註7</sup> 信じた (glaubte) [所の] 顔は (das Gesicht) やつぱり (doch) 知らない顔で (ein fremdes)<sup>註8</sup> あつた (war)

【註】 (1) muß (= muß gehen [前出])

(2) an die Zeit: sich erinnern は、二格の補足語をとる場合と、an の前置詞をとる場合とある。

(3) das deutsch-japanische Wörterbuch: deutsch と japanisch の間をつなぐ印 (=) は Bindestrich と云つて、二語を結合して一語となす時の印である。

(4) geschenkt bekommen: geschenkt bekommen で、之れは一つの成句である。

(5) worunter で始まつてゐる關係文章は、形式上は前部の主文章に從属してゐるが、意味の上では對立してゐる。従つて斯の如き文章を譯す場合に、從屬的意味を有つ關係文章の際の如くに、關係文章より主文へと譯して行くと、妙な文になる。最初より順次に、並立的に譯し下ろさなければいけない。

(6) wem は、「その人を」と四格の様に譯してあるが、文法上は三格。即ち einem etwas [四格] verzeihen 「或人に或る事を想す」の使ひ方である。

(7) in dessen Zimmer: 此の場合 dessen を何とか語尾變化させるのではないか? と云ふ質問がよくある。それは、つまり in の前置詞が動詞の方向を示す場合で、普通は in das Zimmer とするからであるが、Gast の關係代名詞 der の二格なる dessen は、それ以上の語尾變化をしないで、dessen のまゝでよろしいのである。勿論 Zimmer は四格。

(8) mich zu erinnern に就いては、十三課、註(1) 参照。

(9) ein fremdes Gesicht.

## 第十五課

## 指 示 語

nicht nur...sondern auch	[not only...but also]		
Karikaturist, m.	漫畫家	lebhaft, a.	盛なる、活氣ある
allgemein, a.	一般的	gelehrt, a.	學識ある
Interesse, n.	興味、關心	befreundet, a.	親交を結ぶる
erweden	喚起する	trauen	信する
umgehen [分離]	交際する	recht haben	[to be right]
groß, a.	粗野の	ehrenwert, a.	尊敬すべき
ansehen [分離]	觀る	vor kurzem	暫く前に
Erscheinung, f.	現象	reden	話す
forschen	探究する	eben	つまり
Ursache, f.	原因	Gorge, f.	心配
Hauptwerk, n.	主著	Briefkasten, m.	郵便函
hineinstechen [分離]	入れる	Meerbusen, m.	灣
Licht, n.	光		

1. Die Züge des Schauspielers sind nicht nur den Japanern, sondern auch der ganzen Welt bekannt. 2. Die Züge, die nicht aller Welt bekannt sind, kann ein Karikaturist zwar lächerlich machen, aber nicht dadurch ein allgemeines Interesse erweden. 3. Nein, mit dem Nachbar kann ich unmöglich freundlich umgehen, er ist mir zu groß. 4. Ich warte auf den, der soeben ausging und nach einem Augenblick hierher zurückkommen muß. 5. Auf der Straße begegnete mir ein alter Bettler, dem gab ich alles, was ich bei mir hatte.

【譯】1. あの俳優の顔相は (die Züge des Schauspielers) 日本人に (den Japanern) のみならず亦 (nicht nur...sondern auch) 全世界にも (der ganzen Welt)

有名である (sind...bekannt) 2. 世間一般に (aller Welt) 有名でない (nicht bekannt sind) 所の (die) その顔相を (die Züge) 漫畫家は (ein Karikaturist) 成る程 (zwar)註<sup>1</sup> 滑稽化することは出来る (kann lächerlich machen) が併しながら (aber)註<sup>1</sup> それに依つて (dadurch) 一般的興味を (ein allgemeines Interesse) 嘘起することは出来ない (nicht...erweden)註<sup>2</sup> 3. 否 (nein) 私は (ich) こんな隣人とは (mit dem Nachbar) 親しく (freundlich) 交際する事は (umgehen) 出来ない (kann...unmöglich)註<sup>3</sup> 彼は (er) 私に (mir) 餘りに粗野で (zu groß) ある (ist) 4. 私は (ich) 唯今 (soeben) 外出して (ausging) そして (und) 一瞬間に後に (nach einem Augenblick) 此所へ (hierher) 戻つて来る筈である (zurückkommen muß) 所の (der) その者を (auf den) 待つてゐる (warte)註<sup>4</sup> 5. 街道で (auf der Straße) 一人の老いたる乞食が (ein alter Bettler) 私に (mir) 出逢つた (begegnete) その者に (dem)註<sup>5</sup> 私は (ich) 携合せてゐた (ich bei mir hatte)註<sup>6</sup> 所のすべてを (alles, was)註<sup>7</sup> 與へた (gab)

6. Die Philosophen sehen die Welt als eine Erscheinung an und forschen nach deren Ursache. 7. Er liebt Schopenhauer und dessen Hauptwerk: „Die Welt als Wille und Vorstellung.“ 8. Das Hauptwerk des Philosophen, den du wenig liebst, erwacht doch ein lebhaftes Interesse bei denen, die du für gelehrte Männer hältst. 9. Nach der Ursache seines plötzlichen Todes zu forschen, ist die Pflicht aller derjenigen, die irgend mit ihm befreundet waren. 10. Er traut nur demjenigen, mit dem er einmal befreundet war, aber nicht dem, den er fürzlich kennen gelernt hat; er hat wohl recht.

【譯】6. 哲學者等は (die Philosophen) 現世を (die Welt) 一つの現象 (eine Erscheinung) と (als) 觀る (sehen...an) そして (und) その原因を (nach deren Ursache)註<sup>8</sup> 探究する (forschen) 7. 彼は (er) ショウベンハウエル (Schopenhauer) と (und) その主著 (dessen Hauptwerk)註<sup>9</sup> 「意志と表象としての現世」を („die Welt als Wille und Vorstellung“) 愛する (liebt) 8. 汝が (du) 餘り愛さない (wenig liebst)註<sup>10</sup> 所の (den) その哲學者の主著は (das Hauptwerk des Philosophen) でも (doch) 汝が (二つ目の du) 學識ある人々 (gelehrte Männer) と見做す (für...hältst)註<sup>11</sup> 所の (die) 人々の許に於て (bei denen) 盛なる興味を

(ein lebhaftes Interesse) 唤起する (erweckt) 9. 彼の突然なる死の (seines plötzlichen Todes) 原因を (nach der Ursache) 探究することは (zu forschen)<sup>註12</sup> 荷くも (irgend) 彼と (mit ihm) 親しくあつた (befreundet waren) 所の (die) 全ての人々の義務で (die Pflicht aller Menschen) ある (ist) 10. 彼は (一つ目の er) その者と (mit dem) 自分が (二つ目の er)<sup>註13</sup> 尝て (einmal) 親しくあつた (befreundet war) [所の] 者にのみ (nur demjenigen) 信を置く (traut) が併しながら (aber) 彼が (三つ目の er)<sup>註13</sup> 最近 (kürzlich) 識合つた (kennen gelernt hat) 所の (den) 者に [信を置か] ない (nicht dem) 彼は (四つ目の er)<sup>註13</sup> 恐らくは (wohl) 正しい (hat recht)<sup>註14</sup>

11. Wir ehren nicht denjenigen, der von uns geehrt sein will,  
sondern nur denjenigen, der uns als ein ehrenswertes Mann bekannt  
ist. 12. Ich bin dem General, von dem du gesprochen hast, in  
der Stadt begegnet, da war er aber dieselbe Person, die ich vor  
kurzem bei meiner Schwester sah. 13. Er war in der Stadt; ich  
weiß nicht, wo er war; er war irgendwo, trank mit irgend einem,  
und kam irgendwann und irgendwie nach Hause. 14. Von ihm  
wird nichts Gutes geredet. Das eben ist die Sorge seiner alten  
Mutter. 15. Du siehst hier meine ganze Familie: das ist mein  
Vater, das ist meine Mutter, und dies ist mein Brüderchen.

【譯】 11. 我々は (wir) 我々から (von uns) 尊敬されんと欲する (geehrt sein will) 所の (der) 者を (denjenigen) 尊敬しなく (ehren nicht) て (sondern) 我々に (uns) 尊敬すべき人として (als ein ehrenswertes Mann) 知れてゐる (bekannt ist) 所の (二つ目の der) 者をのみ (nur denjenigen) 12. 僕は (ich) その人に就いて (von dem) 汝が (du) 話した (gesprochen hast) [所の] その將軍に (dem General) 市の中で (in der Stadt) 出遭つた (bin ... begegnet) すると (da) 彼は (er) 併し (aber) 僕が (二つ目の ich) 最近 (vor kurzem)<sup>註15</sup> 僕の姉妹の許で (bei meiner Schwester) 見た (sah) 所の (die) 同一の人で ( dieselbe Person) あつた (war) 13. 彼は (er) 市に (in der Stadt) わた (war); 僕は (ich) 彼が (二つ目の er) 何所に (wo) わた (war) [かを] 知らない (weiß nicht); 彼は (三つ目の er) 何所か或る所に (irgendwo) わて (war) 誰か或る人と共に (mit)

(irgend einem) 飲酒して (transl) そして (und) 何時だったか (irgend wann) そして (und) どう云ふ風にだったか (irgendwie) 家へ歸つて來た (kam nach Hause)

14. 彼に就いて (von ihm) 善い事は (nichts Gutes) 話され (wird...geredet)  
[ない] それが (das) つまり (eben) 彼の老いたる母の心配で (die Sorge seiner alten Mutter) ある (ist) 15. 汝は (du) 此所に (hier) 私の全部の家族を (meine ganze Familie) 見る (siehst): これは (das) 私の父で (mein Vater) ある (ist) これは (das) 私の母で (meine Mutter) ある (ist) そして (und) これは (dies) 私の弟で (mein Brüderchen) ある (ist)

16. Der Briefträger trat an das Häuschen, fand aber keinen Briefkasten, worein er immer Briefe hineingestellt hatte. 17. Die Tür tat sich auf und daraus kam eine kleine Magd heraus. 18. Er besitzt ein kleines Landhaus am Meerbusen und darin wohnt er mit seiner ganzen Familie. 19. Er ist mit dem Könige befreundet, darum traue ich ihm nicht. 20. Im Zimmer befindet sich ein alter Tisch, und darauf steht eine alte Lampe, bei deren Licht ich schon manche Nächte gearbeitet habe.

【譯】 16. 郵便配達夫は (der Briefträger) 小さな家へ向つて (an das Häuschen) 行つた (trat = treten) 併しながら (aber) その中へ (worein)註<sup>16</sup> 彼が (er) 常に (immer) 手紙を (Briefe) 入れてゐた (hineingestellt hatte)註<sup>17</sup> [所の] 郵便函を見出さなかつた (fand keinen Briefkasten) 17. 扉は (die Tür) 開いた (tat sich auf) そして (und) その中から (daraus) 一人の小さな下婢が (eine kleine Magd) 出て來た (kam heraus) 18. 彼は (er) 一つの小さな別荘を (ein kleines Landhaus) 潤に接して (am Meerbusen) 所有する (besitzt) そして (und) その中に (darin) 彼は (二つ目の er) 彼の全部の家族と共に (mit seiner ganzen Familie) 住む (wohnt) 19. 彼は (er) 王と (mit dem Könige) 親しく (befreundet) ある (ist) それ故に (darum) 僕は (ich) 彼を (ihm) 信じない (traue ... nicht) 20. 部屋の中に (im Zimmer) 一つの古い机が (ein alter Tisch) 在る (befindet sich) そして (und) その上に (darauf) 一つの古いランプが (eine alte Lampe) 立つてゐる (steht) その光で (bei deren Licht) 僕は (ich) 既に (schon) 夜も (manche Nächte) 働いた (gearbeitet habe)

【註】〔1〕 *zwar* は、*aber* と並立して用ゐられる接續詞である。

〔2〕 *ein Karikaturist kann nicht...erweden* であることは云ふ迄もないことである。

〔3〕 *unmöglich* は元來「不可能なる」といふ意味の形容詞なるも、此の場合打消の副詞 *nicht* の代理をなしてゐる。

〔4〕 *warten* は、「待つ」といふ意味の時は、自動詞で、其の対象物(四格)の前に *auf* の前置詞を置く、日本語では「誰々を待つ」と「を」であるから、四格の目的格を用ゐ度くなるが、此の時は、全然、意味を異にし、他動詞で「誰々を世話する」となる。

〔5〕 此の如き位置に置かれたる指示代名詞は、よく關係代名詞と間違へられる恐があるが、左様でない證據は、定動詞〔此の場合 *gab*〕が、*dem* の直ぐ次に位置し、關係文章としての配語法により *gab* が *alles* の次に來てゐない事で判る。*dem* は指示代名詞である。

〔6〕 *etwas bei mir haben* 「或物を持合せる」の熟字である。

〔7〕 *alles* に対する關係代名詞は、*dass*, *welches* を用ひるす、*was* を用ひることになつてゐる。

〔8〕 *deren* は、*Erscheinung* の指示代名詞 *die* の二格である。

〔9〕 *beffen* は、*Schopenhauer* の指示代名詞 *der* の二格なることは、意味の上からして、一點の疑問を挟む餘地もないが、此の如き場合 *beffen* は、補足語の名詞を代理し主語を代理する際には、*sein* の物主代名詞を用ひなければならぬ、といふ規則を記憶して置く必要がある。例へば、*Er besucht seinen Freund und dessen Bruder.* の文章に於ては、*dessen Bruder* は「友人の兄弟」で、*seinen Bruder* なれば、「彼の[即ち主語の]兄弟」となる。

〔10〕 *wenig* は、打消の意味を持ち、*ein wenig* 「少量の」は肯定的意味を持つ。

〔11〕 *häuft* の發音は、殆んど *häupt* の音になる。

〔12〕 「*zu+不定法*」は名詞となる。即ち此の文章には *nach der Ursache seines plötzlichen Todes zu forschen* の全體が名詞的になり、此の場合、主語の役目をなしてゐる。

〔13〕 之等の *er* は、普通は、殊に關係文章の際は、譯さない方がよい。譯すと混亂して文意が却つて判らなくなるから。

〔14〕 *recht* は元來 *haben* の補足語として、*dass Recht* 「理」なる四格の名詞であるが、副詞化して小文字で書いてある。

〔15〕 「*fürztem* は何ですか」と質問される方もありませう。之は元來、云ふ迄もなく名詞であるが、*vor fürztem* と一緒にして、*fürzlich* 「最近」と同義の副詞と覺えて頂き度い。

〔16〕 = *in welchen* [四格]

〔17〕 今迄手紙を入れるのが習慣であつた、の意。

## 童話「木製の乙女」

原 文 W. Schmidtbonn

改修譯註 關 口 存 男

これは原作を私が読み易く改修したものです。新たな單語を除く外は、凡て之れまでの文法の知識で讀める筈です。註の方もなるべく詳しく讀んで頂きたく思ひます。それは、註によつて文法の復習をし、同時に文法に洩れた事柄を補つて行くからです。

此際特に要求して置きたいのは音讀です。昔の寺小屋風な教へ方には或種の理があるので、語學は殊に大きな聲を出して讀まなければ上達しません。眼だけで紙の上をスケーティングやつてゐたのでは、それは結局生きた知識には成り得ません。机の上に置いて黙つて睨み詰めるにしては獨逸語なんてものは大して適當な對象ではありませんからね。日本人に一番多い群です。とにかく向ふ三軒兩隣が舉つて新聞に投書する程聲を揚げて讀みさへすれば語學は面白い程上達します。言語とは、讀んで字の如く、やはリ口を以て言ひ且つ語るもので、たとへ何語をやるにしても、その語を我が口を以て舌を以て喉を以て盛んに發音し續けるに非ざれば、それを母國語として現在喋舌つてゐる外人達のそれに平行するやうな「語感」といふ奴が吾人の言語中権の中に生じては來ないので、音讀せよ、而して音讀に快感を覚えよ、——これが語學上達の第一の秘訣です。

### Das Mädchen aus<sup>1</sup> Holz

Vier Männer<sup>2</sup> machten einmal zusammen eine Wanderung: ein Zimmermann, ein Goldschmied,<sup>3</sup> ein Schneider<sup>4</sup> und ein Mönch.<sup>5</sup> Eines Abends<sup>6</sup> übernachteten<sup>7</sup> sie in einem großen Wald, wo<sup>8</sup> sie von<sup>9</sup> Räubern<sup>10</sup> und wilden Tieren bedroht<sup>11</sup> waren.<sup>12</sup> Deshalb beschlossen sie, daß immer einer<sup>13</sup> von ihnen wach<sup>14</sup> bleiben<sup>15</sup> soll, während die drei andern schliefen.<sup>16</sup> Zuerst kam der Zimmermann an die Reihe.<sup>17</sup> Als er aber die andern<sup>18</sup> im tiefen Schlaf schnarchen hörte, wurde er sehr schlaftrig. Daraum<sup>19</sup> nahm<sup>20</sup> er sein Handwerkszeug<sup>21</sup> aus seinem Bündel, schlug einen jungen Baum ab,<sup>22</sup> säuberte<sup>23</sup> ihn von<sup>24</sup> den Ästen<sup>25</sup> und schnitt<sup>26</sup> daraus<sup>27</sup> die Gestalt eines Mädchens mit Gesicht, Händen und Füßen.

譯。四人の男が vier Männer 或時 einmal 一緒に zusammen 徒歩旅行を eine Wanderung した machte. 即ち (:) 一人の大工と ein Zimmermann 一人の金細工師と ein Goldschmied 一人の裁縫師と ein Schneider そして一人の僧とが und ein Mönch. ある晩 eines Abends 彼等は sie ある大きな森の中で in einem großen Wald 夜を明かしたが übernachteten 其處では wo 彼等は sie 盗賊や野獣に von Räubern und wilden Tieren 脅威を受けてゐたのであつた bedroht waren. それ故 deshalb 彼等は sie 他の三人が die drei andern 眠つてゐる schliefen [schlafen 眠る。の過去 schlief の複數] 間は während 絶えず immer 彼等の中の一人が einer von ihnen 眼を覺ましてゐるべきである wach bleiben soll と daß 決議した beschlossen [beschließen の過去 beschloß の複數] — 最初先づ zuerst 大工が der Zimmermann 順番に中つた kam an die Reihe. ところが aber 他の者達が die andern (四格) 深き眠りに落ちて im tiefen Schlaf 軒をかいてゐるのを schnarchen 聞くと als er hörte 彼は er 非常に眠たく sehr schlaftrig なつた wurde. だから darum 彼は er 自分の風呂敷包みの中から aus seinem Bündel 自分の商賣道具を sein Handwerkzeug 取り出し nahm, 一本の若樹を einen jungen Baum 切り取り schlug ab. その枝を掃除して säuberte ihn von den Ästen そして und 其物から daraus 顔も手も足もある一人の乙女の姿を die Gestalt eines Mädchens mit Gesicht, Händen und Füßen 彫り上げた schnitt. (schneiden 切る。の過去)

註。— 1. aus Holz または von Holz. 「……製」と云ふ時には von, aus を用ひる。— 2. かういふ時には Leute (人々) が使へない。Leute は英語の people で、その数が不定な時にのみ使ふ言葉である。— 3. Schmied=smith 「鍛冶屋」の事だが、Goldschmied, goldsmith となると金銀を打つて細工する職人のこと。— 4. Schneider は、布地を裁つて (schneiden, 裁る) 服を作るからさう云ふのである。— 5. Mönch (英 monk) は Monaco (名高い賭博の國) München (獨逸の都會、München ビールは名高い) 等の固有名詞と同語源で、教會僧ではなく、僧院に籠つて修道する僧の事を獨逸語では Mönch 伊太利語では monaco と謂ふのである。— 6. eines Abends (或る晩のこと) は熟語である。形容詞附きの名詞を二格にすると副詞句が出来上る。その他 eines Tages (或日) eines Morgens (或朝) 等がある。— 7. über die Nacht (over night) 「夜通し」から來た非分離動詞が übernachten (to stay over night) 「泊する」である。übernachteten はその過去の複數三人稱。— 8. wo は前の Wald を先行詞とする關係代名詞。(第二卷 172) — 9. 此の von については第二卷 116 — 10. 「奪ふ」(rauben 英 rob) から來た名詞。— 11. bedrohen (脅かす) の過去分

詞。過去分詞でありながら ge の附かない理由は?(第二卷 141 を見よ)。— 12. 受傷形ならば元來は bedroht wurden の筈である(第二卷 115)が、さうすると「脅威された」(一回きりの動作)の意になつて、「脅威されてゐた」(連續的狀態)の意にならない。— 13. ein といふ不定冠詞を「一つ」「一人」といふ名詞的な意味に用ひる時は、男ならば男性の語尾を附して einer と云ふ。— 14. wach は英語の awake に相當する形容詞で、「私は起きてゐる」ならば ich bin wach 又は ich bleibe wach である。— 14. bleiben は元來は「とどまる」の意であるが、その用法は獨逸語特有で、たとへば ich bin ein Kind に對して ich bleibe ein Kind と云へば「私は相變らず子供である」或は「私は子供であることを止めない」の意である。形容詞と共に用ひる場合も同様で ich bleibe wach と云へば、「他のものが眠つてしまつた後と雖も」と云ふ考を土臺に置いて、「私は依然として目ざめてゐる」といふ事になる。— 16. 日本語で云へば、眠つて「ゐる」間は、であるが、ドイツ語はもつと合理的で、眠つて「ゐる」のではなく、眠つて「ゐた」のであるから、過去形を用ひる。譯語は凡て日本語に因はれざるを得ないから、斯う云ふ點は特に注意して頂きたい。— 17. an die Reihe kommen (順番に中る) といふ熟語。die Reihe は「順番」。— 18. 此處で die andern は四格である。だから die andern schnarchen (他の者達「が」軒をかく) と結び附けて考へてはいけない。die andern hören (他の者達「を」聞く) 即ち詳しく述べれば die andern schnarchen hören (他の者達を、軒をかくのを、聞く) と分解して考へなければいけない。— 同様に、「私は彼が來るのを見る」と云ふ時には ich sehe ihn kommen (私は彼「を」來るのを見る) と云ふのがドイツ語の語法である。— 19. darum=deshalb. — 20. 「取る」の三要形は表を見よ。— 21. Handwerk は「手職」「商賣」。—zeug は Werkzeug と同じで「道具」。— 22. abschlagen と云ふ分離動詞。ab には「云々し取る」「云々し去る」の意がある。— 23. säubern (拭ふ、掃除する) は sauber (躋麗な、清潔な) から來た動詞。— 24. 此の前後の文は、原文通りに譯すると、「それを(樹を)枝から清めた」となる。日本語では、關係を反対にして、「樹から枝を拂ひのけた」と云はなければならない。これも獨逸語の語法だと思つて覺えるの外はない。— 25. 單數 der Tropf. — 26. 切る事を schneiden と云ふと同時に、截つて造り上げる、彫る、彫刻する事をも schneiden と云ふ。— 27. daraus は「それから」「その中から」「それを出立點にして」「それを臺にして」「それを材料にして」の意。(daraus の構造に關しては第二卷 186)。

Nach dem Zimmermann kam die Reihe zu wachen<sup>1</sup> an<sup>2</sup> den Goldschmied. Als auch dieser nach einer Weile<sup>3</sup> schlaftrig wurde, fielen seine Augen auf<sup>4</sup> das hölzerne<sup>5</sup> Mädchen, das der Zimmermann gemacht hatte.<sup>6</sup> Er staunte über<sup>7</sup> die Kunst seines Kame-

raden,<sup>8</sup> wollte nicht hinter ihm zurückbleiben,<sup>9</sup> verfertigte<sup>10</sup> schöne Ohringe,<sup>11</sup> Armbänder<sup>12</sup> und Ketten,<sup>13</sup> und umhängte<sup>14</sup> sie<sup>15</sup> der hölzernen Figur.<sup>16</sup> Der Schneider, der als<sup>17</sup> der dritte<sup>18</sup> an die Reihe zu wachen kam, geriet<sup>19</sup> sofort außer sich<sup>20</sup> vor<sup>21</sup> Bewunderung<sup>22</sup> und begann,<sup>23</sup> die Figur vom<sup>24</sup> Kopf bis zu<sup>25</sup> den Füßen zu bekleiden.<sup>26</sup> Da<sup>27</sup> sah<sup>28</sup> die hölzerne Figur ganz wie ein wirkliches, lebendiges<sup>29</sup> Mädchen aus. Endlich war<sup>30</sup> die Zeit des Schneiders um<sup>31</sup> und er weckte<sup>32</sup> den Mönch.

譯。大工の後に nach dem Zimmermann 夜番をする順が die Reihe zu wachen 金細工師に廻つて來た kam an den Goldschmied. 此の男も亦 auch dieser 暫くの後 nach einer Weile 眠くなつた schlaftrig wurde 時に als 彼の眼は seine Augen 大工の造つて置いた das der Zimmermann gemacht hatte 木製の乙女の上に auf das hölzerne Mädchen 落ちた fielen [fallen の過去、複數三人稱)。彼は er 彼の仲間の技術について über die Kunst seines Kameraden 驚嘆した erstaunte 彼に一籌を輸さうとは hinter ihm zurückbleiben 欲しなかつた wollte nicht, 美しき耳輪、腕輪、及び鎖を細工した verfertigte schöne Ohringe, Armbänder und Ketten, そして und それ等を sie 木製の人形に der hölzernen Figur 懸け縛はせた umhängte. 第三人目として als der dritte 順番に中つた an die Reihe kam ところの der 裁縫師は der Schneider 早速 sofort 驚嘆のあまり vor Bewunderung 我を忘れてしまつた geriet außer sich そして und 頭から脚まで vom Kopf bis zu den Füßen 人形に衣裳をつけ始めた begann, die Figur zu bekleiden. すると Da 木製の人形は die hölzerne Figur すつかり ganz 本當の、生きた娘の様に wie ein wirkliches, lebendiges Mädchen 見えた sah aus. 遂に endlich 裁縫師の時間は die Zeit des Schneiders 過ぎた war um.

註。—1. wachen (英 to watch)=wach bleiben.—2 「順番が廻つて來る」といふのに音ひ方が二通りある譯である。人間を主語にして云ふと er kam an die Reihe 「順番」を主語にすると die Reihe kam an ihn.—an といふ前置詞の使ひ方は、一般的に説明するのは仲々困難だが、まづ荒っぽく云へば「何々の側へ」である。「へ」と云ふ際(即ち方向を指す際)は次に来る名詞を四格に置き、「で」「に」の際(即ち一點に静止し終始する事を表す際)には次に来る名詞を三格に置く。これは in, auf, neben, hinter 等、空間關係を意味する大部分の前置詞に共通な現象である。—3. die

Weile (英 the while) は「暇」または「少時」。—4. auf の次に来る名詞が四格になつてゐるもの、註の 2 で説明したのと同じ理由に據る。—5. hölzern は holz (英 wood)「木材」から來た形容詞。同様な例は多い。Stein 石 steinern 石製の—Eis Eis 鋼鐵 stählern 鋼鐵製の—Glas 硝子 gläsern 硝子製の—少し關係の違つたのでは Silber 銀 silbern 銀製の Papier 紙 papiern 紙製の Leder 革 ledern 革製の—また、單に en の語尾を探るのもある。Gold 黄金 golden 黄金の Metall 金属 metall 金属製の Erde 土 erden 土製の。—6. hatte (英 had) でわかる通り machen の過去完了が用ひてある。その譯は第二卷 110 に詳しく述べた。—7. über は英語の over, above に相當する前置詞であるが、その次に四格名詞が置かれる時に限つて about 即ち「何々に就て」と云ふ意味になる事がある。—8. Kamerad (同輩、仲間) は所謂「弱變化の男性名詞」(第一卷 69)だから、二格が seines Kamerades とはならない。—9. hinter ihm zurückbleiben (彼に一籌を輸す、彼に負ける) は熟語で、文字通りに云へば「彼の背後に遅れとどまる」である。—10. verfertigen (調製する、仕上げる) は fertig (完成したる) といふ形容詞から來た動詞である。たとへば「着物が出来上がつた」は das Kleid ist fertig である。—11. Ohr, n. 耳 Ring, m. 輪。—12. Arm, m. 腕 Band, n. ベンド。—13. Kette, f. 鎖、の複數。—14. hängen は「懸ける」 umhängen [非分離] は「懸け廻す」即ち其處ら中に引つ懸け廻す事。—15. sie (彼等) とは、耳輪その他を指す。—16. die Figur (似姿、像)=die Gestalt (姿) das Bild (像) das Bildnis (像、肖像)。—17. als は前置的に名詞と共に用ひると「何々として」「何々たる資格に於て」の意になる。接續詞の als (.....した時) と間違へてはいけない。また第三卷で説明する als (英語の than) も別物である。als にはほほ此の三つの場合がある。—18. dritt (英 third) を名詞的に用ひると、男性ならば der dritte, 女性ならば die dritte と云つた様に、すべて形容詞と同じ語尾を探る。—19. geriet は geraten, geriet, geraten (.....に陥入る) 不定法の時に既に ger- が附いてゐるのに注意。—20. außer sich geraten (我を忘れる、有頂天になる) は熟語で、文字通りに譯すれば「己れの外に陥入る」。—21. vor は元來は「.....の前」といふ前置詞であるが、抽象名詞と共に用ひると、「.....のあまり」の意になる。たとへば vor Freude 悅びの餘りに vor Furcht 恐怖の餘り vor Langeweile 退屈の餘り vor Schmerz 苦しさの餘り、苦しまぎれに vor Lust 嬉しまぎれに。こんなのは凡て熟語として口頭で慣らして覚える事が必要である。—22. bewundern (.....を驚嘆する) は über etwas staunen (或物について驚く) 同じで、それから來た aung に終る名詞が女性である事は第一卷 46 で承知の通り。—23. beginnen, begann, begonnen=anfangen, fing an, angefangen。—24. vom=von dem。—25. bis (英 till) は、極く簡単な成句を除く外は、大抵もう一つ前置詞をつけて名詞と結び附く。たとへば bis zum nächsten Tage (till the next day) bis auf den Grund (to the bottom 底までも)—極く簡単な成句といふのは bis morgen 明日まで von Paris bis Berlin 巴里から柏林まで、等。

— 25. *bekleiden* (衣裳附ける、着附けをする) は對象を四格にする。 jemanden bekleiden (或人を衣裳づける) といふ使ひ方である。— 27. *da* は「其處」(英 there) といふ意味の他に、「すると」「さうすると」といふ時間關係の副詞になる事がある。日本語の「其處で」も矢張りその兩意に用ひられる。— 28. *sah* だけで意味をなしてゐるのではない。*sah.....aus* (見えた) といふ分離動詞である。不定法は *aussehen* (英 to seem, to look) — 29. *lebendig* はアクセントの上からは獨逸語の中に於ける只一個の例外字である。即ち *leben* [レーベン] から轉來した形容詞だから [レーベンディヒ] と發音するのが本當であるのに [レベンディヒ] と云ふ。こんな例は他には無い。— 30. *endlich* といふ副詞が「先置」されたが爲めに、その次には「倒置」(第一卷 74) が行はれてゐる。— 31. *um sein* (一廻り廻る、一廻する、終結する、年期が「あく」、満了する) といふ熟語。(um はほほ英語の about, around である) 斯ういふ熟語の用ひ方も分離動詞と同じで、*um* は分離前綴としてその位置を決めるのである。— 32. *weden* は「起こす」「目をさまさせる」で *wachen* に對する他動詞である。

Der Mönch schlug die Augen auf,<sup>1</sup> sah das schöne Bildnis an,<sup>2</sup> wurde ganz rot und eine Zeit lang<sup>3</sup> konnte<sup>4</sup> er nicht aufstehen. Endlich stand er doch<sup>5</sup> auf, trat hinzu,<sup>6</sup> warf<sup>7</sup> sich dem<sup>8</sup> Mädchen zu Füßen und begann laut zu beten: „O du ewiger Gott, beschäme<sup>9</sup> mich nicht vor meinen Kameraden! Sei<sup>10</sup> mir doch<sup>11</sup> gnädig<sup>12</sup> und laß<sup>13</sup> einmal ein großes Wunder geschehen!<sup>14</sup> Gib<sup>15</sup> diesem Gesicht Farbe, diesen Händen Wärme, bewege<sup>16</sup> diese Füße, löse<sup>17</sup> diese Zunge, gib diesem Leib<sup>18</sup> eine Seele!<sup>19</sup>“ Da<sup>20</sup> er ein Jungling reinen<sup>21</sup> Herzens<sup>22</sup> war, wurde seine Bitte auf der Stelle<sup>23</sup> erhört. Sofort belebte sich<sup>24</sup> die Figur, die Gewänder<sup>25</sup> rauschten, Gesicht und Hände färbten sich<sup>26</sup> und das Haar wuchs.<sup>27</sup> Die Gestalt fing an umherzuwandeln,<sup>28</sup> wenn auch<sup>29</sup> im Anfang noch ein wenig<sup>30</sup> taumelnd.<sup>31</sup> Aus dem Mund kamen Worte,<sup>32</sup> erst wie zum<sup>33</sup> Versuch, dann aber die schönen, lieblichen Gedanken,<sup>34</sup> wie sie<sup>35</sup> die jungen Mädchen zu haben pflegen.<sup>36</sup>

譯。僧は der Mönch 眼を die Augen 開けた schlug auf, 美しい像を das schöne Bildnis 覚めた sah an, 真赤に ganz rot なつた wurde そして und

しばらくの間は eine Zeit lang 起ち上ることが aufstehen 出来なかつた konnte er nicht.しかし〔流石に〕 doch 遂には endlich 起ち上つて stand er auf 歩み寄り trat hinzu 娘の足下に dem Mädchen zu Füßen 身を投げ伏して warf sich そして und 大きな聲で laut 祈り始めた begann zu beten: 「おゝ、汝永遠なる神よ „O du ewiger Gott わが同輩等の前に vor meinen Kameraden 我を恥しめ給ふ勿れ beschäme mich nicht, 真くば doch 我に慈悲深くあり給へ sei mir gnädig 而して und 一度 einmal 一つの大なる奇蹟を ein großes Wunder 起らしめ給へ laß geschehen! 此の顔に diesem Gesicht 色を與へ給へ gib Farbe, 此の〔兩〕手に diesen Händen 溫熱を〔與へ給へ〕 Wärme 此等の足を diese Füße 動かし給へ bewege, 此の舌を解き給へ löse diese Zunge, 此の體に diesem Leibe 一つの魂を授け給へ」 gib eine Seele!“ 彼は er 淨き心を持つた青年 ein Jungling reinen Herzens であつた war ので da 彼の願ひは seine Bitte 立ち所に auf der Stelle 聽届けられた wurde erhört すぐさま sofort 像は die Figur 活氣づいた belebte sich 衣は die Gewänder ざわめいた rauschten 顔と手は Gesicht und Hände 色づいた färbten sich そして und 髪の毛は das Haar 生えた wuchs. 似姿は die Gestalt あちこちとぶらつき始めた fing an umherzuwandern 勿論(たとへ) wenn auch 初めの中は im Anfang まだ noch 少々 ein wenig よろめきつつ taumelnd. [ではあつたにしろ]。口からは aus dem Mund 言葉が洩れて來た kamen Worte 先づ最初は erst あたかも試験的の如くに wie zum Versuch, しかし其の次には dann aber 若い娘達が die jungen Mädchen 持つのを常とする zu haben pflegen やうな wie sie [左様な] 美しい可愛らしい考へが die schönen, lieblichen Gedanken [口から洩れて來た] [kamen aus dem Mund.]

註。— 1. *aufschlagen* (開ける) の過去。— 2. *ansehen* は分離動詞。— 3. eine Zeit lang (暫時) は熟語。 eine Zeitlang とも書く。— 4. können の過去。— 5. doch =矢張り、さすがに、それにも拘らず、とは云へ、それでも。— 6. hinzutreten (歩み寄る) の過去。 treten (踏む、歩む、英語の to tread) の三要形は treten, trat, getreten。— 7. werfen (投げる) の過去。此處では sich werfen (身を投げる) といふ再帰動詞。— 8. 日本語から考へると zu den Füßen des Mädchens (娘の足下に) と云ひさうな譯だが、ドイツ語では dem Mädchen zu Füßen (娘に足下に) といふ。つまり兩方とも同じである。— 9. beschämen (恥かしめる) の命令形。命令形は、一般的規則としては *se* の語尾を取る事になつてゐるが、geben (ich gebe, du gibst, er gibt) の型で人稱變化する動詞(第二卷 119) に限つて *se* を附げず、且つ幹母音が *i* になる。 gib! (與へよ)。

—10. *sein* (to be) の命令形(英語の *be!*)——これは前項に述べた命令法に関する通則の例外である。—11. 命令文にはよく *doch* (どうか、どうぞ)を入れる。第5項で説明した *doch* とは別物である。—12. 英語の *grace* は *die Gnade*, *gracious* は *gnädig*。—13. *lassen* の命令形 *lässe* の *e* を省いた省略形。この方を多く用ひる。—14. *geschehen* は英語の *to happen*, (生ずる、出来する、起る、行はれる)。—15. *geben* の命令形。—16. *bewegen* (動かす) の命令形。—17. *lösen* (解く) の命令形。—18. *der Leib*=*der Körper*。—19. *die Seele* 魂(英 *soul*)=*der Geist* 精神(英 *spirit*)。—20. 接續詞としての *da* は、略 *weil* と同意。(……であるが故に)。—21. 二格の *-en* といふ語尾に関しては文法第一巻の 98 参照。—22. *das Herz* (英 *heart*) の格變化は變則で、*das Herz*, *des Herzens*, *dem Herz* 又は *dem Herzen*, *das Herz*。—23. *reinen Herzens* (清き心の) が「清き心を持つた」といふ意味になる。第一巻 読本の部 55 頁註 7. に説明したのもこれと似た語法である。—23. *auf der Stelle* (立ち所に) は熟語。—24. *sich beleben* (活氣づく) は四格の再歸代名詞を伴ふ再歸動詞。*Leben* (命) から來てゐる。—25. 單數は *das Gewand*。即ち *das Kleid* (着物) に対する詩語。—26. *siel fürden* (色が差す、彩られる) も再歸動詞。—27. *waſſen*, *wuchſen*, *gewuchſen* (生える) 中 [クス] の發音に注意すべし。(第一巻 24-26 項)。—28. *wandeln* は漫歩すること、*wandern* (てくてく歩く) とは少し違ふ。—*umher* は「あちこち……し廻る」と云ふ意の前綴(英 *about*)。—29. *wenn* だけならば「若しも」、*wenn auch* は「たとへ……にしろ」(英 *though*)。—30. *ein wenig*=*a little*, *somewhat*。—31. *taumeln* (よろめく) の現在分詞が *taumelnd* (よろめきつつ) *and*, *zend* は英語の *-ing* に相當する。—32. *Wort*, *n.* (言葉) には複數形が二つある。*die Wörter* は「單語」(即ち意味の關聯せざる數個の言葉) で *die Worte* は「詞」即ち一聯の文句である。—33. *zu* は「……の爲め」—*zum Versuch* は「試みの爲め」。—34. *der Gedanke* 又は *der Gedanken* (考へ、思想) 二格以下はすべて *-en* の方で變化する。即ち *des Gedankens*, *dem Gedanken*, *den Gedanken*。複數は四格とも *Gedanken*。—35. *sie* は「それらを」(*Gedanken* を受ける代名詞) —*wie* と *sie* と二つで結びついて一種の關係代名詞を形成する。(詳細は第二巻 171 に就て見よ)。—36. 「云々するのを例とする、常とする、習慣とする」は *zu.....pflegen* である。此の *zu* に就てはいづれ第四巻で説明する事になつてゐる。

Als die Sonne aufging, wachten die drei Schläfer auf. Sofort sahen sie, wie<sup>1</sup> schön die Gestalt war. Jeder von ihnen verliebte sich in<sup>2</sup> das hölzerne Mädelchen, jeder von ihnen wollte es zum Weibe haben, und so gerieten<sup>3</sup> sie zuletzt<sup>4</sup> in Streit.<sup>5</sup> „Ich habe

*es zuerst gemacht,*“ sagte der Zimmermann, „also ist es mein Eigentum.<sup>6</sup>“ „Ich habe ihm das Teuerste<sup>7</sup> gegeben,” sagte der Goldschmied, „also gehört es mir.“ „Sie ist mein,<sup>8</sup>“ rief<sup>9</sup> der Schneider dazwischen,<sup>10</sup> „denn<sup>11</sup> erst<sup>12</sup> die Kleider machen ein Weib schön.“ Der Mönch aber gebot<sup>13</sup> ihnen Stillschweigen<sup>14</sup> und sprach: „Was bedeutet das alles,<sup>15</sup> was<sup>16</sup> ihr dem Mädchen gegeben habt, ohne dasjenige,<sup>18</sup> was mein Werk<sup>17</sup> ist? Ein Stück<sup>18</sup> Holz und weiter<sup>19</sup> gar nichts. Mein Recht ist unbestreitbar,<sup>20</sup> denn ich habe ihr die Seele gegeben.“

譯。太陽が昇ると als die Sonne aufging, 三人の眠り手たちは die drei Schläfer 目覺めた wachten auf. 彼等は sie 直ちに sofort 如何に wie 其の似姿が die Gestalt 美しくある[かを] schön war 見た sahen. 彼等の各々が jeder von ihnen その木製の乙女に in das hölzerne Mädelchen 愛れ verliebte sich 彼等の各々が jeder von ihnen それを es 妻君に zum Weibe 持たうとした wollte haben, さう云ふ風にして und so 彼等は sie 結局 zuletzt 喧嘩を始めた gerieten in Streit. 「俺がそれを最初に造つたのだ」 „ich habe es zuerst gemacht“ と大工は云つた sagte der Zimmermann 「だからそれは俺の財産だ」 also ist es mein Eigentum. 「私はそれに最も貴重なるものを與へた」 „ich habe ihm das Teuerste gegeben“ と金細工師は云つた sagte der Goldschmied 「だからそれは我輩に屬する」 „also gehört es mir.“ 「彼女は俺のものだ」 „sie ist mein“ と裁縫師はその間に挿んでどなつた rief der Schneider dazwischen 「何故ならば denn 着物にして始めて erst die Kleider 一人の女を ein Weib 美しくする」 [事が出来るのだから] machen schön. ところが僧は der Mönch aber 彼等に ihnen 沈黙を Stillschweigen 命じ gebot そして und 云つた sprach: 「愚僧の業なる was mein Werk ist ところの物 dasjenige なくては ohne 卿等が乙女に與へたるところの was ihr dem Mädchen gegeben habt それら凡ての物は das alles 将た何事を意味するや was bedeutet? (それは單なる) 一片の木材[なり] ein Stück Holz 而して und それ以上 weiter 何物にも非ず gar nichts. 愚僧の權利は争ふ可からざるものちや mein Recht ist unbestreitbar, 何故と申すに denn 愚僧は ied 彼女に ihr 魂を die Seele 與へたぞ habe gegeben. 。

註。—1. wie は此處では疑問詞で、(英 how) それを接續副的に用ひたのである、「……の如く」(英 as) と云ふ wie とは別物である。—2. sich verlieben (惚れる) は in を伴ふ。即ち sich in jemanden (四格) verlieben と云ふ使ひ方である。—3. gerieten (陥る) は既に一度出た字。—4. zulegt=endlich, am Ende, schließlich。—5. in Streit geraten (争ひに陥る、即ち争ひ始める) は熟語。—6. eigen (英 own) 「己れ自身の」といふ形容詞から來た名詞、つまり英語の possession. -tum と云ふ語尾は英語の -dom と云ふ語尾にあたる。—7. teuer (英 dear) 「高價な」に準の語尾を附けると teuerst 「最も高價な」即ち所謂最高級と云ふ形が出来る。これは英語と同様である。この teuerst から中性名詞 das Teuerste (最も高價なもの) を造ることは第二巻 188 で述べた通りである。—8. mein は英語の mine と同じ使ひ方をする。—9. rufen (呼ぶ) の過去。呼ぶと云ふのは、つまり「呼ばはる」大きな聲を出して言ふこと。—10. dazwischen は「其の間に」、即ち他人の言葉の間を縫ふやうにして、他人が喋舌つてゐる真最中に、の意。—11. denn は「何故と云ふに」と譯するのが適當である。weil のやうに「であるために」と、後の方から先に譯して後で附けるのとは多少趣を異にしてゐる。—12. erst は既では前置的なものであるから、erst die Kleider (着物が始めて) と、名詞と合體して考へないといけない。(第四巻に於て述べる皆の所謂前置的接續詞なるものに属する)。—13. gebieten, gebot, geboten (命ずる)。—14. Stillschweigen は stillschweigen (沈黙する) といふ分離動詞を不定法の體名詞化したもので、こんなのは必ず中性である。(第一巻 47 の 2)。—15. alles, was に就ては第二巻 166。—16. dasjenige に就ては第二巻 178。—Werl, n. (英 work) は、業績、作品、作の事であつて Arbeit (働き) とは違ふ。けれども日本語でも「仕事」といふ言葉を作られた物品と働きといふ動作との兩方に用ひるやうに、Werl も Arbeit も其の兩方の意味に用ひる。—18. Stück (英 piece) 英語では a piece of wood だが、獨逸語では of に相當するものを入れないで、單に並べて ein Stück Holz といふ。ein Glas Bier (一杯のビール) ein Pfund Zucker (一ポンドの砂糖) 等。—19. weiter (英 further) は、「それ以上」「それ以上進んで」「それ以外に」の意。たとへば ich lese weiter (私は読み續ける) に現れた前綴 weiter と同じ事。—20. unbestreitbar の un- は英語の否定前綴 un- と同意。bestreiten が「争つて疑問にする」「物云ひを附ける」「けちを附ける」と云ふ動詞。-bar といふ語尾は英語の -ible, -able 等に相當し、「……し得べき」を意味する。unbestreitbar はつまり英語の indisputable と同じ構造である。(in- は un- と同じ意、ただ拉丁系統の前綴だといふだけの相違)。

Ein Derwisch<sup>1</sup> kam vorbei,<sup>2</sup> ein frommer<sup>3</sup> ganz abgemagerter<sup>4</sup> Mann im Fußgewand.<sup>5</sup> Sie machten ihn zum Richter über<sup>6</sup> sich. Als er aber das Mädchen erblickte,<sup>7</sup> rief er wahnsinnig aus<sup>8</sup>: „Sie

gehört keinem von euch, sondern<sup>9</sup> mir! Das ist ja<sup>10</sup> meine Frau! Alles, was sie an sich<sup>11</sup> trägt,<sup>12</sup> ist von<sup>13</sup> mir. Wir hatten uns<sup>14</sup> ein wenig gezaunt, darum lief sie von mir fort.<sup>15</sup> Ich suchte sie überall, um mich<sup>16</sup> mit ihr zu versöhnen. Hier habe<sup>17</sup> ich sie endlich!<sup>18</sup>

So miteinander<sup>19</sup> zankend<sup>20</sup> kamen die fünf mit dem Mädchen in eine Stadt. Sofort begaben<sup>21</sup> sie sich zu dem Polizeihauptmann.<sup>22</sup> „Ihr lügt<sup>23</sup>!“ schrie<sup>24</sup> dieser<sup>25</sup> fast außer sich<sup>26</sup> vor<sup>27</sup> Liebe, „was ihr da<sup>28</sup> sagt, ist alles eine freche<sup>29</sup> Lüge<sup>29</sup>! das ist ja<sup>30</sup> die Frau meines Bruders! Räuber<sup>31</sup> haben ihn umgebracht<sup>32</sup> und die Frau entführt<sup>33</sup>! Gott sei Dank,<sup>34</sup> da ist sie<sup>35</sup>! Ihr seid alle<sup>36</sup> Räuber, ich verhaftete euch alle!<sup>37</sup>

譯。一人の回々教の行者が ein Derwisch 通りすがつた kam vorbei, [それは]懺悔衣を着た im Fußgewand 敬虔な、すつかり瘠せこけた男[であつた] ein frommer, gar abgemagerter Mann. 彼等は sie その男を ihn 自分達を裁く審判者に zum Richter über sie した machten. ところが aber 彼が娘を見るといふと als er das Mädchen erblickte 彼は氣を狂はして叫んだ rief er wahnsinnig aus: 「彼女はお前達の中の誰にも屬しない „sie gehört keinem von euch 僕に[属するのだ] sondern mir! これは僕の妻ではないか! das ist ja meine Frau! 彼女が身に附けて持つてゐるものは凡て alles, was sie an sich trägt 僕から[受けた] ものだ。ist von mir. 僕達は一寸ばかり喧嘩をしたのだ wir hatten uns ein wenig gezaunt,だから darum 彼女は僕の所を逃げ出したのだ lief sie von mir fort. 僕は ich 彼女と仲直りをするために um mich mit ihr zu versöhnen 彼女を方々探してゐたのだよ suchte sie überall.さては到頭こんな所で取つ捕まへた』 Hier habe ich sie endlich!

さう云ふ風に so お互ひに miteinander 喧嘩しながら zankend 五人の者は die fünf 娘と共に mit dem Mädchen 或る町へやつて來た kamen in eine Stadt. 直ぐ様 sofort 彼等は sie 警察署長の所へ zu dem Polizeihauptmann 赴いた begaben sich. 「お前たちは嘘をつくのだな „ihr lügt!“ [と]後者は dieser 愛慾に[眼が昏んで] vor Liebe 猶んど我を忘れて fast außer sich 叫んだ schrie, 「お前達が其處に申し述べる事は „was ihr da sagt, すべて怪しからぬ嘘だ ist alles eine freche Lüge! これは本官の兄弟の妻君ではないか! das

ist ja die Frau meines Bruders! 盗賊共が彼を殺して Räuber haben ihn umgebracht そして und 妻を連れ去つたのだ die Frau entführt! お蔭様で Gott sei Dank, 其處に彼女はある〔女は見附かつた, 此の通り眼前にある。の意〕 da ist sie! 貴様等はみんな追剝だ Ihr seid alle Räuber 俺は貴様等すべて召し捕へるぞ! ich verhafte euch alle!“

註。—1. 回々数、即ちマホメット教の托鉢僧、苦行者、乞食坊主である。(つまり最も婆娑氣のないものまでが煩惱を起す所を表さうとしてこんなものを持ち出した譯である)。—2. vorbeikommen (通りすぎる、側を通過する)。—3. fromm (英 devout, pious)=gläubig 信心深き。—4. mager (英 meagre)「瘠せた」と同じ。—5. Buße, f. は懺悔。懺悔衣は普通馬の皮の毛で出来てゐて、毛の端がみんな中の方に向いてゐて、ちくりちくりと膚を刺す様になつてゐるのださうである。—6. 「支配する」といふ概念のある所には必ず über といふ前置詞が用ひられる。zum Richter über sich は、つまり自分達凡てを支配すべき、即ち自分達の上に立つて生殺與奪の権を握る裁判官に、の意。—7. sehen 見る ansehen 跳める、顔を見る erblicken 一瞥する、瞥見する schauen 観る、——は各々少しづつ違ふ。—8. aufrufen は英語の exclaim で、aus- は ex- に當る。單に rufen といふのよりは強くなる。—9. sondern (英 but) は普通は日本語に譯しない方がよろしい。強ひて譯語を當ててはめるとすれば「さうでなくつて」「むしろ」等と云はなければならぬが、それも何だか變である。第二卷讀本部の第八課 A の註 9 を見よ。—10. 文章の中に這入つた ja は、英語の yes ではなく、むしろ單なる助詞である。それは文全體の語勢を強め、同時に「敢て言ふにも及ばない事だが」と云つたやうな、わかり切つた事實を述べる時に用ひられる。だから「……ではないか!」と譯すれば略その意が表れる。—11. an sich は「身に附けて」—an sich tragen (身に附けてゐる、携へてゐる) は熟語。—12. tragen が Umlaut (變音) の印を探る所に注意。(第二卷 119)。—13. 此の場合の von は英語の from に相當し、「由來」「發するところ」「出場所」「出發點」を指す。—14. sich zanken 嘘喰する。—15. fortlaufen 駆け走る、即ち遁げ出す、出奔する。—16. sich versöhnen (和解する) は必ず mit jemandem (誰々と) を伴ふ。—17. haben といふ簡単な何でもない字の使ひ方に注意を要する。「捕へる、見つけ出す、手に入れる、到達する」ことを haben で言ひ表はすのが西洋語一般の習慣である。古くは拉丁語に於ても habere (持つ) の語幹 hab- と capere (捕へる) の語幹 cap- とはお互ひに歴史的関係があるのである。(c と h とが相通ずる事は次の例を見てもわかる)。

拉丁語	獨逸語	英語
caput	Kopf, Haupt	head, (cap.)
cord-	Herz	heart

canis	hund	hound	犬
centum	hundert	hundred	百
cornu	horn	horn	角
a-cerbus	herb	harsh	辛酸なる

それから p と b とは、清音か濁音かの差で、結局同じものである。以上は一寸した語源的考察であるが、要するに歐洲語に共通な或種の現象には矢張歴史的根據があると云ふ事を證明したまでである。別に拉丁語とまで遡らなくても、ドイツ語の中でも hast (捕縛) verhaften [捕縛する] 等の中には haben の幹が這入つてゐる。—ich habe dich! (やい、つかまへたぞ) といへば、つまり ich habe dich in meiner Hand! といふに等しいのである。—18. miteinander の構造に就ては第二卷 157。—19. zanken の現在分詞。—20. sich begeben (赴く)。—21. Polizei が「警察」 Hauptmann が「長」。—22. lügen, log, gelogen (嘘を吐く)。—23. jöhren, schrie, geschrien (叫ぶ)。24. dieser を「後者」(英 the latter) の意に用ひる事は第二卷 180 で述べた。—25. außer sich は既に außer sich geraten (我を忘れる) が出た時に述べた。—26. vor は前に一度述べた「……のあきり」である。—27. 此の da は、文字通りに譯して、其方共が『其處』に申す所の事柄は、と云へば大抵わかる。つまり、必ずしも『其處』といふ場所を指すのではなくて、單に具體性を與へ、躍如とせしめ、眼に見える様に浮び出させたいと思ふ時に挿入する助詞なのである。—28. frech は「生意氣な」「横滑な」といつても好い。—29. lügen (嘘を吐く) と云ふ動詞と關係がある。—30. 此の ja については、此の章の註 10 を見よ。—31. Räuber に冠詞がないのは、單數ならば ein Räuber と云ふ所だからである。der Räuber の複數は die Räuber だが、ein Räuber の複數は單に Räuber である。つまり einige Räuber (數名の盜賊) と云ふに等しい。—32. umbringen, brachte um, umgebracht 稽す。—33. entführen 誘拐する、渡ふ、連れ出す。ent- といふ前綴は weg, fort, ab, と同じく、(英語の away)「...し去る」の意を持つてゐる。führen は「導く」。—34. 文字通りには、「神に感謝あれ」。「お蔭で」「まあよかつた」と云ふ熟語。—35. これも前述の da habe ich sie! と同じで、『其處に彼女はある』と云へば直譯で、意味は『到頭見つかつた』または『さては歸つて來たか』。—36. 『汝等はすべての盜賊だ』と譯してはいけない。即ち alle Räuber と結び附けては誤で、alle [みんな] は副詞的に考へる。

Er führte sie sogleich vor den<sup>1</sup> Richter. Aber auch der Richter verliebte sich in das Mädchen und sprach: „Dieses Mädchen ist ja meine Sklavin<sup>2</sup>!“ Die sechs aber, trotz<sup>3</sup> ihrer Furcht vor<sup>4</sup> der Macht des Richters, blieben nicht stumm,<sup>5</sup> sondern gerieten in einen

hestigen Streit mit ihm. Aus dem Streit der Worte wurde<sup>6</sup> ein Kampf.<sup>7</sup> Endlich schlug einer<sup>8</sup> der Zuschauer vor,<sup>9</sup> unter den freien<sup>10</sup> Himmel zu gehen und Gott<sup>11</sup> anzurufen,<sup>12</sup> um<sup>13</sup> ihn über<sup>14</sup> die Frage entscheiden<sup>15</sup> zu lassen.

譯。彼は *er* 彼等を *sie* 裁判官の前へ *vor* den Richter 連れて行つた。ところが aber 裁判官も auch der Richter 娘に惚れて verliebte sich in das Mädchen そして言つた und sprach: 「此の娘は我輩の女奴隸ではないか!」 „Dieses Mädchen ist ja meine Sklavin!“ ところが六人の者は Die sechs aber, 裁判官の権力に對する vor der Macht des Richters 彼等の畏怖 ihrer Furcht にも拘らず trotz 黙つてはゐなかつた blieben nicht stumm, それどころか sondern 彼と mit ihm 激しく争ひ始めた gerieten in einen hestigen Streit. 言葉の争ひから Aus dem Streit der Worte 格闘が生じた wurde ein Kampf. 遂に endlich 見物人中の一人が einer der Zuschauer 自由な天の下に赴いて(戸外へ出て) unter den freien Himmel zu gehen そして und 彼(神)をして該問題を決せしめんが爲めに um ihn (Gott) über die Frage entscheiden zu lassen 神に呼び掛ける事を Gott anzurufen 提議した schlug vor.

註。—1. 「方向」を指す vor だから四格支配。—2. Slave, m. 男奴隸に *in* を加へたもの。—3. trotz (英 in spite of) は二格支配の前置詞。次の Furcht (恐怖) は女性故 trotz ihrer Furcht となる。—4. Furcht vor..... は「何々に對する怖れ」——一體に in, an, auf, vor, unter 等空間を指す前置詞は、抽象名詞の前に來ると、全然別な意味を持つものである。—5. stumm (黙したる) は形容詞。stumm bleiben = schweigen (黙する)。—6. werden (なる) の使ひ方には注意を要する。たとへば「彼が大臣になつた」は Er wurde ein Minister と云つても好いが、Aus ihm wurde ein Minister (彼から一人の大臣が生じた)とも云へるのである。此の場合も、前方の云ひ方に變へると Der Streit der Worte wurde ein Kampf (言葉の争ひが格闘になつた)となる。全然同意義である。—7. 戰ひ、争ひ、を意味する字が數個あるが、みんな多少意味が違つてゐる。der Streit 争ひ der Kampf, das Gesetz 闘ひ die Schlacht 戰(奉天戦、海戦等) der Krieg 戰争。—8. 「見物人中の一人」は einer der Zuschauer または einer von den Zuschauern. 一人の見物 ein Zuschauer と云ふのとは云ひ方が違ひ、「一人」が名詞的になるから *er* の語尾を附ける。女ならば eine der Zuschauerinnen となる筈である。—9. vorschlagen (英 to propose) 提議する、は分離動詞。—10. 中世紀に於ける西洋諸國の慣習として、裁判を野天の下で行ふのが例であつた。それは、自由

なる天の下に於ては神が親しく君臨し給ふと信じられてゐたからである。そして裁判を行ふ前には必ず神を呼び (Gott anrufen) 聖書又は法典を開いて、その上に手を置いて、正義の決裁を誓ふのが例であつた。つまり神が天上からみそなはすのに、屋根があつては何だか邪魔になる様に思つたのか、それとも屋内は動ともすれば因縁姑息を意味し内情事に墮する様な氣がしたからであらう。—11. Gott に冠詞が無い理由は、第一卷第四十七頁の下を見よ。—12. anrufen (呼び掛ける) は分離動詞故、「呼び掛ける可く」は zu antufen ではなく anzurufen である。—13. um なる接続詞と、zu を伴ふ不定形とを前後に相呼應せしめると、「……する爲めに」の意になる。此の zu を伴ふ不定法なるものは、英語を知つてゐる人には大抵呑み込めるものだから、説明は第四卷に廻してある。—14. 四格支配の über は英語の about, upon (……に就て) に當る。—15. entscheiden=決裁する。(英 to decide).

Die ganze Gesellschaft<sup>1</sup> begab sich auf einen freien Platz.<sup>2</sup> Der Mönch hob<sup>3</sup> weinend seine Hände hoch und betete laut zum Himmel empor<sup>4</sup>: „Gott des Himmels, sieh<sup>5</sup> auf uns herab! Entscheide du, da wir Menschen nicht entscheiden können! Sage uns, wem<sup>6</sup> von uns das Mädchen gehört. Amen.“ Das ganze Volk<sup>7</sup> rief Amen und wartete still<sup>8</sup> auf<sup>9</sup> die Antwort Gottes. Das Mädchen, das müde war, hatte<sup>10</sup> sich an einen<sup>11</sup> Baum gelehnt.<sup>12</sup> In diesem Augenblick tat<sup>13</sup> sich der Stamm weit<sup>14</sup> auf, nahm sie ganz in sich<sup>15</sup> hinein und schloß sich wieder zu.<sup>16</sup> So, während das ganze Volk sprachlos<sup>17</sup> da stand, wurde Holz<sup>18</sup> wieder zu Holz. Wie alles auf Erden<sup>19</sup> wieder zu seinem Ursprung<sup>20</sup> zurückkehrte.

譯。一行は die ganze Gesellschaft 或る野天の廣場へ auf einen freien Platz 出掛けた begab sich. 僧は Der Mönch 泣きながら weinend その手を seine Hände 高く hoch 舉げ hob そして und 大きな聲で laut 天に向つて zum Himmel empor 祈つた betete: 「天なる神よ „Gott des Himmels, 我等が上を見下し給へ sieh auf uns herab! 我々人間共は決裁し能はざるにより da wir Menschen nicht entscheiden können 汝[これを]決裁せよ Entscheide du! 我々の中の誰に娘が屬するかを wem von uns das Mädchen gehört 我々に曰へかし Sage uns! アーメン」 Amen! 全部の群衆が das ganze Volk アーメンと唱へた rief Amen そして und 静かに still 神の答を auf die Antwort

Gottes 待つた wartete. 草疲れてゐた娘は Das Mädchen, das müde war, 一本の樹に an einen Baum 凈れてゐた hatte sich gelehnt. 此の瞬間に in diesem Augenblick 幹が der Stamm ばつと weit 開いて tat sich auf 彼女を sie すつかり ganz 自分の中へ in sich 取り入れて nahm hinein そして und また元通り wieder 閉ぢてしまつた schloß sich zu. 斯くの如くにして So 全衆が das ganze Volk 啓然として sprachlos 其の場に da 停立してゐる stand 間に während 木材は Holz またもや wieder 木材と化してしまつた wurde Holz. 凡そ地上に於ける凡ての物が alles auf Erden 復び wieder その根源に zu seinem Ursprung 歸る zurückkehrte が如くに wie.

註。——1. Gesellschaft (英 company) は一行、一座、連中、一同の意。 ganz (英 whole) が附いても結局同じ事である。——2. frei は前にも出た如く、自由な、即ち青天の下の、の意。 Platz はたとへば日比谷のやうな、または上野のやうな、群衆が集合し得る廣場を云ふ。日本の都會には比較的少いが西洋の町には必ず街路の會するところに圓形の Platz がある。Marktplatz といふのもそれである。殊に伊太利の都會の piazza (同意) は名高い。——普通 Platz を「場所」の意に用ひるが、(即ち Ort, Stelle) それよりも狹義に用ひられるのが如上の意味である。——3. heben, hob, gehoben 揚げる。——4. empor は「ずっと上方へ」「高く」といふ意の前綴である。此處では emporheben といふ分離動詞として考へても宜しいが、それよりも正しいのは zum Himmel empor (天に向つて) と云ふ句があると覺えることである。——5. sehen に対する命令形。——6. wer (誰) の三格。wer は wer (誰が) wessen (誰の) whom (誰に) wen (誰を) と格變化をする。第二卷 166。——7. Volk, n. (英 people) は群衆 (Masse) の意に用ひる。民族と云ふ時とは少し意味が違ふ。——8. still=stumm。——9. warten (待つ) の用法は auf etwas (四格) warten. 即ち warten は auf を「支配」すると云ふ。——10. sich lehnen は凭り掛かる、の意であるが、此の時に初めて凭り掛かつたのではなく、此の時より暫く前に凭り掛かつて、此の瞬間に既にもたれて居たのであるから、過去完了を用ひたのである。(第二卷 110)。——11. 方向と動きとを表はす an 故四格支配。——12. sich lehnen (凭り掛けらる)=sich stützen 身を支へる。——13. auftun は「あける」——而も auftun は「あく」。——14. weit を「ばつと」と譯したのは意譯で、本當は「廣く」の意。 breit と同意。——15. in sich の sich は四格である。「自身の中へ」と方向を指すからである。——16. sich zuschließen (閉ぢる)=sich zusetzen, sich zusammendrücken.——17. sprachlos (言葉なく) を「啓然として」と譯して置いた。losなる語尾は英語の -less に相當する。——18. Holz に冠詞が附いてゐないのには譯がある。Das Holz と云ふと、「木材なるもの」「木といふもの」といふ、一般的な總稱となつてしまふ。たとへば「木材は軽いとしたものだ」(Das Holz ist leicht) と云つた様

な時には das Holz で宜しいが、木製の娘の場合には、此の娘が直ちに以て木材そのものであるとは云へない。普通の名詞ならば不定冠詞を附けて ein Holz とでも言ひたい所である。ところが、木材とか砂糖とか金屬とか雲とか云つたやうなものは、「量」は持つてゐても「數」は持つてゐない。量ることは出來ても數へる事は出來ない。勿論 ein Stück Holz (一塊の材木) と考へて、その塊を算へることは出来るが、物質として見たる木材そのものには數は無いのである。かう云ふ種類の名詞を物質名詞と云つて、不定冠詞は附けられない事になつて居る。附けるとすれば、一般的に云ふ際には定冠詞を、或る分量を指す際には無冠詞と云ふ事になつてゐる。勿論例外はある。たとへば、das ist ein hartes Holz! (といつは隨分固い木材だな) 等、形容する時には、「一種の」と云ふ意味で不定冠詞を附ける。また ein Stück (風呂敷) などと、元來物質名たる Stück (布) といふ字を轉用する時には不定冠詞も用ひられる。——此の物質名詞といふものを冠詞の上で區別するのは、ドイツ語のみならず、西洋語全般に亘る現象であるから特に注意する必要がある。——19. auf Erden (此の世では) は熟語。Erde, f. (地、土地、地球) は、單数では、女性名詞だから語尾を探らない筈であるが、熟語だから例外である。冠詞が附いてゐないのも其の爲めである。——auf der Erde と云へば「地べたの上に」と云ふ事になつてしまふ。——20. Ursprung (英 origin) (根源) は ur- と云ふ「根源」を意味する前綴と、「發する」と云ふ springen から成り立つてゐる。ur- の附いた語の例には Urmensch 原始人 Urwelt 原始世界 Urwald 原始森 Urbater 祖先、宗祖、uralt 太古の、等がある。

## 文 法 講 座 目 次

第二卷

### 第十三講 動詞の三要形

## 第十四講 六つの時稱の構成法

109. 時稱に六種ある譯は? ...	... ... ... ... ...	117
110. 完了形は相對時稱なり ...	... ... ... ... ...	117
111. 完了形はどうしても必要なり ...	... ... ... ... ...	119
112. 各時稱の組み立て方 ...	... ... ... ... ...	119
113. <i>haben</i> か <i>sein</i> か? ...	... ... ... ... ...	121
114. 獨逸語に進行形なし ...	... ... ... ... ...	123

第十五講 受動形と能動形

115. 受動形は werden と過去分詞 [ich werde geliebt.] ...	... ... ...	124
116. 能動形を受動形に改める練習 (von, durch, mit の用法)	... ...	125
117. 變な受動的語法 ...	... ... ... ... ...	126
118. 受動形の形容詞化 ...	... ... ... ...	126

## 第十六講 動詞現在人稱變化の詳細

## 第十七講 動詞過去の人稱變化

	頁
123. 過去人稱變化の圖式	138
124. 實例	138
125. 形態論的考察	139
126. <i>follen</i> の變化	139

## 第十八講 倒置法の詳細

127. 主語、定形、以外が先頭に來れば倒置す	141
128. 質問の際、疑問詞ある際は倒置す	142
129. <i>Wenn</i> [もしも] を使ふ代りに倒置す	142
130. <i>Ob</i> [whether] を使ふ代りに倒置す	142
131. 感嘆句に於ける倒置	143
132. 副文章の後に來る主文章の倒置	144
133. 挿入句に於ける倒置	145

## 第十九講 人代名詞

134. 人代名詞の格變化	146
135. 人代名詞の二格は物主代名詞とどう違ふか?	147
136. 前置詞の格支配	148
137. 動詞の格支配	148
138. 形容詞の格支配	149

## 第二十講 前綴(或は接頭語)

139. 複合動詞	151
140. 非分離動詞	151
141. 分離しない前綴	152
142. 分離動詞	152
143. 分離する前綴	153
144. 造語法の一例 ( <i>auf</i> と <i>zu</i> )	154
145. <i>hin</i> と <i>her</i>	155
146. 分離したりしなかつたりの前綴	156
147. 一見分離動詞の如く見える非分離動詞	157

## 第二十一講 分離動詞の用法

	頁
148. 文章内に於ける前綴の位置	159
149. 前綴と本動詞とを一字に書く場合	160
150. 分離動詞の三要形	161
151. <i>zu</i> を伴ふ不定法の形	161
152. 成句の分離動詞化する傾向	162
153. 前綴後置に現れた獨逸國民性	163

## 第二十二講 再歸動詞

154. 再歸と云ふ意味	166
155. 三格のを伴ふ再歸動詞もあり	167
156. 再歸代名詞	167
157. 再歸動詞の人稱變化	168
158. 複數人稱の再歸形は二つの解釋を許す	169
159. 相互代名詞	170
160. 四格を伴ふ再歸動詞はそれ以外決して四格の補足語を探らず	171
161. 二格支配の再歸動詞	171

## 第二十三講 關係代名詞

162. 先行詞 ( <i>Unterzedehs</i> )	173
163. 定關係代名詞	174
164. 定關係代名詞の性・數・格の決め方	174
165. 日本語の悲哀	175
166. 關係代名詞二格の用法	176
167. 關係代名詞と前置詞	177
168. 不定關係代名詞	178
169. 疑問代名詞	179
170. <i>was</i> と前置詞との結合	179
171. 文意を受ける <i>was</i>	181
172. 關係代名詞 <i>welcher</i> の附加語的用法	182
173. <i>wie</i> と人代名詞で表はす關係文	182
174. <i>wo</i> を用ひる場合	183
175. <i>da</i> との結合形を關係代名詞に用ひる事あり	184

## 第二十四講 指示詞

	頁
176. 指示形容詞	185
177. 指示形容詞と定冠詞との差別	186
178. 指示代名詞	187
179. <i>beren</i> と <i>berer</i>	188
180. 指示詞 <i>derjenige</i>	188
181. 指示詞 <i>derselbe</i>	189
182. <i>dieser</i> と <i>jener</i>	189
183. 不定代名詞 ( <i>man, jemand etc.</i> )	190
184. 不定の意を強める <i>irgend</i>	191
185. <i>etwas Gutes, nichts Gutes.</i>	192
186. 無性無數の <i>es, das, dies.</i>	192
187. <i>es ist</i> と <i>das ist</i>	193
188. <i>das</i> と前置詞との結合	195

## 第二十五講 形容詞の名詞化

189. 名詞を省くのと名詞化とは違ふ	197
190. 形容詞の名詞化	197
191. 形容詞から轉來した元來の名詞	198
192. 名詞化した形容詞と元來の名詞との格變化の相違 ( <i>die Fremde, die Fremde</i> )	199
193. 過去分詞の名詞化	200
194. 現在分詞の名詞化	202
195. 中性の際の意味	203
196. 集合名詞的な複數	203
197. 小書する複數	204
198. 一般的法則(意味を知る上の)	204

関口存男生誕100周年記念著作集

ドイツ語学篇 5

独逸語大講座 第1巻

独逸語大講座 第2巻

1994年2月10日 第1版発行

著者 関口存男(せきぐち つぎお)

発行者 前田完治

発行所 株式会社 三修社

〒110 東京都台東区下谷1-5-34

電話 03-3842-1711(代表) 03-3842-1631(編集)

編集担当 柴田明子

印刷所 株式会社 平文社

製本所 永井紙器印刷株式会社

製函 装幀 樋口 新

原本: 独逸語大講座 第1巻 / 1931.1.5. 初版 外国語研究社

独逸語大講座 第2巻 / 1931.2.15. 初版 外国語研究社

©1994 Printed in Japan ISBN4-384-00060-X C1384

本著作集の中には、人権の侵害となる差別的な表現が見られます。しかし、著者自身による訂正が不可能なこと、著作や翻訳作品の時代背景を考慮いたしまして、そのままの形で掲載することにいたしました。読者の皆様にはこの点をご理解いただき、良識をもってこの著作集をご愛読くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 三修社

## ④ &lt;日本複写権センター委託出版物&gt;

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3269-5784)にご連絡ください。